

始

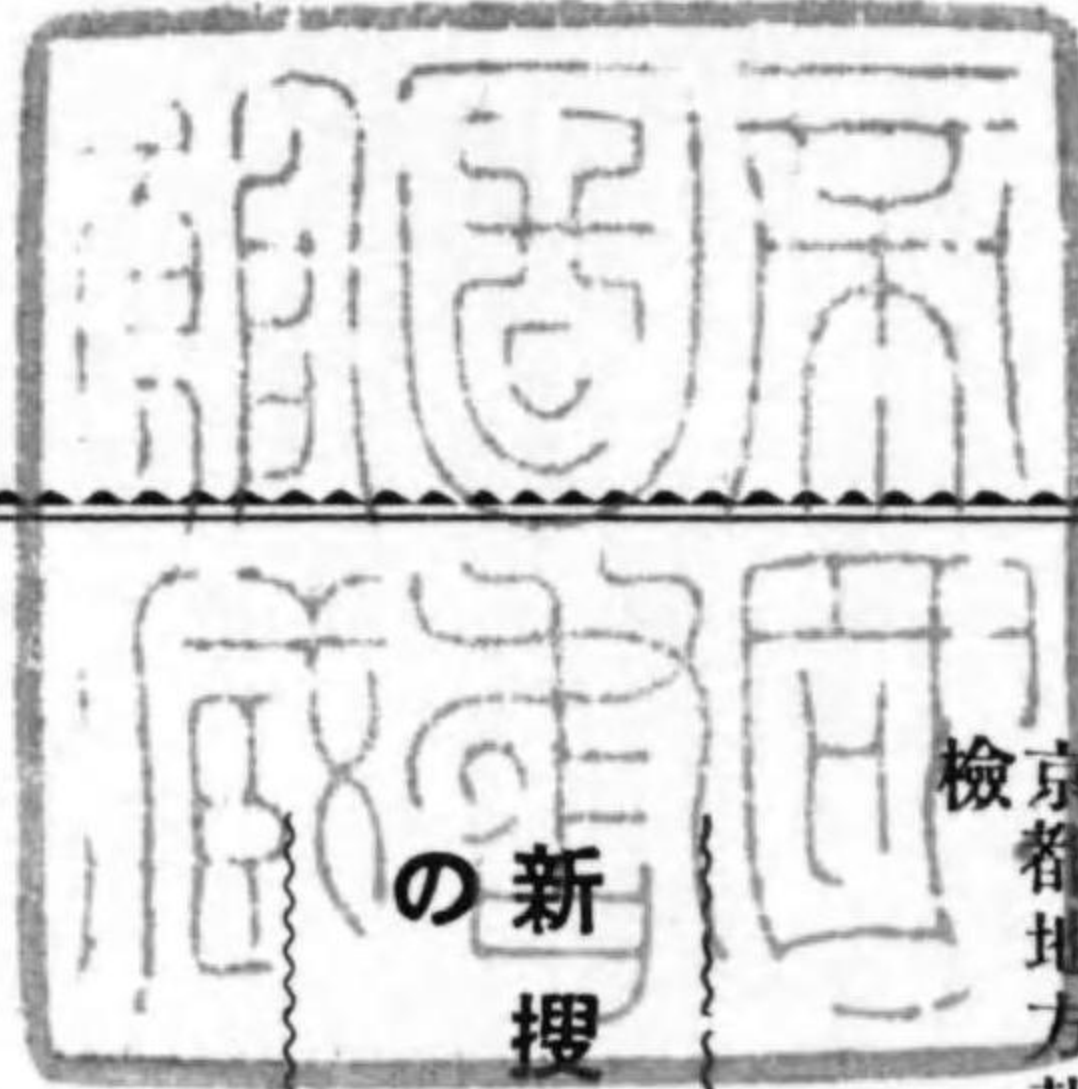


警察講習所顧問
法學博士 松井 茂閣 下序
京都地方裁判所
検事 安井 榮三 著

の新捜査
實例篇

東京 松華堂發行

時231
580



警察講習所顧問
法學博士 松井 茂閣下題字
京都地方裁判所
檢事 安井 榮三 著

の新捜査
實例篇

東京 松華堂發行



序

學友安井榮三君、夙に警察界に入り、往年挺んでられて内務屬となり、後、司法官試験に登第して檢察官となり、令名噴々たり。是より先、君の始めて司法界に入るや、一日余を訪ふて所見を求めらる。余乃ち答へて曰く、願くば我國警察界と檢察界との間に介立し、其の連鎖となり、國家の爲めに大に裨益されんことを望むと。君深く其の言を諒とし、爾來終始一貫以て今日に至る、蓋し現代警察界の學友が君を敬慕して衷心より先輩視して居るが如き、且つ司法界の長老が大に君の勞を多とし、特に君に囑するに司法警察教養の重任を以てするが如きも、畢竟君の至誠の致す所にして、君の今日あるは決して偶然

に非ざるなり。而して君曩に斯界のめに有益なる著書を公にし、今又更に『新捜査^の実例篇』を公にせられ、序を余に徴せらる。之を閲するに、全篇悉く君の體驗に基けるもの、其の實例三百種の多きに及び、眞に司法警察の事務に従事する者の活指針にして其の世を裨益すること鮮少に非ざるべしと信ず。今や法學界の新傾向は徒らに概念的思惟や論理的根據に拘束さるることなく、寧ろ人間の直覺的感情清算に重きを措くこととなり、其の結果は自然に民族的傳統性の一君萬民の國家觀念に立脚しつつあるの情勢を呈し來り、従つて從來の如き概念的分析法より脱却して現實的なる生活の内容や事物の本質を究めることとなりつつあるの實狀なり。而して此の時に當り、偶々君の貴き體驗に基ける著書の公けにされるこ

とは、頗る時の宜しきを得たるものと稱すべきなり。

君今序を余に請はるるに當り、既往の交情は誼に於て辭すべからざるものあり、乃ち喜んで之を諾し、茲に廣く此の好著を讀衆に紹介すると云爾。

昭和十四年七月

東京に於て

松 井 茂

「新捜査
の 棗」 實例篇目次

司法警察官意見書篇

第一例	一
第二例	五
第三例	八
第四例	一〇
第五例	一三
第六例	一六
第七例	一九
第八例	二三
第九例	二六

第十例 二九

第十一例 三三

第十二例 三六

起訴不起訴篇

起訴不起訴篇 四一

詐欺 (公判請求) 四二

詐欺 (山菜子詐取)(公判請求) 四三

詐欺 (起訴猶豫) 四三

詐欺 (起訴猶豫) 四四

詐欺 (起訴猶豫) 四四

詐欺 (起訴猶豫) 四五

詐欺 (起訴猶豫) 四六

詐欺 (無錢飲食)(起訴猶豫) 四七

詐欺 (嫌疑ナシ) 四八

詐欺 (嫌疑ナシ) 四九

横領 (起訴猶豫) 四九

横領 (自首)(起訴猶豫) 五〇

横領 (嫌疑ナシ) 五一

業務横領 (起訴猶豫) 五二

業務横領 (起訴猶豫) 五三

業務横領 (嫌疑ナシ) 五四

竊盜・詐欺 (起訴猶豫、嫌疑ナシ、罪トナラズ) 五五

横領・詐欺 (起訴猶豫) 五七

横領・詐欺 (起訴猶豫、確定判決) 五八

電信法違反詐欺 (起訴猶豫) 六〇

詐欺私文書偽造行使 (公判請求) 六〇

詐欺横領私文書偽造行使 (起訴猶豫) 六三

横領私文書偽造同行使詐欺未遂 (起訴猶豫) 六五

横領有價證券偽造行使詐欺未遂 (起訴猶豫) 六六

有價證券偽造行使詐欺 (起訴猶豫) 六八

公正證書原本不實記載同行使 (告訴)(嫌疑ナシ) 六九

恐喝・傷害 (起訴猶豫) 七〇

傷害 (起訴猶豫) 七一

傷害 (起訴猶豫) 七一

傷害 (起訴猶豫、嫌疑ナシ) 七二

傷害 (嫌疑ナシ、起訴猶豫) 七三

業務上過失傷害 (起訴猶豫) 七四

業務上過失傷害 (起訴猶豫) 七五

業務上過失傷害 (嫌疑ナシ) 七六

業務上過失傷害 (嫌疑ナシ) 七六

業務上過失傷害 (嫌疑ナシ) 七九

業務上過失傷害 (嫌疑ナシ) 八一

特殊犯罪事實篇

第一輯 會社

幽靈會社 (公正證書原本不實記載行使詐欺) 九一

ボロ會社 (詐欺) 九二

銀行不正重役Ⅱ其の一 (背任) 九四

銀行不正重役Ⅱ其の二 (背任) 九七

信用組合の不正理事 (業務上横領、有價證券偽造行使) 九九

匿名組合利用の詐欺 (詐欺、公正證書原本不實記載行使) 一〇一

第二輯 偽物

不正株Ⅱ其の一 (有價證券偽造行使詐欺) 一〇三

不正株Ⅱ其の二 (有價證券虚偽記入行使詐欺) 一〇六

不正株Ⅱ其の三 (詐欺) 一〇八

ハ ム (有價證券偽造行使詐欺) 一〇九

農工債券偽造 (有價證券偽造行使詐欺) 一一〇

検査票冒用 (公務所記號不正使用) 一一一

偽造印紙 (印紙犯罪處罰法違反詐欺) 一一三

質幣Ⅱ其の一 (通貨偽造) 一一四

質幣Ⅱ其の二 (通貨偽造行使) 一一五

支那紙幣 (外國銀行券偽造準備) 一一六

偽小判 (詐欺) 一一八

ペーパー師 (詐欺) 一二八

空荷爲替 (有價證券偽造記入行使詐欺) 一二九

偽造商標 (商標法違反及詐欺) 一三三

偽血清 (公務所記號偽造不正使用、私文書偽造行使詐欺) 一三三

第三輯 手形、取込

手形横領Ⅱ其の一 (横領) 一三四

手形横領Ⅱ其の二 (横領) 一三六

偽辯護士 (詐欺、横領) 一三六

不正番頭 (背任) 一三八

取込詐欺Ⅱ其の一 (詐欺) 一三〇

取込詐欺Ⅱ其の二 (詐欺) 一三一

取込詐欺Ⅱ其の三 (詐欺) 一三三

第四輯 特殊詐欺

寫字生募集 (詐欺) 一三四

結婚詐欺 (詐欺) 一三五

失效保險 (詐欺) 一三六

保險信託と佛貨公債 (私文書偽造行使詐欺) 一三八

保險詐欺 (放火) 一四〇

電話詐欺Ⅱ其の一 (詐欺) 一四一

電話詐欺Ⅱ其の二 (私文書偽造行使詐欺) 一四四

利權詐欺 (詐欺) 一四六

宙返り (詐欺) 一四八

老舗潰し (詐欺) 一四九

土砂流し (詐欺) 一五一

盜電 (電氣事業法違反並詐欺幫助) 一五三

當座資金詐欺 (詐欺) 一五四

自己 (詐欺) 一五五

賴母子 (詐欺) 一五五

第五輯 賭博詐欺

賽本引 (賭博場開張、同幫助、常習賭博) 一五六

チーハー (常習賭博、同幫助、犯人隠避) 一六〇

三十丁張 (取引所法違反) 一六二

コキ (賭博) 一六三

赤黒 (詐欺) 一六三

モミ (詐欺) 一六四

鹿追 (詐欺) 一六五

(一) 「カツバ」利用 一六六

(二) 「見合相場」利用 一六八

(三) 「チヨボ」利用 一六九

(四) 「手本引」利用 一七一

スキツチ (詐欺) 一七二

第六輯 争議

- 争議Ⅱ其の一 (暴力行爲等處罰ニ關スル件違反).....一七三
- 争議Ⅱ其の二 (暴力行爲等處罰ニ關スル件違反、公務執行妨害、傷害).....一七四
- 争議Ⅱ其の三 (暴力行爲等處罰ニ關スル件違反).....一七七
- 争議Ⅱ其の四 (艦船損壞、業務妨害).....一七八

第七輯 妨害罪

- 虚説流布 (業務妨害).....一七九
- 威力Ⅱ其の一 (住居侵入、業務妨害).....一八二
- 威力Ⅱ其の二 (暴力行爲等處罰ニ關スル件違反、業務妨害).....一八三
- 公務妨害Ⅱ其の一 (公務執行妨害).....一八四
- 公務妨害Ⅱ其の二 (公務執行妨害、傷害).....一八五
- 監禁Ⅱ其の一 (不法監禁).....一八五
- 監禁Ⅱ其の二 (不法監禁).....一八六
- 破牢 (逃走).....一八八

第八輯 交通

- 汽車 (業務上過失汽車破壊、傷害、同致死).....一八八
- 電車 (業務上過失傷害、同致死、電車破壊).....一九一
- (一) 電車運轉手.....一九一
- (二) 電車運轉手.....一九二
- (三) 電氣局教習所教員.....一九三
- (四) 車掌.....一九四
- (五) 踏切番.....一九五
- 自動車 (業務上過失傷害、同致死、過失致死、自動車取締令違反).....一九五
- (一) 自動車運轉者.....一九六
- (二) 自動車運轉者.....一九六
- (三) 自動者運轉者.....一九七
- (四) 自動車運轉者.....一九八
- (五) 自動車運轉者.....一九八

(内) 助手 (過失致死、自動車取締令違反) 109

リヤカー (業務上過失傷害) 100

荷馬車 (業務上過失傷害) 101

身替り (自動車取締令違反、業務上過失傷害、犯人隠避) 101

無免許運転 (自動車取締令違反) 101

エレベーター (業務上過失傷害) 101

飛行機 (業務上過失飛行機破壊、致死) 105

起重機 (業務上過失致死) 106

第九輯 借家..... 106

朝鮮人借家Ⅱ其の一 (詐欺、背任) 106

朝鮮人借家Ⅱ其の二 (詐欺、恐喝) 111

朝鮮人借家Ⅱ其の三 (住居侵入、詐欺及恐喝) 111

朝鮮人借家Ⅱ其の四 (恐喝未遂、横領、差押標示無効) 114

家屋明渡 (建造物侵入、封印損壞) 116

第十輯 恐喝

事件師 (恐喝、同未遂) 118

興信所員 (恐喝) 111

自動車助手 (恐喝、業務妨害) 111

新聞記者 (恐喝、公務執行妨害、郵便法違反) 113

ジゴマ (恐喝未遂) 116

ヘンブリ (恐喝) 117

第十一輯 暴力的行爲

拳銃と刀剣 (殺人、銃砲火薬類取締法及同法施行規則違反) 116

脅迫 (傷害、暴力的行爲等處罰ニ關スル件違反) 119

タカリ (常習強談威迫) 120

示威脅迫 (多衆示威脅迫) 121

密會威迫 (常習強談威迫) 121

數人強談 (數人共同強談威迫) 121

團體威力……………二三四

ボロ新聞Ⅱ其の一……………二三四

ボロ新聞Ⅱ其の二……………二三五

ボロ新聞Ⅱ其の三……………二三六

所謂ユスリ……………二三六

悪性物乞……………二三七

第十二輯 誘拐……………二三八

誘拐目的の推移 (結婚營利、國外移送誘拐)……………二三八

甘言誘拐 (營利國外移送誘拐)……………二四〇

同棲誘拐 (結婚誘拐)……………二四一

戀愛誘拐 (結婚營利、國外移送誘拐)……………二四三

監督中斷になる誘拐 (營利誘拐)……………二四五

諸方誘拐 (猥褻、營利誘拐)……………二四六

常習誘拐 (營利誘拐)……………二四七

第十三輯 其他

幼女誘拐 (猥褻、誘拐、強制猥褻)……………二四八

さんすい (瀆職)……………二四九

偽證 (偽證、同教唆)……………二五〇

誣告 (誣告)……………二五一

淫行勸誘 (淫行勸誘)……………二五一

墮胎Ⅱ其の一 (墮胎)……………二五三

墮胎Ⅱ其の二 (墮胎)……………二五四

強要 (強要未遂)……………二五五

失火 (失火)……………二五六

阿片煙 (阿片煙販賣、同吸食)……………二五七

場外取引 (取引所法違反)……………二五八

海港犯 (關稅法違反)……………二五八

選舉事犯篇

金錢交付、供與……………二六三

事後報酬……………二六四

事後報酬……………二六四

供與（立候補前）……………二六四

受供與（立候補前）……………二六五

受供與（立候補前）……………二六五

受供與（町内會利用）……………二六六

饗應（立候補前）……………二六七

饗應（立候補前）……………二六七

被饗應……………二六八

饗應、非合法運動……………二六八

戶別訪問……………二六九

戶別訪問、非合法運動……………二七〇

運動費用支出……………二七〇

利害關係誘導、立候補斷念……………二七一

金錢供與（運動斷念）……………二七二

小裁判篇

第一例 業務上横領……………二七五

第二例 逃走未遂及竊盜……………二七七

第三例 信書開披、信書隱匿……………二七八

第四例 通貨偽造行使……………二八一

第五例 公文書偽造行使詐欺……………二八三

第六例 公正證書原本不實記載行使……………二八七

第七例 署名偽造、印章偽造、私文書偽造……………二八八

第八例 賭博開張、常習賭博……………二九三

第九例 強盜豫備……………二九四

第十例 準強盜傷……………二九五

第十一例 殺人……………二九六

第十二例 強盜殺人……………二九九

第十三例 尊屬傷害致死……………三〇一

第十四例 強姦致傷……………三〇三

第十五例 放火未遂……………三〇四

經濟統制事犯篇……………三〇七

金

第一例 產金法……………三〇九

鐵鋼

第二例 鐵鋼配給統制規則……………三一〇

第三例 鐵鋼工作物築造許可規則……………三一

非鐵金屬

第四例 鋼製品ノ製造制限ニ關スル件……………三二一

第五例 鋼製品ノ製造制限ニ關スル件……………三二二

第六例 銅、鉛、錫等配給統制規則……………三二二

第七例 銅使用制限規則……………三二三

纖維

第八例 絲配給統制規則……………三二四

第九例 綿製品ノ販賣制限ニ關スル件……………三二五

第十例 綿製品ノ販賣制限ニ關スル件……………三二六

燃料

第十一例 揮發油及重油販賣取締規則 (無券賣渡)……………三二六

第十二例 揮發油及重油販賣取締規則 (申請書虛偽記載)……………三二七

皮革

第十三例 皮革使用制限規則……………三二八

第十四例 皮革配給統制規則……………三八

ゴム

第十五例 ゴム靴ノ販賣制限ニ關スル件……………三〇

物價

第十六例 物品販賣價格取締規則 (綿布)……………三二

第十七例 物品販賣價格取締規則 (自動車タイヤ)……………三二

第十八例 物品販賣價格取締規則 (屑鐵)……………三三

第十九例 人造絹絲販賣價格取締規則……………三三

第二十例 綿絲配給統制規則・綿絲販賣價格取締規則・ステープルファイバー及ス

1 テプルフアイバー 絲販賣價格取締規則……………三四

「新捜査の栞」 實例篇目次 終

司法警察官意見書篇

〔第一例〕

意見書

中
○
岩
○

一、犯罪發覺ノ原因

傷害現行犯逮捕並其取調中發覺シタル竊盜恐喝非現行犯

二、前科ノ有無

昭和七年十一月十日××地方裁判所ニ於テ賭博開帳罪ニヨリ懲役三月ノ言渡ヲ受ケ同月十七日判決確定シタルモ所在不明ノ爲刑ノ執行ヲ受ケ居ラサルモノ

三、爵位勳功記章褒章年金恩給等ノ有無

ナシ

四、犯罪事實

被疑者ハ昭和六年二月頃ヨリ××××××××××××一丁目二百九十番地ニ於テ人夫供給業ヲ

司法警察官意見書篇

營ミ常ニ數名ノ人夫ヲ同居セシメ居リタルガ

第一

(イ) 昭和七年十月十日前記元住居二階人夫部屋ニ吊リアリタル同居中ノ人夫左右田〇〇外一名ノ所有ニ係ル人絹八反袴着物及錦紗兵兒帶各壹點(時價拾六圓)ヲ竊取シ

(ロ) 同年同月十二日右同所ニ於テ被疑者カ同居人菅〇〇ヨリ委託ヲ受ケ保管中ノ行李内ヨリ同人所有ノ文化銘仙着物外衣類三點(時價計四拾參圓)ヲ竊取シ

第二 同年同月二十九日豫テ洗濯ノ爲メ市××區××町二丁目二百十番地洗濯業タルマ屋事春名〇〇〇〇方ニ委託シ置キタル夏服上衣及サージ合ズボン各壹點(時價二、三圓位)ヲ被疑者ノ從弟ニシテ同居シ居リタル稻本〇〇ガ被疑者ノ使者ト詐リ右洋服ヲ受取り行衛ヲ晦マシタルコトヲ聞知スルヤ被疑者ガ當時××方面ノ顔役トシテ知ラレタル××系××組ノ配下タリ且自ラモ乾分若干ヲ擁シ界限ニ相當ノ威勢ヲ有シ居リ前記春名等モ之ヲ熟知シ居ルヲ奇貨トシ委託物返還損害賠償ノ要求ニ名ヲ藉リ所謂身内者タルノ威力ヲ示シ春名ヲ脅迫シテ金錢ヲ喝取セムコトヲ企テ

同年同月三十日乾分水〇光〇ヲ同伴シ前記春名〇〇〇方ニ赴キ同人不在ナリシ爲同人ノ妻ス

ミエニ對シ「俺ノ洋服ヲ紛失シ乍ラ其ノ儘ニシテ居ルトハ不都合ダ談判スルノダカラ主人ヲ出セ六十圓ノ辨償金ヲ取ラネバナラヌ」ト威迫シ置キ更ニ同年十一月三日被疑者ノ舍弟分タル德〇繁〇ヲ同伴シテ春名方ニ赴キタルトコロ又復主人不在ナリシヲ以テ同人ノ妻女ニ對シ「主人ハ留守ダ留守ダト逃ゲ廻ツテ居ルノダ今日ハ待ツ事ガ出來ヌカラ直グ洋服ヲ此處ニ揃ヘテ出セ主人ガ戻ツタラ間違ナク俺ノ所ヘ寄越セ」等洋服ノ春名方ニ存セザルコトヲ知悉シ乍ラ故ラニ激越ナル語調態度ヲ以テ其ノ返還若クハ賠償金交付ヲ迫リ之ニ應ゼザルニ於テハ春名等ノ身體財産ニ危害ヲ加ヘ又ハ其ノ業務ヲ妨害スル等ノ報復手段ニ出デムトスルガ如キ氣勢ヲ示シ以テ春名〇〇〇及其ノ妻スミエヲ長怖セシメ因テ同年同月五日同人ヨリ前記被疑者ノ元住居ニ於テ松尾〇〇〇ヲ通ジテ示談金名下ニ現金貳拾五圓也ノ交付ヲ受ケテ恐喝ノ目的ヲ遂ゲ

第三 昭和七年十二月七日××××××××元町一丁目二十番地先街路ニ於テ坂本〇〇ヨリ賣掛代金ノ請求ヲ受ケ面罵セラレタルニ激昂シ所携ノ匕首ヲ以テ同人ノ左肩胛關節部ニ斬リ付ケ因テ治療三週間ヲ要スル傷害ヲ加ヘタルモノナリ

孰レモ其當時刑ノ執行終了

三、爵位勳功記章褒章年金恩給等ノ有無

ナシ

四、犯罪ノ事實

被疑者ハ

(一) 昭和九年一月三十日午後十時頃××××區霞町百八番地ナル一面識ナキ西洋料理業明陽軒事太田○○方ニ赴キ當時懷中僅カニ二十錢ヲ所持シタルノミニテ他ニ代金支拂ノ見込ナク固ヨリ代金支拂ノ意思ナキニ拘ハラズ恰モ之アルモノ、如ク顧客ヲ装ヒ家人ニ麥酒洋食ヲ注文シ同人ヲシテ被疑者ガ相當金錢ヲ所持シ居リ即時代金ヲ支拂ヒ吳ル、モノト誤信セシメ因テ注文ニ應ジテ價格金二圓四十錢ニ相當スル飲食物ヲ提供セシメ之ヲ飲食騙取シ

(二) 前同日午後十一時頃同市××區×××三丁目中通市場内川竹○○商店家人不在ニ乗ジ表障子ヲ開キ屋内ニ侵入シ同家三疊ノ間ニ置キアリタル風呂敷包ノ内容品ヲ物色中偶々同家ニ居合セタル木島○○當十七年ニ對シ偽計ヲ用ヒテ身體ヲ檢索シ同人着用ノ洋服上衣

ノ右ポケットニ所持セル金五圓貳錢在中蓋口一個ヲ竊取シタルモノナリ

五、證據

被疑者ノ自供並太田○○ノ被害始末書木島○○、川竹○○各被害聽取書

六、法律ノ適用

(一) 刑法第二百四十六條第一項

(二) 同法第三百十條、同法第二百三十五條

七、犯罪ノ動機及情狀

被疑者ハ少年時ヨリ不良徒輩ノ感化ヲ受ケテ既ニ前科ニ犯リ重ネ昨夏三年ノ處刑ヲ終ヘテ××刑務所ヲ出所シ其後居所轉々正業ニ親マズ遂ニ生活ニ窮シ再ビ犯罪ヲ敢行シタルモノニシテ殊ニ住居不定無職浮浪ノ徒ニシテ毫モ改悛ノ情ヲ認メ難ク何等酌量ノ點ヲ發見セズ嚴重處罰ヲ要スルモノト思料ス

昭和九年二月三日

××府○○警察署

司法警察官 警部補

○ ○ ○ ○ ○

××區裁判所檢事局

檢事 ○ ○ ○ ○ 殿

〔第三例〕

意見書

○ 下 ○ 太 ○

當二十八年八月生

一、犯罪發覺原因

被害者ノ告訴ニ依ル傷害被疑事件、非現行犯

二、前科ノ有無

無キ見込

三、爵位勳功記章褒章恩給年金等ノ有無

ナシ

四、犯罪事實

告訴人被告訴人共ニ昭和十三年一月二十一日大阪毎日新聞京都支局主催ニ係ル伊勢參宮旅行ニ加ハリ同日午後五時頃其ノ歸途ノ車中ニ於テ告訴人ハ被告訴人所持ノ折箱ヲ無斷ニテ放棄蹂躪シタル爲被告訴人ハ大イニ憤リ直チニ告訴人ノ頭部及肩部ヲ手ニテ毆打シ或ハ足蹴ニシテ頭部ニ治療三日間ヲ要スル打撲傷ヲ與ヘタルモノナリ

五、證 憑

(一) 被疑者(被告訴人)ノ自白

(二) 之ニ一致スル

(イ) 被害者○藤○太○ノ聽取書、同人ノ告訴狀

(ロ) 同人ニ對スル醫師診斷書

(ハ) 目擊者○野○子ノ聽取書

ニ依リ證明十分ナリ

六、犯罪ノ動機情狀

告訴人ガ傷害ヲ受ケタル動機ヲ作りタリトハ云ヘ之ニ對スル被告訴人ノ措置ハ當ヲ得ズ多少

酒氣ヲ帶ビタル結果トハ認ムルモ前後ノ分別ナキニ至ル迄ニ至リ居ラザルヲ以テ相當處分ノ要アリト認ム

七、法律ノ適用竝處罰ノ要否意見

刑法第二百四條ニ該當スルヲ以テ相當處分相成ルベキモノト認ム

昭和十三年二月十九日

××府〇〇〇警察署

司法警察官 警部補

〇 〇 〇 〇

××區裁判所檢事局

檢事 × × × 殿

〔第四例〕

意見書

〇 井 〇 四 〇

當四十年

一、犯罪發覺原因

被害現場ノ守衛申告ニ因ル竊盜被疑事件ノ非現行犯

二、前科ノ有無

放火未遂並竊盜前科四犯ヲ有ス

第一犯 大正二年三月七日××區裁判所ニ於テ放火未遂竝竊盜罪ニヨリ懲役五年

第二犯 大正七年十一月五日同區裁判所ニ於テ竊盜罪ニヨリ懲役二年

第三犯 昭和九年二月十日××區裁判所ニ於テ同罪ニヨリ懲役一年

第四犯 昭和十一年五月十八日同區裁判所ニ於テ同罪ニヨリ懲役一年六月

ニ各處セラレ

昭和十二年一月十七日××刑務所ヲ出所ス

三、爵位勳功記章褒章恩給年金等ノ有無

ナシ

四、犯罪事實

被疑者ハ遊興費ヲ得ンガ爲メ昭和十三年二月一日午後三時頃××市××區××町××帝國

司法警察官意見書篇

大學新館建築工事場事務所内ニ於テ工事人株式會社松村組所有ニ係ル寫眞機一、衣類三、砲金製蝶番二、風呂敷一、計二十七點時價金百六圓五十錢ヲ竊取スル等昭和十二年十二月十一日ヨリ昭和十三年二月一日迄ノ間前後十九回ニ亙リ犯意ヲ繼續シテ鐵筋、銅板其ノ他雜品時價總計金四百四十七圓九十九錢相當ノモノヲ竊取シタルモノナリ

五、證憑

右事實ハ

(一) 被疑者ノ自白

(二) 之一致スル

(イ) 被害者〇本〇郎外十三名ノ被害届書及盜難始末書

(ロ) 古物商〇上〇吉等ノ買取始末書

(ハ) 質商〇野〇三外三名ノ買取始末書

等ニヨリ證明十分ナリ

犯罪ノ動機情狀

被疑者ハ幼ヨリ不良性ヲ帶ビ前科數犯ヲ重ネ引續キ一定ノ生業ニ從事スル熱意ヲ缺キ自己ガ

爲メ竊盜ヲ決意シ茲ニ屋外盜ヲ企テ連續十數回ニ亙リテ敢行シタルモノニシテ毫モ悔悛ノ情ナシ

法律ノ適用竝處罰ノ要否意見

刑法第二百三十五條、第五十五條ニ該當スルヲ以テ同法第五十六條第一項、第五十七條ニ依リ嚴重處分相成ルベキモノト認ム

昭和十三年二月十六日

××府〇〇〇警察署

司法警察官 警部補 ○ ○ ○ ○

××區裁判所檢事局

檢事 × × × 殿

〔第五例〕

意見書

司法警察官意見書篇

一、犯罪發覺ノ原因

〇〇百貨店監視員申告ニ因ル竊盜被疑事件非現行犯

二、前科ノ有無

竊盜詐欺横領傷害等前科十八犯アリ

最終ハ昭和四年十一月二十五日××區裁判所ニ於テ竊盜罪ニヨリ懲役二年ニ處セラレ

昭和六年十一月二十五日××刑務所ヲ出所ス

三、爵位勳功記章褒章恩給年金扶助料ノ有無

ナシ

四、犯罪事實

被疑者ハ犯意ヲ繼續シ昭和十三年一月二十九日ヨリ二月十二日迄ノ間前後三回ニ亙リ××市××區××××××××××町七百二十九番地株式會社〇〇百貨店賣場陳列中ノ子供綿入一枚外十一點時價合計七十四圓六十錢相當ノモノヲ竊取シタルモノナリ

五、證 憑

右事實ハ

(一) 被疑者ノ自白

(二) 右自白ニ符合スル〇〇百貨店被害始末書

(三) 領置ノ證據物件

ニヨリ證憑十分ナリ

六、犯罪ノ動機情狀

被疑者ハ前科十八犯ヲ有シ昭和六年十一月二十五日××刑務所ヲ出所シタルモノナルガ爾來前非ヲ悔ヒ信仰ニヨリ之ヲ償ハント各地ヲ遍歴シ居リタルガ偶々昭和十三年一月二十九日京都驛ヨリノ歸途本犯第一回ノ犯行ヲ爲シタル處容易ニ行フコトヲ得又發見サレサリシ爲反覆三回ニ及ビタルモノナルガ恐ラクハ將來其ノ悔悛ヲ望ムハ至難ノ事ナルベク情狀酌量ノ餘地認メ難シ

七、法律ノ適用竝處罰ノ要否ニ關スル意見

被疑者ノ行爲ハ刑法第二百三十五條ニ該當シ相當御處罰相成度

昭和十三年三月十四日

××府〇〇警察署

司法警察官 警部補

〇 〇 〇 〇

××區裁判所檢事局

檢事 × × × × 殿

〔第六例〕

意見書

〇 保 〇 吉

當四十七年

一、犯罪發覺原因

司法警察吏巡查逮捕ニ依ル現行犯

二、前科ノ有無

(イ) 大正十二年六月六日××區裁判所ニ於テ竊盜(掏摸)詐欺横領罪ニ依リ懲役八月

(ロ) 大正十四年四月一日××區裁判所ニ於テ同罪(掏摸)ニ依リ懲役八月

(ハ) 昭和九年五月七日同裁判所ニ於テ××令漁業取締規則違反ニヨリ科料十圓

ニ各處セラル

三、爵位勳功記章褒章年金恩給扶助料ノ有無

ナシ

四、犯罪事實

被疑者ハ生活費ヲ得ルノ目的ヲ以テ昭和十三年四月二十日××市××區××××××荷神社御旅所内ニ於ケル神幸祭ノ雜沓ニ乗ジ同日午後四時頃同所境内ニ於テ行列渡御ニ見惚レ居タル〇斗〇當四十一年ノ作業服上衣左ポケットニ手ヲ挿入シ同人所有ノ現金五十三錢及クローム製時計鎖一個時價二十錢在中ノ茶色革製財布一個ヲ竊取シタルモノナリ

五、證憑

右事實ハ

(一) 被疑者ノ自白

司法警察官意見書篇

(一) 之ニ符合スル

(イ) 被害者〇斗〇ノ被害始末書

(ロ) 押収ノ茶色革製財布

等ニヨリ證明十分ナリ

六、犯罪ノ動機情狀

被疑者ハ幼時ヨリ盜癖ヲ有シ竊盜(掏摸)罪ニ依ル前科既ニ二犯ヲ累ネ生業ニ就キテ表面ヲ糊塗スルモ惡質ノ盜心ハ遂ニ改ムルニ由ナク本犯ヲ敢行シタルモノニシテ情狀重キモノト認ム

七、法律ノ適用竝處罰ノ要否ニ關スル意見

被疑者ノ所爲ハ刑法第二百三十五條ニ該當スル犯罪ナルヲ以テ嚴重御處分相成可然モノト思料ス

昭和十三年五月四日

××府〇〇警察署

司法警察官 警部補

〇 〇 〇 〇

××區裁判所檢事局

檢事 × × × × 殿

〔第七例〕

意見書

〇 淵 〇 雄

當二十五年

一、犯罪發覺ノ原因

巡查安宿臨檢中學動不審者發見取調ニ因ル

二、前科ノ有無

横領竊盜前科二犯アリ

第一犯 昭和九年十二月廿二日××區裁判所ニ於テ竊盜横領罪ニ依リ懲役一年

第二犯 昭和十一年七月九日××區裁判所ニ於テ竊盜罪ニ依リ懲役一年四月

司法警察官意見書篇

一九

被疑者ハ生後僅ニ三ヶ月母ト死別シ爾來繼母ノ許ニ在リ長ズルニ及ビテ陰險性ヲ帯ビ怠慢トナリテ生業ニ勵マズ以テ肉親ニモ擯斥ヲ受クル環境ヲ造リテ遂ニ自暴自棄ニ陥リ惡ニ走リテ前科二犯ヲ累ネ昨年十一月十日最終一年四月ノ懲役刑ヲ終了シ間モナキニ不拘更ニ本犯敢行ノ舉ニ出デタルハ毫末モ改悛ノ情ナク再犯ノ虞アリ但シ横領被害ハ實父ニ於テ保護辨濟シ竊盜贓品ハ概ネ被害者ニ返戻セラレタリ

七、法律ノ適用竝處罰要否意見

刑法第二百五十三條及同法第二百三十五條ニ該當シ累犯ニ該ルヲ以テ嚴重御處罰相成ベキモノト思料ス

昭和十三年二月廿四日

××府〇〇警察署

司法警察官 警部補

〇 〇 〇 〇

××區裁判所檢事局

檢事 × × × × 殿

〔第八例〕

意見書

一、犯罪發覺ノ原因

巡查何誰審問ニ依リ發覺シタル業務横領竊盜同未遂非現行犯

二、前科ノ有無

昭和十一年十二月六日××區裁判所ニ於テ竊盜横領罪ニ依リ懲役十月ニ處セラレ昭和十二年十月六日××少年刑務所ヲ出所ス

三、爵位勳功記章褒章恩給年金等ノ有無

無シ

四、犯罪事實

被疑者ハ

司法警察官意見書篇

(一) ××市××區××××町十四番地牛乳販賣業○木○次郎方ニ被雇配達及代金集金ノ業務ニ從事中昭和十三年一月三十一日主命ニ依リ得意先ナル××市××區××××町○田○吉方外五十八軒ヨリ賣掛代金トシテ集金シタル金百三十四圓五十一錢及釣錢支拂用トシテ主人ヨリ受取り保管中ノ金三圓合計百三十七圓五十一錢ヲ遊興其ノ他ニ費消横領シ

(二) 昭和十三年一月十三日午後三時頃××市××區××××町○藤○一郎方二階ニ於テ同居シ居タル○田○一郎所有ノ鐵無地瓦斯男羽織一枚時價五圓位ヲ竊取シタルヲ始メトシ犯意ヲ繼續シテ同年二月二十日迄ノ間前後四回ニ亘リ鉛、衣類書籍其ノ他雜品取混ゼ五點時價五十五圓九十錢相當ノモノヲ竊取シ

(三) 昭和十三年二月二十三日午後十時頃竊盜ノ目的ヲ以テ××市××區××××町三九織職○井○次郎方當二十八年ニ忍ビ入りタルモ家人ニ發見セラレ其ノ目的ヲ遂ケザリシモノナリ

五、證據

右事實ハ

(一) 被疑者ノ自白

(二) 被疑者ノ自白ニ符合スル

(イ) 被害者○木○次郎他三名ノ被害始末書及被害届書

(ロ) 質商林○太郎他二名ノ質取始末書

(ハ) 古物商○岡○太郎他一名ノ買取始末書

ニ依リ證據十分ナリ

六、犯罪ノ動機情狀

被疑者ハ桂○ノ私生子トシテ出生母ノ手ニ養育セラレタルモ生活ニ追ハレテ教育モ十分セラレズ放縱ニ流レ勤勉性ヲ失ヒ自暴自棄ノ結果犯罪ヲ累ネタルモノニシテ一見溫和ニ見エルモ改悛ノ見込無シ

七、法律ノ適用竝處罰要否ニ關スル意見

本件被疑者ノ行爲ハ刑法第二百五十三條、第二百三十五條、第二百四十三條ニ該當スル犯罪ニシテ嚴重處分ヲ要スルモノト思料ス

昭和十三年三月二十六日

司法警察官意見書篇

××府〇〇警察署

司法警察官 警部補

〇 〇 〇 〇

××區裁判所檢事局

檢事 × × × × 殿

〔第九例〕

意見書

〇 川 〇 太郎

當二十七年

〇 野 〇 治郎

當四十七年

一、犯罪發覺ノ原因

巡查逮捕ニヨル竊盜贓物故買被疑事件

二、前科ノ有無

ナシ

三、爵位勳功記章褒章年金恩給扶助料等ノ有無

ナシ

四、犯罪事實

第一 被疑者〇川〇太郎ハ犯意繼續ノ上昭和十年三月上旬頃ヨリ約一ヶ月間人夫トシテ××

市電氣局××發電所ニ雇ハレ居タルコトアリ同年三月二十日頃ヨリ昭和十三年四月二十九

日迄ノ間前後十六回ニ亘リ發電所倉庫ニ置キ在リタル××市所有ニシテ××市技手〇本〇

藏管理ニ係ル銅線合計壹百八十六貫參百五十匁時價金壹千參百六十四圓八十錢相當ノモノ

ヲ竊取シ

第二 被疑者〇野〇治郎ハ××市××區××××××××福本町四二三番地ニ於テ古物商

ヲ營メルモノナルトコロ犯意繼續ノ上昭和十二年六月二十日頃ヨリ同十三年四月十日頃ノ

間前後十三回ニ亘リ右自宅店舗ニ於テ被疑者〇川〇太郎ノ竊取シタル銅線合計壹百六十六

貫七百五十匁時價金壹千參百四十六圓八十錢ヲ盜品タルノ情ヲ知リナガラ金六百拾壹圓ニ

買受ケテ贓物ノ故買ヲ爲シ

司法警察官意見書篇

タルモノナリ

五、證憑

右事實ハ

- (一) 各被疑者ノ自白
 - (二) 之ニ符合スル
 - (イ) 被害者○本○藏ノ盜難被害届及ビ被害始末書
 - (ロ) 古物商○野○治郎外二名ノ買取始末書
 - (三) 證據品
 - (四) 牧○雄外二名ノ遊興始末書
 - (五) ○田○○外二名ノ各始末書
- ニヨリ證憑十分ナリト認ム
- 六、犯罪ノ動機情狀
- (一) 被疑者○川○太郎ハ性怠惰ニシテ遊興ヲ好ミ昭和十二年五月實父死後家業ヲ繼承シテ葬儀人夫トシテ從事中生活費及ビ遊興費ニ窮シタル爲

(二) 被疑者○野○治郎ハ古物商ナルトコロ當時病身ニシテ收入意ノ如クナラズ且ツ醫療費ヲ多額ニ要シタルタメ生活費及ビ醫療費ヲ得ントシテ盜品タルノ情ヲ知悉シ以テ右犯行ニ及ビタルモノニシテ情狀酌量ノ餘地ナキモノト認ム

七、法律ノ適用並處罰ノ要否ニ關スル意見

被疑者○川○太郎ハ刑法第二百三十五條ニ被疑者○野○治郎ハ刑法第二百五十六條第二項ニ各該當スル犯罪ヲ爲セルモノニシテ相當御處分相成可然モノト思料ス

昭和十三年五月十三日

××府○○警察署

司法警察官警部代理

巡查部長

○ ○ ○ ○

××區裁判所檢事局

檢事 × × × 殿

〔第十例〕

司法警察官意見書篇

意見書

○ 島 彰

當二十七年

一、犯罪發覺ノ原因

被疑者ノ交通事故申告ニ因ル業務上過失傷害被疑事件ノ非現行犯

二、前科ノ有無

ナシ

三、爵位勳功記章褒章恩給年金等ノ有無

ナシ

四、犯罪事實

被疑者ハ普通自動車運轉免許ヲ受ケ××市××區××町××××××××醫師○井○太郎方ニ被雇同家ノ乗用自動車京第一一號ヲ運轉スルヲ業トスル者ナルトコロ

昭和十二年十二月十八日午後三時三十分頃××市××區××町××××××××北側電車軌道上ヲ東行スルニ際リ前方軌道南北兩側ニ各近接スル道路上ニ安全地帯アリテ恰モ其ノ附近ニ在ル××府醫師會產婆學校退校時刻ナリシ爲同校生徒三々五々相連立テ安全地帯ニ到ルベク多數ノ者北側道路上ヲ步行セルヲ認メタルガ如斯停留所附近殊ニ安全地帯側面ヲ進行スル場合ハ前方歩行者ノ舉措ニ注意シ衝突ヲ未然ニ防止スル爲何時ニテモ停車シ得ル様速力ヲ低下シ且自動車ヲ進行スルコトヲ明認セシムル爲警笛ヲ吹鳴シテ通行人ニ注意ヲ喚起スル等前方ニ對スル諸般ノ注意義務アルニ不拘主人ノ命ニ依リ歸院ヲ急ギ居タル爲右義務ヲ怠リ漫然軌道上ヲ時速約二十杆ヲ持續シテ東進シ西北安全地帯ヲ過グル約二十米ノ地點ニ到リタル際

更ニ前方約五米ノ北側道路上ニ於テ產婆學校生徒○木○ダノ當二十年方面部ヲ後方ニ向ケ同僚ト會話シツツ南側安全地帯ニ赴クベク自己ノ進路ヲ横斷セントスルヲ認メタルガ斯カル場合ハ直ニ急停車ノ措置ヲ爲スカ或ハ右ニ迂回スル等衝突ヲ避クル爲ニ必要ナル萬全ノ措置ヲ執ルベキニ不拘警笛ヲ吹鳴セバ同女ハ避讓スルナラント盲斷シ單ニ警笛ヲ吹鳴シタルノミニテ依然同速度ニテ進行ヲ續ケタル爲自動車左側前面ニ於テ同女ト接觸シ自動車窓ガラス蝶番

ヲ以テ同女ニ治療一ヶ月餘ヲ要スル前額部裂傷及同所骨折凹没ノ傷害ヲ與ヘタルモノナリ

五、證憑

右事實ハ

第一 被疑者ノ自白

第二 之ニ符合スル

(一) 證人目撃者○笠○太郎聽取書

(二) 被害者○木○ダノ聽取書

第三 實況見分書

第四 高橋醫師診斷書

等ニ依リ證明十分ナリ

六、犯罪ノ動機情狀

本件ハ被害者○木○ダノニ於テモ歩行前面ヲ注視セザル不注意アレドモ被疑者ハ自動車運轉者トシテ爲スベキ注意義務ノ一點ヲモ爲サズ徒ラニ進行ヲ續ケタル重過失ニ因リ發生セルモノト謂フベク女性ノ顔面ニ重大ナル痕跡ヲ留ムル傷害行爲ハ被疑者ガ事後ニ於テ醫療ニ盡セ

ル道義ト相殺シ得ザル事情ニアリ且又眞ノ重過失ノ點交通取締上忽緒ニ付スベカラザルモノナリ

七、法律ノ適用並處罰意見

刑法第二百一十一條該當相當御處罰可相成思料ス

昭和十三年二月二十八日

××府○○警察署

司法警察官 警部補

○ ○ ○ ○ ○

××區裁判所檢事局

檢事 × × × × 殿

〔第十一例〕

意見書

寺 ○ 稔 ○

當三十一年

三三

一、犯罪發覺原因

關係人ノ交通事故申告ニヨル業務上過失致死非現行犯

二、前科ノ有無

昭和四年三月一日×××區裁判所ニ於テ漁業法施行規則違反ニヨリ罰金拾圓ニ處セラレ

三、爵位勳功記章褒章年金恩給扶助料ノ有無

ナシ

四、犯罪事實

被疑者ハ昭和四年七月×××縣ニ於テ甲種自動車運轉免許ヲ受ケ爾來自動者運轉ヲ業トシ

昭和十二年三月八日××府ニ就業地變更ノ許可ヲ得テ××市××區×××町二十七番地宮

島自動車店ニ雇ハレ貨物自動車運轉ノ業務ニ従事セルモノナルトコロ

昭和十三年三月七日午後零時四十五分頃××市××區×××町地内××國道ニ於テ北進

中ノ柳川〇〇當三十九年ノ運轉セル貨物自動車京第一六〇八號ニ後續シテ貨物自動車京第一

一〇一號ヲ運轉北進セルガ

斯ル際ハ前進自動車ニ注意シテ何時ニテモ急停車又ハ避讓ノ措置ヲ執リ以テ事故ヲ未然ニ防

止スルニ足ル相當ノ距離ヲ保ツハ勿論前方ヲ十分ニ注意進行スベキ業務上ノ義務ヲ有スルニ
拘ラズ之ヲ怠リ漫然時速約四十軒前車トノ距離十米位ニ近接シテ運轉シ居リタル爲突然柳川
〇〇ガ自動車ヲ停止セシメタルニ對シ之ニ即應スルノ措置ヲ執ル機ヲ失シ其ノ距離約五米ニ
迫リテ急停車右方避讓ノ處置ヲ爲シ得タルニ過ギズ爲ニ前進自動車ノ後方右角ニ自己ノ自動
車運轉臺左側ヲ衝突セシメ因テ被疑者ノ左側坐席ニ同乗セシメ居タル助手徐斗〇〇二十四年
ノ頭部ヲ強打シ腦底骨折ニ因リ死ニ致シタルモノナリ

五、證據

右事實ハ

(一) 被疑者ノ自白

(二) 之ニ符合スル關係人柳川〇〇、高田〇〇ノ供述

(三) 醫師吉岡〇〇作成ニ係ル死亡診斷書

(四) 實況見分書

等ニ依リ證據十分ナリ

六、犯罪ノ動機情狀

司法警察官意見書篇

被疑者ハ京×國道ニ於テ屢發生セル自動車衝突ノ事例ヲ知ルニ拘ラズ前方ニ對スル細心ノ注意ヲ怠リ漫然運轉ヲ繼續シ遂ニ事故ヲ防止シ得ザリシモノニシテ其ノ過失輕カラズ但シ本件ハ前進自動車運轉手ノ停止ニ當リテノ措置ニ遺憾ト認ムルモノアルヲ以テ情狀酌量スベキ點アリト認メラル

七、法律ノ適用並處罰ノ要否ニ關スル意見

被疑者ノ右行爲ハ刑法第二百一十一條ニ該當シ交通取締上默過シ難キ事故ナルヲ以テ相當御處罰相成可然モノト思料ス

昭和十三年五月五日

××府〇〇警察署

司法警察官 警部補

〇 〇 〇 〇

××區裁判所

檢事 × × × 殿

〔第十二例〕

意見書

〇 柱 〇

當三十年

一、犯罪發覺原因

竊盜犯人取調中發覺ニ係ル古物商取締法違反被疑事件非現行犯

二、前科ノ有無

昭和十一年十月二十九日××區裁判所ニ於テ古物商取締法違反ニ依リ罰金五十圓ニ處セラレ前科一犯ヲ有ス

三、爵位勳功記章褒章恩給年金等ノ有無

ナシ

四、犯罪事實

被疑者ハ昭和十年四月頃ヨリ××市××區××町十六番地ニ於テ古物商ヲ營ム者ナルトコロ昭和十三年一月二十八日頃自宅店舗ニ於テ怠慢ニ依リ自稱××市××區××町××

司法警察官意見書篇

三七

××山本〇〇ナル者ヨリ鐵筋四十二貫五百匁ヲ金十七圓ニテ買受ケ乍ラ右事實ヲ物品讓受讓
渡臺帳ニ記載セザリシモノナリ

五、證憑

第一 被疑者ノ自白

第二 之ニ符合スル證據品ノ存在

ニ依リ證明十分ナリ

六、犯罪ノ動機情狀

被疑者ハ古物商ヲ營ムコト三年既ニ賣買セシ物品ヲ制規ノ帳簿ニ登載スルノ義務アルヲ知悉
シ乍ラ怠慢ニモ之ヲ怠リタルモノニシテ同種ノ前科一犯アリ酌量ノ餘地ナキモノナリ

七、法律ノ適用竝處罰ノ要否意見

古物商取締法第十一條第一項ニ該當スルヲ以テ相當處分相成ベキモノト認ム

昭和十三年二月十七日

××府〇〇警察署

司法警察官 警部補

〇 〇 〇 〇

××區裁判所檢事局

檢事 × × × 殿

意見書作成に就て寸言

司法警察官の作成する意見書は事件全體の縮圖でありまして、之のみに依り事件の概要を認識し得る様
に記載せねばなりません。従つて簡に失して必要事項を遺脱する様なこともいけません。繁雜に流れ
て要領を把握し難きものも亦困ります。簡潔にして要を得ることが最も肝要であります。時々形式に流
れることがあり、見たところなか／＼立派でありながら内容の記録に證據の伴はぬ場合を見受けます。
看板に偽りがあつてはなりませんまい(拙著「新捜査の栞」送致事件記録一六四頁以下参照)。

起訴不起訴篇

詐 欺

(公判請求)

被告人ハ

第一 内縁ノ妻中山〇〇ト共謀ノ上同人ヲシテ仲居奉公ヲナサシムル意思ナキニ拘ラズ之アルモノノ如ク装ヒ他人ヲ欺罔シ前借名義ノ下ニ金員ヲ騙取セント企テ昭和十三年十二月二十四日頃××市×區×××四丁目高田〇〇方ニ於テ同人ニ對シ右中山〇〇ヲシテ××縣×町料理屋ニ於テ仲居奉公ヲナサシムル旨申詐リ高田ヲシテ其ノ旨誤信セシメテ因テ前借名義ノ下ニ金百五十圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第二 昭和十三年七月五日頃同市×區××新地貸座敷常盤事明地〇〇方ニ登樓シ支拂ノ意思尠資力ナキニ拘ラズ之アルモノノ如ク装ヒ同人ヲシテ即時ニ遊興代等ノ支拂ヲ受ケ得ベキ旨誤信セシメ因テ藝妓數名ヲ侍セシメ且酒肴ヲ提供セシメ合計金十七圓九十三錢ノ支拂ヲ免レ財産上不法ノ利得ヲ爲シ

第三 同年九月十二日頃同市×區××歌舞伎座附近ニ於テ同市×區吾妻町二丁目三ノ一自動車運轉者小川〇〇ノ運轉中ノ自動車ヲ呼止メ同人ニ對シ所持金ナキニ拘ラズ之アルモノノ如ク裝

ヒ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ同人ヲシテ被告人外二名ヲ乗車セシメ同所ヨリ××市××區××××迄運轉セシメ自動車賃金十二圓五十錢相當ノ支拂ヲ免レ財産上不法ノ利得ヲ爲シ且同人ヨリ返濟ノ意思ナキニ拘ラズ之アルモノノ如ク裝ヒ同人ヲ欺罔シ一時立替拂名義ノ下ニ合計金三圓六十錢ヲ他人ニ交付セシメテ之ヲ騙取シタルモノナリ
右ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

詐 欺 (山菓子詐取) (公判請求)

被告人ハ他人ノ葬儀ニ際シ死者並其ノ遺族ト緣故知合其ノ他ノ關係ナキニ拘ハラズカ、ル關係者トシテ會葬スルモノノ如ク裝ヒ葬儀係員ヲ欺キ供養物ヲ詐取スル俗ニ山菓子取リト稱スル特種詐欺ノ方法ニヨリ財物ヲ騙取センコトヲ企テ犯意ヲ繼續シテ昭和十二年七月五日ヨリ昭和十三年十月七日迄ノ間六十四回ニ亘リ××市××區××××××××永村〇〇〇〇方外六十三名ノ××市内ニ於ケル葬儀場ニ於テ同人等ノ葬儀係員ヲ欺罔シ市電回数乗車券郵便切手帳等合計六十數點(時價約六十圓相當)ノ交付ヲ受ケ之ヲ騙取シタルモノナリ

詐 欺 (起訴猶豫)

被疑者等兩名ハ共謀ノ上白木〇〇ガ紙箱製造業ヲ始ムルニ付同人ニ右營業ノ經驗ナキヲ以テ紙箱製造機械ノ買入ヲ被疑者貞一ニ依頼シタルヲ奇貨トシ右機械ノ賣主ハ機械ブローカー北村某ナルニ拘ラズ被疑者富太郎ナルガ如ク裝ヒテ〇〇ヲ欺罔シ同人ヨリ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ昭和十三年九月十六日頃右機械五臺ヲ北村ヨリ約二百七十五圓ニテ買受ケ××市××區××××××××〇〇方ニ持參シ被疑者貞一ハ〇〇ニ對シ右機械五臺ハ約四百五十圓ノ價値アリ賣主ハ被疑者富太郎ナル旨申欺キ被疑者富太郎ハ〇〇ニ對シ右機械五臺ヲ金四百三十圓ニテ賣渡ス旨申向ケ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ其ノ頃前後三回ニ亘リ同所外一ヶ所ニ於テ同人ヨリ賣買代名義ノ下ニ金四百十圓ヲ受取リテ之ヲ騙取シタルモノナリ
右事實ハ明白ナルモ

被疑者貞一ハ初犯者ニシテ利慾ニ迷ヒ偶本件ニ及ビタルモ今ヤ一時ノ迷夢ヨリ醒メ改悛ノ情アリ本件被害ノ大半ヲ辨償シ殘額モ將來辨償スル旨誓約スルヲ以テ被疑者富太郎モ前科ナク貞一ニ誘ハレ本件ニ加擔セルモノニシテ犯情重カラザルノミナラズ僅

其ノ旨誤信セシメ因テ金二圓五十錢ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シタル外同年八月十七日頃ヨリ同年九月八日頃迄ノ間三回ニ亘リ××市内ニ於テ知人ナル松田○○外二名ニ對シ夫々前同様虚偽ノ事實ヲ申シ向ケ同人等ヲ欺罔シ因テ貸借名義ノ下ニ合計金三圓十七錢ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シタルモノナリ

右事實ハ明白ニシテ被疑者ニ同種ノ前科アルモ出所後既ニ五年以上ヲ經過シ居リ其ノ間眞面目ニ働キ居リタルモノニシテ且元雇主ニ於テ將來ノ保護監督ヲ爲シ被疑者ト共ニ辨償スル旨申立居ルニ付嚴重ニ將來ヲ訓戒シテ今回ニ限り特ニ起訴ヲ猶豫ス

追テ送致ニ係ル事實中川上○○外二名ヲ欺罔シ同人等ヨリ合計金四圓ヲ騙取シタリトノ事實ニ付テハ被疑者ハ欺罔ノ意思ナカリシ旨申立テ各被害者ニ於テモ被疑者ヲ知り居リタル爲小遣錢トシテ支給シタルモノニシテ強イテ返金ヲ求ムル意思ナカリシ旨申立テ罪トナラズ

詐 欺

(起訴猶豫)

被疑者ハ犯意ヲ繼續シ昭和十三年十一月八日午後二時頃××市××區××鳥料理業安兵衛事申中村○○方ニ到リ即時支拂ノ意思竝ニ能力ナキニ拘ラズ之アルモノノ如ク装ヒ同家家人ヲシテ其ノ旨

誤信セシメ因テ代金約十九圓ニ相當スル遊興ヲ爲シ代金ノ支拂ヲ爲サザル上同日午後十一時頃同所ニ於テ自動車運轉者鈴木○○ヲ同様方法ニ依リ欺罔シ因テ同所ヨリ××ニ至ル間同人ノ自動車ニ乗車シ其ノ料金二圓ノ支拂ヲ爲サズ財産上不法ノ利益ヲ得タルモノナリ
右事實ハ明白ナルモ被疑者ニ前科ナク住居地ナル××ニ歸リテ後直チニ辨償ヲナスベキ旨誓ヒ居ルヲ以テ起訴ヲ猶豫スベキモノト認メ主文ノ如ク裁定シタリ

詐 欺 (無錢飲食)

(起訴猶豫)

被疑者ハ昭和十三年十月十一日××市××區×××××町四百三十八番地飲食店大北○○方ニ於テ支拂ノ意思竝資力ナキニ拘ラズ之アルモノノ如ク装ヒ家人ヲシテ即時飲食代金ノ支拂ヲ受ケ得ベキ旨誤信セシメ因テ合計金四圓六十五錢ニ相當スル酒肴ヲ提供セシメ之ヲ騙取シタルモノナリ

右事實ハ明白ナルモ被疑者ニ前科ナク被害モ左程多カラズ被疑者今後ハ正業ニ就ク旨誓約シ改悛ノ情アルヲ以テ嚴戒ノ上主文ノ如ク裁定シタリ

詐 欺

(嫌疑ナシ)

本件送致事實ハ

被疑者ハ○友會××分會××班副班長ニ在任中昭和十三年一月十四日頃山田○○○外四十數名ノ新入會員ニ對シ○友會章ハ金二十錢×××章ハ金十錢ナルニ拘ハラズ前者ハ金二十五錢後者ハ金十五錢ナル旨申許リ同人等ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ同人等ヨリ右金額ノ交付ヲ受ケテ頒布價格トノ差額合計約金三圓四十錢ヲ騙取シタリト謂フニ在リ

仍テ捜査ヲ遂グルニ○友會章ハ從來金二十五錢ニテ頒布セラレ居リシモノニシテ被疑者ハ引續キ金二十五錢ニテ頒布スベキモノト信ジ居タリト辯疏シ他ニ右供述ト相容レザル證憑ナク又×××章代ニ付テハ被疑者ハ一個ニ付キ金十錢宛ヲ申シ受ケタルニ過ギザル旨否認シ被害者山田○○○、安藤○○○○、大山○○○○等ノ供述ニ徴スルモ此ノ點ニ付キ送致事實ヲ認メ難キヲ以テ本件送致事實ハ犯罪ノ嫌疑ナシ仍テ主文ノ如ク裁定シタリ

詐 欺

(嫌疑ナシ)

被疑者ハ昭和十三年九月二十日午後十一時頃東海道線新橋驛ヨリ新橋保土ヶ谷間三等乗車券ヲ以テ第三十九列車ニ乗車シ保土ヶ谷驛ニ下車セズ乗車券ナキニ拘ハラズ之有ルモノノ如ク装ヒ同驛ヨリ川瀬驛間ノ乗車ヲ爲シ四圓九十三錢ノ料金ノ支拂ヲ免レ以テ財産上不法ノ利得ヲ爲シタルモノナリ

ト謂フニアレドモ被疑者ハ當初保土ヶ谷驛ニ於テ下車スベキ意思ナリシガ偶々睡眠シタルタメ保土ヶ谷驛ヲ乗越シ靜岡驛ニ於テ睡眠ヨリ覺メ茲ニ無賃乗車ヲ決意シタルモノナル旨申立テ鐵道係員ニ對シ別段欺罔行爲ヲ施シタルコトナク其ノ他詐欺ノ犯意ヲ認ムルニ足ル嫌疑ナキヲ以テ主文ノ如ク裁定シタリ

追テ鐵道營業法第二十九條違反ノ點ニ付テハ親告罪ニ係ルトコロ告訴ナシ

横 領

(起訴猶豫)

被疑者ハ昭和十年七月頃肥料商小池○○ガ××町養蠶組合及××町鹿脊山養蠶組合ニ賣渡シタル

起訴不起訴篇

桑肥料賣買ノ仲介ヲ爲シ其代金四百四十九圓五錢ノ受取方ヲ依頼セラレ同年十一月頃小池〇〇ノ爲ニ集金保管中ノ金二百七十三圓六十錢ヲ其頃××町ニ於テ數回ニ亙リ犯意繼續シテ擅ニ生活費其他自己ノ用途ニ費消横領シタルモノナリ

右事實ハ明白ナルモ被疑者ハ昭和十二年申ニ委託金八十圓餘ノ費消、ミシン臺二臺ノ質入ニ係ル業務横領ニ付キ既ニ昭和十三年三月十九日當檢事局ニ於テ起訴猶豫處分ヲ受ケタルモノニシテ本件犯行ハ其以前ニ係リ之ト連續關係アルノミナラズ本件被害者ハ其當時右事情ヲ知悉シ乍ラ警察官ニ告知セズ被疑者ガ約ニ背キテ支拂ヲ爲サマルタメ更メテ警察官ニ密告シタル疑アリ旁々被疑者ハ目下××工業株式會社ニ勤メ辨償ヲ誓約スルヲ以テ起訴ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ主文ノ如ク裁定シタリ

横 領 (自首) (起訴猶豫)

本件自首ノ要旨ハ

被疑者ハ豫テ知合ノ友禪業川層〇〇〇ヨリ丁稚周旋ノ依頼ヲ受ケ其ノ費用金三十圓ヲ預リ保管中昭和十三年七月下旬頃××市内ニ於テ擅ニ自己ノ用途ニ費消シテ横領シタルモノナリト謂フニ在

右事實ハ明白ナルモ被疑者ハ前科ナキ婦女子ニシテ事案比較的輕微且本件犯行ノ後自責ノ念ヨリ自首シタルモノニシテ現在女中奉公ヲ爲シ其ノ給料中ヨリ毎月辨償スベク誓約セルヲ以テ嚴戒ノ上主文ノ如ク裁定ス

横 領 (告訴) (嫌疑ナシ)

本件告訴ノ要旨ハ

被疑者ハ〇〇正雄等ヨリ假裝ノ讓渡ヲ受ケ登記簿上所有名義ヲ取得セル告訴人〇〇民造所有ノ××府××郡××××村字××××三十三番地畑田畝十二歩ヲ昭和十二年九月頃擅ニ自己ノ爲同村〇隆三ニ金三百十二圓五十錢ニテ賣却シテ横領シタルモノナリト謂フニ在リ

仍テ捜査ヲ遂グルニ被疑者ハ右告訴事實ヲ否認シ告訴人主張ノ如ク被疑者ガ右土地ヲ賣却シタル事實ハ認ムルモ元來右土地ハ告訴人〇〇民造ノ先代〇〇次郎ノ所有ニ屬シ居タル處同人ニ負債多カリシ爲昭和二年頃同人ノ從兄ニ當ル〇〇彌一郎ニ於テ之ヲ買受ケ債權者ニ對シ債務辨濟ヲ爲シ

右土地ニ對スル抵當權ヲ消滅セシメタルガ更ニ被疑者ハ昭和三年三月頃彌一郎ヨリ金二百五十圓ヲ以テ買受ケタルモノニシテ右代金ハ其ノ後同年十一月及ビ昭和四年十一月頃ノ二回ニ亘リ彌一郎ニ支拂ヲ爲シタルモノニシテ登記簿上辨次郎ヨリ直接被疑者ニ移轉シタルガ如ク記載アルハ中間登記ヲ省略シタルモノニ外ナラズト辯疏シ領置ニ係ル證第二號ノ借用證ニ依レバ彌一郎ト被疑者トノ間ニハ右土地ニ付賣買契約締結セラレタル事實ヲ認メ得ベキノミナラズ被疑者ガ昭和二年以降右土地ニ對スル公課ヲ納付シ居リタル事實ハ却テ告訴人ノ自認スルトコロニシテ其ノ他各關係人ノ陳述ニ徴スルモ告訴事實ヲ認ムルニ足ル證憑ナキヲ以テ表記ノ如ク裁定シタリ

業務横領

(起訴猶豫)

被疑者谷川〇〇ハ昭和十二年九月頃ヨリ××府××郡××町農會ニ臨時農業技術員トシテ勤務シ農産物種苗等ノ共同購入及販賣竝之ニ關スル金錢ノ徴收支拂保管等一切ノ事務ヲ掌リ居リタルモ被疑者村田〇〇ハ昭和十三年四月中旬頃ヨリ同農會ニ於テ臨時經濟更生調査員トシテ勤務シ谷川〇〇ノ事務ノ補助ヲ爲シ居リタルモノナルトコロ昭和十三年四月中旬頃××町農會ヨリ同郡×

××村農會ニ對シ販賣シタル米麥合計約二十五俵ノ代金三百七十圓中百五十圓ヲ村田〇〇カ受取り來リ谷川〇〇ニ交付シ同人ニ於テ業務上保管中右兩名共謀ノ上其ノ頃××市附近ニ於テ數回ニ亘リ遊興ノ爲擅ニ費消シテ横領シタル外被疑者谷川〇〇單獨ニテ又ハ同村田〇〇ト共謀ノ上昭和十二年十一月頃ヨリ昭和十三年五月頃迄ノ間數十回ニ亘リ業務上保管ニ係ル農産物販賣代金等合計約五百圓ヲ其ノ都度××町××町××市等ニ於テ擅ニ遊興ニ費消シテ横領シタルモノニシテ被疑者等ノ右行爲ハ各犯意繼續ニ係ルモノトス

右事實ハ明白ナルモ被疑者等ハ兩名共若年ニシテ相當ノ資産アル家庭ニ育チ性質モ特ニ惡性ナリト謂ヒ難ク被疑者谷川〇〇ヨリ右被害金額ヲ××郡農會技師富山〇〇〇ヲ通シテ農會ニ對シ辨償シ居リ同技師保證ノ下ニ村田〇〇ハ現在××郡××村ニ府農産物検査員トシテ勤務シ居リ谷川××モ××町農會ニ於テ更新ノ道ヲ見出サントシツツアリ兩名共更生ヲ誓ヒ改悛ノ情見ルベキモノアリ且農會技師富山〇〇〇ニ於テ被疑者等ノ身柄ヲ引受ケ自己ノ責任ヲ以テ將來ノ保護監督ニ任ズル旨申立テ居ルニ付處罰ノ要ナク起訴猶豫ヲ相當ト認メ注文ノ如ク裁定シタリ

業務横領

(起訴猶豫)

被疑者ハ藝娼妓紹介ヲ業トスルモノナルトコロ昭和十三年三月中旬頃貸座敷業杉田〇ヨリ××縣
××郡××村〇〇樓方高垣某女當十四年ヲ藝娼妓見習トシテ抱入ルルコトヲ依頼セラレ右資金
トシテ預リ業務上保管ニ係ル金四百圓中百三十圓ヲ其頃××市内等ニ於テ擅ニ自己ノ生活費等ニ
費消横領シタルモノナリ

右事實ハ明白ナルモ被疑者ハ生活費ニ窮シ本件犯行ニ及ビタルモノナル上右抱ヘ入成功ノ曉ニハ
相當ノ報酬ヲ與ヘラルルコトヲ期待シ居リ又成功不成功ニ拘ラズ旅費等實費ハ之ガ支拂ヲ受クベ
キ關係ニアリテ犯情酌量スベキモノアルヲ以テ起訴ヲ猶豫スベキモノト認メ主文ノ如ク裁定シタ
リ

業務横領

(嫌疑ナシ)

被疑者ハ××府××郡××町××無盡株式會社ニ雇ハレ無盡ノ募集掛込金集金等ノ業務ニ從事中
昭和八年頃ヨリ同十二年九月頃迄ノ間ニ於テ集金保管中ノ金百九拾六圓貳拾八錢ヲ其頃××府下
ニ於テ擅ニ費消横領シタルモノナリ
ト謂フニ在レトモ被疑者ハ右金百九拾六圓貳拾八錢ハ同人ノ退社シタル昭和十二年九月迄ニ至ル

會社ニ於ケル同人ノ假受金即チ未徵集金及假拂證據金勘定尻不足金ニシテ此等ハ每半期毎ニ監査
役ノ承認ヲ經タル被疑者ノ會社ニ對スル債務ニシテ横領シタルモノニアラズト辯疏シ同會社會計
主任何某モ亦右事實ニ照應スル陳述ヲ爲シ右横領事實ヲ認ムルニ足ル資料ナシ仍チ主文ノ如ク裁
定シタリ

竊盜・詐欺

(第一事實起訴猶豫
第二事實(イ)嫌疑ナシ(ロ)罪トナラズ)

本件送致事實ハ

被疑者ハ

第一 昭和十三年八月七日××驛玄關附近ニ於テ他人所有ノ自轉車一輛(時價十圓相當ノモノ)ヲ
竊取シ

第二 (イ) 豫テ同市××區×××××三輪〇〇ニ對スル金三圓ノ債務ノ擔保トシテ自己預
入名義ノ預金高十四位ノ郵便貯金通帳一冊及印鑑一個ヲ同人ニ預ケ置キタルトコロ同年五月
十八日頃右三輪〇〇方ニ於テ同人ニ對シ右債務辨濟ノ意思無キニ拘ハラズ右通帳等ヲ交付セ
ラルル時ハ預金ノ拂戻ヲ受ケ直チニ返済スル旨虚偽ノ事實ヲ申向ケ同人ヲシテ其ノ旨誤信セ

起訴不起訴篇

被害者ニ對シテハ既ニ實兄ヨリ全額ノ辨償ヲ了シ被疑者ニ改悛ノ情顯著ナルモノアリ且身柄引受人タル實兄米山〇〇ニ於テモ爾後嚴重監督スル旨申出タルヲ以テ起訴ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ嚴戒ノ上主文ノ如ク裁定シタリ

横領・詐欺

(第一事實起訴猶豫)
(第二事實確定判決)

本件送致事實ノ要旨ハ

被疑者ハ

第一 昭和十年四月頃××市×町六丁目多田〇〇ヨリ同人等主催ノ××太郎演奏會前賣券ノ賣却方ヲ依頼セラレ其ノ賣上金七圓九十錢ヲ保管中其頃同市附近ニ於テ擅ニ之ヲ自己ノ爲費消

横領シ

第二 新聞社員ヲ裝ヒ金員ヲ騙取センコトヲ企テ

(イ) 同年四月頃ヨリ同年五月十六日頃迄ノ間前後九回ニ亙リ××縣××郡××村××尋常高等小學校外八ヶ所ニ於テ同校々長矢澤〇〇外八名ニ對シ××日日新聞社員ナルガ如ク裝ヒ同新聞ノ爲寄附金廣告料等トシテ金員ヲ支出セラレタキ旨申訴リ同人等ヲシテ其ノ旨誤信セ

シメ因テ同人等ヨリ合計金十一圓ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シ

(ロ) 同年四月中旬頃ヨリ同年五月九日頃迄ノ間前後五回ニ亙リ同郡××××村下村〇〇方外四ヶ所ニ於テ同人等ニ對シ××新報××支局員ナルガ如ク裝ヒ同新聞ニ掲載ノ廣告料ヲ支拂ハレ度キ旨申訴リ同人等ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ同人等ヨリ合計金十三圓ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シ同日頃同郡××村××信用販賣購買利用組合事務所ニ於テ加藤〇〇等ニ對シ右同様ノ欺罔手段ヲ用ヒテ金員ヲ騙取セントシタルモ同人等ニ感知セラレルタル爲其目的ヲ遂ケザリシモノナリ

ト謂フニ在リ

仍テ檢案スルニ右事實ハ孰レモ嫌疑十分ナルモ第一ノ事實ニ付テハ被害僅少ナルヲ以テ起訴ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ第二ノ事實ニ付テハ被疑者ハ昭和十三年四月九日××地方裁判所ニ於テ詐欺罪ニ依リ懲役十月ニ處セラレ該判決ハ即日確定シタルモノニシテ右裁判ニ認定セラレタル詐欺ノ所爲ト本件被疑者ノ詐欺ノ所爲トハ連續犯ノ關係ニアラヲ以テ既ニ確定判決ヲ經タルモノニ付各主文ノ如ク裁定シタリ

電信法違反詐欺

(起訴猶豫)

被疑者山田〇〇ハ××市××區××通り×××××氷販賣業岡田〇〇方ニ雇ハレ居タルモノナルトコロ昭和十三年三月十日頃同家ヲ去ル口實ヲ作ル爲母危篤直ク歸レナル全ク虚偽ノ電報ヲ友人谷〇〇ニ依頼シ自己宛ニ打電セシメソノ電報ヲ示シテ眞實歸郷スル要アルモノノ如ク申シ向ケ同人ヲ欺罔シ因テ旅費名義ノ下ニ金十圓ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シタルモノナリ

右事實ハ明白ナルモ被疑者ハ前科又ハ起訴猶豫ノ處分ヲ受ケタルコトナク岡田方ヲ退店スル口實ヲ作ル爲淺墓ニモ偽電ヲ發セシメタルニ偶々旅費名下ニ小使錢ヲ得ント咄嗟ニ本件犯行ニ及ビタルモノニシテ被害輕微辨償ヲ誓ヒ居リ被害者モ處分ヲ望マザルノミナラズ自身柄引受ヲ爲シ居レル狀況ナルヲ以テ起訴ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ訓戒ノ上主文ノ如ク裁定シタリ

追テ谷〇〇ハ電信法違反事件ノ共犯ナルモ被疑者山田ノ爲ニ器械的行爲ヲ爲シタルニ過キズ處罰ノ要ナキモノト認ム

詐欺私文書偽造行使

(公判請求)

被告人ハ××市××區××通り×××××電話建物株式會社ノ契約係トシテ勤務スル旁ラ電話賣買業ヲナシ居リタル者ナルトコロ

第一 昭和十三年五月十日頃同市××區××××町加藤〇〇方ニ於テ同人ニ對シ既ニ同市××區×××××東屋電話店事西川〇〇ニ對シ金六百圓ノ擔保ニ差入レ之ガ名義變更ニ要スル書類等一切ヲ交付シ居リタル××局四千六十一番電話使用權ヲ故ラニ其ノ事實ヲ祕シ何等瑕疵ナキ電話使用權ヲ有スルモノノ如ク装ヒ金七百十圓ニテ買受ケ吳レ度キ旨申向ケ右加藤ヲシテ完全ナル電話使用權ヲ取得シ得ルモノト誤信セシメ因テ同日及同月二十一日頃ノ二回ニ亙リ同人ヨリ該電話使用權賣買代金架設料並名義變更料名下ニ同所ニ於テ同人ヨリ合計金七百八十八圓ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シ

第二 同年六月中旬同市××區××通り××××材木商山田〇〇方ニ於テ同人ニ對シ前同様西川〇〇ニ對シ擔保ニ差入レアリタル××局三千五百十番電話使用權ヲ買ヒ受ケ吳レ度キ旨申向ケ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ其ノ頃同人方ニ於テ電話使用權賣買代金名義ノ下ニ同人所有ニ係ル北川〇〇〇名義××電話建物株式會社額面二千圓甲種ヲ組第五十七號住宅證券(千七十二圓拂込濟)一通ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シ

第三 同年九月一日頃同市××區×町九丁目關口○○○方ニ於テ情ヲ知ラザル小川○○○ヲ通ジ右關口○○○ニ對シ倉田○○○ヨリ嘗テ同人ニ於テ前記西川○○○ヨリ金六百圓ヲ借用シ其ノ擔保トシテ差入レ居リタル××局三千四百四十一番電話使用權ノ賣却方ノ依頼ヲ受ケタルヲ奇貨トシ右事情ヲ秘シ即日名義變更ヲ爲シ得ルモノノ如ク裝ヒ金六百三十五圓ニテ買受ケ吳レ度キ旨申入レ右關口○○○ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ該電話使用權賣買代金名義變更料名下ニ同日竝同月五日頃ノ二回ニ亙リ同人方ニ於テ同人ヨリ合計金六百四十三圓ヲ交付セシメテ之レヲ騙取シ

第四 前記山田○○○ヨリ騙取シタル北川○○○名義額面二千圓ノ建物證券ヲ他ニ處分スル便宜ノ爲メ該證券ヲ額面五百圓組電話證券三通ト切り替ヘルベク行使ノ目的ヲ以テ同年六月二十二日前記××電話建物會社ニ於テ北川○○○ノ署名ヲ冒書シ以テ同人作成名義ノ五百圓組電話加入申込書三通ヲ作成シ其ノ名下ニ北川ト刻セル有合セ印ヲ押捺シテ其ノ偽造ヲ完成シ同日右偽造私文書三通ヲ真正ニ成立セルモノノ如ク裝ヒ同日會社契約係員ニ一括シテ行使シ

第五 同年六月十七日頃同市××區××××町朝川○○○方ニ於テ同人ニ對シ右會社ヨリ交付ヲ受ケタル北川○○○名義額面五百圓京へ組第四十八號京リ號第三十七號京リ組第四十二號電話

證券三通ヲ滿期ノ際ハ右證券ニ記載セル給付ヲ受クルニ必要ナル書類モ完備シ居レルモノノ如ク裝ヒ右千七十二圓拂込濟ノ證券ヲ金八百五十圓ニテ買ヒ受ケ吳レ度キ旨申向ケ同人ヲシテ滿期ニ於テハ何等手續ヲ要セズシテ證券面ニ記載セル給付ヲ受ケ得ルモノト誤信セシメ因テ賣買代金名義ノ下ニ同日竝同月二十三日ノ二回ニ亙リ同人方ニ於テ同人ヨリ金八百五十圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第六 同年六月下旬前記會社ニ於テ右朝川○○○ニ交付シテ行使スル目的ヲ以テ北川○○○ノ署名ヲ冒書シ同人作成名義ノ滿期ニ必要ナル領收書覺書給付申請書各三通ヲ作成シ其ノ名下ニ北川ト刻セル有合セノ認印ヲ押捺シテ其偽造ヲ完成シ同日之ヲ真正ニ成立セルモノノ如ク裝ヒ右朝川方ニ於テ同人ニ交付シテ之ヲ一括行使シタルモノナリ

右詐欺私文書偽造同行使ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

詐欺橫領私文書偽造行使 (起訴猶豫)

被疑者ハ昭和十三年十月十八日頃ヨリ××市××區××××町五番地合資會社中山○○○商會ニ

被雇中ノモノナルトコロ

第一 (一) 昭和十三年十月十四日頃同商會事務所ニ於テ代表社員尾上〇〇〇ニ對シ其事實ナキニ拘ラズ財布ヲ遺失シタルニヨリ金員ヲ貸與セシメラレ度旨申詐リ同人ヲシテ其旨誤信セシメ因テ同人妻ヨリ貸借名義ノ下ニ三圓ヲ受取り騙取シ

(二) 同月十七日頃同人ニ對シ其ノ意思ナキニ拘ラズ神戸ノ自己ノ叔父ノ許ニ赴ク旅費ヲ貸與セラレ度旨申詐リ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ同人ヨリ貸借名義ノ下ニ三圓ヲ受取り騙取シ

(三) 同月二十一日頃××市××區×××町五番地酒井〇〇方ニ於テ同人妻まつニ對シ返却ノ意思ナキニ拘ラズ一寸自轉車ヲ貸與セラレ度旨申詐リ同人ヲシテ其旨誤信セシメ因テ同人ヨリ自轉車一臺時價約十圓相當ノモノヲ受取り騙取シ

第二 (一) 昭和十三年十月十四日頃前記中山〇〇商會ニ於テ木炭ノ配達並代金受取等ノ業務ニ從事中其業務上保管ニ係ル木炭代金一圓四十五錢ヲ其頃自己ノ爲擅ニ××市内ニ於テ費消横領シ

(二) 同月十八日頃前記尾上〇〇〇ヨリ借受ケ保管中ノ自轉車一臺時價約五十圓相當ノモノヲ即

日自己ノ爲擅ニ××市内ニ於テ賣却横領シ

第三 同月十四日頃行使ノ目的ヲ以テ自己ヲ本人トスル西田〇〇〇名義ノ身元保證書一通ヲ作成シ右西田ノ名下ニ有合セ印章ヲ押捺シテ其偽造ヲ完成シ即日之ヲ前記尾上〇〇〇ニ真正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒ交付シテ行使シ

タルモノニシテ右詐欺並横領ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス
右事實ハ明白ナルモ被疑者ハ本年度ノ徵兵検査ニ合格シ明年三月一日滿洲重砲隊ニ入隊スベキモノナル上叔父中井〇〇〇ヨリ被疑者ニ對シ必ズ辨償ヲ爲スベク且ツ今後嚴重ニ監督スベキ旨申出テタルニヨリ嚴戒ノ上主文ノ如ク裁定シタリ

横領私文書偽造同行使詐欺未遂 (起訴猶豫)

被疑者ハ××市××區××××××××町十五番地料理店魚政事廣田〇〇〇方ニ雇ハレ居リタル處

第一 昭和十三年九月三日ヨリ同月二十日迄ノ間犯意ヲ繼續シテ同町内得意先三軒ヨリ右主人所
有ニ係ル賣掛代金合計二圓二十錢ヲ集金保管中其ノ頃同市内ニ於テ擅ニ之ヲ自己ノ用途ニ費消

起訴不起訴篇

シテ横領シ

第二 同市××區××××町西山〇〇ヨリ右主人廣田ニ支拂フベキ賣掛代金アルコトヲ知リ居リタルヲ奇貨トシ魚政ノ領收證ヲ偽造シテ西山ヨリ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ同月七日同區××××郵便局ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ魚政ノ署名ヲ冒書シ其ノ名下ニ偽造ニ係ル廣田ト刻セル印章ヲ押捺シ魚政作成名義ノ西山宛ノ料理代金十四圓三十錢ノ領收證一通ヲ作成偽造シ即日右西山方ニ到リ同人ニ對シ之ヲ真正ニ成立シタル文書ノ如ク裝ヒ提出シテ行使シ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ同人ヨリ二十圓札ヲ提出セシメタルモ被疑者ニ釣錢ノ用意ナカリシ爲之ヲ受領スル事能ハズ騙取ノ目的ヲ遂ゲザリシモノナリ

右事實ハ明白ニシテ且被疑者ハ同種行爲ニ依リ起訴猶豫中ノ者ナレドモ本件ハ事案比較的輕微ナルヲ以テ今回ニ限り嚴戒ノ上主文ノ如ク裁定シタリ

追テ被疑者ハ××府聯合保護會ニ引渡シタリ

横領有價證券偽造行使詐欺未遂 (起訴猶豫)

被疑者ハ白生地商ヲ營ム傍ラ友人加藤〇〇ノ依頼ヲ受ケテ同人ノ負債整理ニ從事シ居ルモノナル

トコロ

(一) 昭和十三年九月十二日及同月十四日ノ二回ニ亙リ大畑〇〇外一名ヨリ受取り保管中ノ加藤〇〇ノ所有ニ係ル現金壹百五十圓五錢ヲ其ノ頃××市内ニ於テ擅ニ自己ノ營業資金等ニ費消横領シ

(二) 右負債整理資金不足ナルタメ金融業者ヨリ金員ヲ騙取シテ之ニ充當セン事ヲ企テ右加藤ノ承諾ナク且同人ハ既ニ株式會社昭和銀行××支店トノ當座契約解約後ナルニ拘ラズ同年八月二十五日頃××市××區××町ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ加藤ノ署名竝印章ヲ冒用シ加藤振出昭和銀行××支店宛小切手四通(額面合計二千五百圓)ヲ作成偽造シ同月二十五日頃及二十七日頃ノ二回ニ亙リ右偽造ノ小切手ヲ恰モ真正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒ且支拂不能ナルコトヲ秘シテ××市××區××何番地森田〇〇ニ割引方ヲ依頼シテ行使シ以テ金員ヲ騙取セントシタルモ任意右依頼ヲ取消シタルタメ所期ノ目的ヲ遂ゲザリシモノナリ

右事實ハ明白ナルモ被疑者ニ前科又ハ起訴猶豫ナク(一)ノ點ニ就キテハ自己ノ金融ニ窮シタルヨリ費消シタルモノニシテ既ニ被害者ニ辨償濟ニシテ(二)ノ點ニ就キテハ加藤〇〇ノ境遇ニ同情シ偶々犯シタルモノナレドモ後日其ノ非ヲ悟リ取消シタルタメ實害ナク改悛ノ情見ルベキモノアリ仍テ

起訴不起訴篇

起訴ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ主文ノ如ク裁定シタリ

有價證券偽造行使詐欺

(起訴猶豫)

被疑者ハ××電燈株式會社土木課雇ナルトコロ昭和十三年六月初旬頃右會社ニ於テ同年五月三十一日有効期間滿了シ無効ニ歸シタル××鐵道株式會社發行河上○○○名義ノ職員證ヲ發見シ之ヲ自己名義ノ職員證トナシ且有效ナルモノノ如ク爲シ以テ××市電ニ無賃乗車センコトヲ企テ其ノ頃××電燈株式會社ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ右職員證ノ氏名ヲ中川○○○ニ其ノ有効期限ノ三ヲ四ニ夫々書キ換ヘ以テ有價證券一通ヲ偽造シ其ノ頃ヨリ同年七月十日頃迄ノ間前後約五十回ニ亘リ××市電ニ乗車シ乗務員ニ對シ偽造ニ係ル右職員證ヲ恰モ眞正ニ成立セルモノノ如ク裝ヒ呈示シテ行使シ乗務員ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ其ノ都度乗車賃ノ支拂ヲ免レ合計約金三圓ニ相當スル財産上不法ノ利得ヲ爲シタルモノナリ

右事實ハ明白ナルモ被疑者ニ前科ナク本件犯行ハ職員證ニヨリ乗車シタキ好奇心ヨリ出デタル偶發的ノモノニシテ財産上ノ被害輕微深ク前非ヲ悔イ居リ改悛ノ情顯著ナルヲ以テ起訴ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ主文ノ如ク裁定シタリ

公正證書原本不實記載同行使 (告訴) (嫌疑ナシ)

本件告訴ノ要旨ハ

告訴人ハ昭和十二年九月頃自己所有ノ××市××區××××町五十五番地ノ四宅地百五十一坪外二筆上ニ被疑者ヲシテ建物三筆ヲ建築セシメ右建築代金殘額金二千四百圓ノ支拂ノタメ同年十一月二十七日同市××區××××××○地方裁判所所屬公證人染井○○○役場ニ於テ第四七六四三號抵當權設定金錢貸借契約證書ヲ作成シ告訴人ハ右殘金債務ノ擔保トシテ右宅地竝建物上ニ第二番抵當權ヲ設定スル旨ノ契約ヲ爲シタルモ更ニ合意ノ上同年十一月三十日同市××登記所前司法書士阪上○○○方ニ於テ被疑者ハ前記宅地竝建物ヲ代金二千七百三十圓四十八錢ニテ告訴人ニ賣渡スコトニ契約シタリ依テ右契約ニヨリ前記第四七六四三號契約證書ハ無効ニ歸シタルニ拘ラズ被疑者ハ昭和十三年七月十八日××區裁判所××出張所ニ於テ告訴人名義ヲ以テ前記宅地竝建物ニ付被疑者ニ對シニ番抵當權ヲ設定スル旨ノ不實ノ登記申請ヲ爲シ同所登記官吏ヲシテ登記簿ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメ即時之ヲ同所ニ備付ケシメテ行使シタルモノナリ

ト謂フニ在レドモ被疑者ハ右公正證書ニ依ル契約ガ後日取消サレタル事實ヲ否認シ右契約ニ基キ

起訴不起訴篇

六九

權利ノ實行ヲ爲シタルニ過ギズト辯疏シ他ニ告訴事實ヲ認ムベキ證憑ナシ
追テ本件告訴ハ取消濟シ

恐喝・傷害

(起訴猶豫)

被疑者ハ

第一 昭和十三年九月二十九日××市××區××通××××町蒲鉾製造業岸本〇〇方ニ於テ
醉餘同人ニ對シ金三圓ノ貸與方ヲ強要シ豫テ被疑者ノ酒癖惡シキヲ知レル同人ヲシテ若シ此ノ
要求ニ應ゼザレバ如何ナル暴行危害ヲ加ヘラレルヤモ知レズト畏怖セシメ因テ同人ヲシテ計金
二圓五十錢ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シ

第二 前同日同所ニ於テ岸本〇〇ノ左頬ヲ毆打シ治療約五日間ヲ要スル打撲傷ヲ負ハシメ
タルモノナリ

右事實ハ明白ナルモ本件ハ醉餘ノ犯行トモ認メラレ被疑者ハ將來禁酒スル旨誓約シ改悛ノ情アリ
被害者ニ於テモ處罰ヲ望マズ仍テ嚴戒ノ上主文ノ如ク裁定シタリ

傷 害

(起訴猶豫)

被疑者ハ昭和十三年七月十五日午後十時過××市××區××町四十七番地小田原湯小南〇〇
〇方附近ノ道路上ニ於テ同人方雇人申〇〇〇ト口論ノ末所携ノ薪ヲ以テ同人ノ左顔面ヲ毆打シ全
治二週間ヲ要スル顔面ノ打撲裂傷ヲ負ハシメタルモノナリ
右事實ハ明白ナルモ被疑者ハ前科無キ十九歳ノ青年ニシテ此ノ度現役志願ヲ爲シ甲種合格トナリ
近ク入營ノ豫定ナルノミナラズ傷害ノ程度モ必ズシモ重カラズ既ニ私和ヲ遂ゲ居レルヲ以テ嚴戒
ノ上主文ノ如ク裁定ス

傷 害

(起訴猶豫)

被疑者山田〇ハ自動車運轉者ナルトコロ昭和十三年十月二十三日午前四時頃××府××郡×町京
阪國道ニ於テ助手森〇〇ト口論ノ末自轉車用電池ヲ以テ同人ノ顔面ヲ毆打シ因テ同人ニ對シ全治
約十日ヲ要スル顔面擦過傷ヲ負ハシメタルモノナリ
右事實ハ明白ナルモ山田〇ハ森〇〇ト同ジ店ニ雇ハレ共ニ運送ノ業務ニ従事スル者ナルガ當日京

起訴不起訴篇

阪國道×町ニ於テ自動車ニ故障ヲ生ジタル際森○○ガ何等爲ス所ナク傍觀シ居リタルヲ憤リ斯ル犯罪ヲ爲セルモノニシテ右擦過傷ハ治療費二圓全治迄ニ五日ヲ要シタル輕傷ニ過ギズ被疑者ニ前科又ハ起訴猶豫ナク治療費ハ既ニ辨償シ且被害者モ處罰ヲ望マザルヲ以テ起訴ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ主文ノ如ク裁定シタリ

傷害

(被疑者太郎、三郎起訴猶豫
被疑者二郎嫌疑ナシ)

本件送致事實ノ要旨ハ

被疑者等三名ハ昭和十三年十月四日午後十時過××市××區××××××××町遊廓大○樓支店前道路ニ於テ被疑者太郎ガ折カラ通行中ノ小林○○ト突當リタルヨリ口論トナリ被疑者二郎太郎兩名ハ所携ノ傘ヲ以テ小林ヲ毆打シ被疑者三郎ハ陶製花瓶ヲ小林ニ投付ケ因テ小林ニ對シ左側前額部等ニ全治八日間ヲ要スル切創等ヲ負ハシメタルモノナリト謂フニ在リ

被疑者太郎三郎兩名ニ付テハ右事實ハ明白ナルモ兩名ニ同種行爲ニ依ル前科無ク偶發的犯行ト認メラレ既ニ兩名ニ於テ治療費五圓ヲ支拂ヒ私和ヲ遂ゲ居レルヲ以テ嚴戒ヲ加フルニトドメ被疑者

二郎ニ付テハ右犯行ヲ否認シ單ニ右犯行ヲ傍觀シ居リテ犯行ニ加擔セザリシ旨辯疏シ其ノ他關係人ノ陳述ニ徴スルモ同人ノ犯行ヲ認ムベキ證明十分ナラズ仍テ主文ノ如ク裁定ス

傷害

(龜井○○○○嫌疑ナシ
中村○○○○起訴猶豫)

本件告訴ノ要旨ハ

被疑者兩名ハ昭和十三年十月二十八日××市××區×××××町中林○○○方ニ於テ開催ノ公同衛生兩組合役員ノ宴會席上ニ於テ松原○○當四十一年ト些細ノ事ヨリ口論ノ上同人ヲ拳ニテ毆打シ同人ノ右外眦部等ニ治療約五日ヲ要スル傷害ヲ負ハシメタルモノナリト謂フニ在リ

仍テ捜査ヲ遂グルニ被疑者中村○○○ニ付テハ右事實ハ明白ナルモ同人ハ告訴人ニ陳謝シ同人モ之ヲ諒トシ告訴ヲ取消シタルニ依リ起訴ヲ猶豫スベキモノト認メ

被疑者龜井○○○ハ右事實ヲ否認シ告訴人ノ供述ニ依ルモ之ヲ認ムルニ十分ナラザルヲ以テ犯罪ノ嫌疑ナキモノト認メ

起訴不起訴篇

右事實ハ明白ナルモ被害者ハ自轉車ニテ幅員僅カニ米餘ノ該脇道ヨリ幅員七米弱ノ府道ニ出デ左折セントスルニ當リテハ該府道ハ相當交通頻繁ナルヲ以テ一旦府道ニ出デ停止シ左右ヲ注視シ危険ナキコトヲ確メタル上左折スベキニ拘ラズ被害者ハ全然之ヲ爲サザリシ爲メ本件事故發生シタルモノト認メラルルヲ以テ被害者ニ於テモ此ノ點ニ關シ重大ナル過失アリテ被疑者ノ過失ノ程度ハ輕微ナルノミナラズ既ニ私和ヲ遂ゲ居リ被疑者ニ前科ナク將來ハ事故ヲ起サザル様十分ノ注意ヲナスベキ旨誓ヒ居レルニヨリ主文ノ如ク裁定シタリ

追テ被疑者ガ出發ニ際シ不注意ニモ運轉臺ニ助手外ニ二名ヲ同乗セシメ内一名ハ運轉者席ノ右側ニ座セシメタル爲事故發生ノ際急停車ノ措置トシテ「サイドブレーキ」ヲ使用スルコトヲ得ズシテ事故ヲ發生セシメタリトノ點ニ付キ詮索スルニ二十五軒ノ速度ヲ以テ進行中約六米前方ニ被害者ヲ發見シ直チニ急停車ノ措置トシテ「サイドブレーキ」ヲ使用シタリトスルモ被害者モ自動車ニ向ヒ進行シ來リタルモノナレバ果シテ本件事故發生ヲ防止シ得タリト認ムルニハ證據十分ナラズ

業務上過失傷害

(嫌疑ナシ)

本件送致事實ノ要旨ハ

被疑者ハ自動車運轉者ナルトコロ昭和十三年十月十八日午前十時四十分頃乗用自動車×第二六二〇號ニ客四名ヲ乗セ之ヲ運轉シ×市×區×町電車通ヲ時速約二十哩ヲ以テ南行シ××町十字路ニ差蒐リタル際左前方約十二米ノ車道上ニ西向キニ佇立セル〇〇愛之助當六十五年ヲ認メタルガ斯ル場合自動車運轉者タル者ハ音響器ヲ吹鳴シ且愛之助ノ舉動ヲ注視シ何時ニテモ停車シ得ル様徐行ノ措置ヲ執リテ進行スベキ業務上ノ注意義務アルニ拘ラズ之ヲ怠リ右愛之助カ自己ノ運轉スル自動車ニ氣付キ待避セルモノト輕信シ漫然進行ヲ續ケタル過失ニ基キ突如東ヨリ西ニ道路ヲ横斷セントシタル愛之助ニ自己自動車左側窓硝子ノ後部ヲ衝突セシメ同人ヲ刎ネ飛バンシテ同人ニ治療約二週間ヲ要スル前額部等ノ擦過傷ヲ負ハシメタルモノナリト謂フニ在レドモ被害者愛之助ハ右眼竝右耳ニ故障アリテ自動車ノ接近ニ氣付カズ車道左側ニ佇立シ居リ該自動車ガ自己ノ直前ニ接近シ來リタルヲモ知ラズシテ北行電車ニ乗車センガ爲メ突如駈出シ該自動車ノ左側後方窓硝子ニ自ラ衝突負傷シタルモノト認メラルルニヨリ被疑者ノ過失ニ基キタルモノト認ムベキ證據十分ナラザレバ犯罪ノ嫌疑ナキモノト認メ主文ノ如ク裁定シタリ

業務上過失傷害

(嫌疑ナシ)

本件送致事實ハ

被疑者ハ荷馬車輓ヲ業トセルモノナルトコロ昭和十三年九月六日午後三時頃石炭約千五百斤ヲ積載シタル荷馬車ヲ輓キ××市××區××通××××道路上ヲ北方ニ向ヒ進行中同所東側××糊店前ニ差蒐リタルガ××通りハ道幅僅ニ四米餘ニ過ギザル狹キ道路ニシテ折柄××方前ニハリヤカ一臺ガ放置セラレアリテ通行困難ナル狀況ニアリタルガ斯ル場合荷馬車輓ハ須ク前方ニ對シ注意ヲ拂フトトモニ左側方ニモ荷馬車ノ通行ヲ妨グベキ障礙ナキヤヲ確認シ適切ナル處置ヲ講ジタル上進行スベキ業務上ノ注意義務アルニ拘ハラズ被疑者ハ單ニ右側方ニ注意ヲ拂ヒタルノミニテ前方及左側方ニ對スル注意ヲ怠リタル爲偶々反對方向ヨリ自轉車ニ乘リタルマ、荷馬車ノ左側方ヲ通り抜ケントシタル吉田○○(當十二年)ヲ發見セズ漫然進行ヲ繼續シタル過失ニ基キ荷馬車左側部ヲ同人ノ自轉車ニ接觸轉倒セシメ因テ同人ニ對シ治療約十週間ヲ要スル左下腿骨折傷等ヲ負ハシメタルモノナリト謂フニ在リ

仍テ捜査ヲ遂グルニ被疑者ガ右日時荷馬車ヲ輓キテ右地點ヲ進行シタル際ニ前方ニ對スル注意ヲ怠リタル事實及其ノ頃被害者ハ自轉車ニ乘リテ反對方向ヨリ來リ右荷馬車左側方ヲ通り抜ケントシタルガ其際轉倒シテ傷害ヲ負ヒタル事實ハ孰レモ明ナルモ本件ハ被害者ガ荷馬車ノ左側方ヲ通り抜ケル際過ツテ轉倒シタル處偶々荷馬車輪ニ觸レ傷害ヲ負ヒタルモノニ非ズヤトモ思料セラレ、案件ニシテ被害者ガ被疑者ノ過失ニ基キ其ノ荷馬車ニ接觸シ因テ轉倒シタリトノ點ハ之ヲ認ムルニ難キヲ以テ本件送致事實ハ犯罪ノ嫌疑ナシ

業務上過失傷害

(嫌疑ナシ)

被疑者石岡○○ハ××市乗合自動車運轉者ナルトコロ昭和十三年八月十四日午後三時前頃××第六〇一五號乗合自動車ヲ運轉シ××市××區××××市電交叉點ニ差蒐リタル際赤色信號トナリタルヲ以テ市電安全地帯ノ西側車道ニ停車シタル處該地點自動車ノ西側ニ自轉車ニ乘リタル太田○○當十七年ガ自動車ニ並行シテ同時ニ停車シ青色信號ニ變ズルト共ニ兩車トモ發車セントスルニ當リ太田ノ自轉車ノ前後輪ニ相當ノ重量ノ荷物ヲ積載セルヲ認メ且道幅餘裕ナク同時發車ハ危険ナルニ依リ自轉車ノ發車ヲ待ツテ進行スルカ或ハ太田ニ對シ注意警告ヲ與ヘ危険ヲ未然ニ防止

起訴不起訴篇

スベキ業務上ノ注意義務アルニ不拘スル注意ヲ怠リ漫然同時發車シタル爲太田ガ完全ニ兩足ヲベタルニ掛ケザル間ニ自轉車ノ重量ノ爲地上ニ横倒シタル瞬間自動車ノ前輪ニテ同人ノ左足ヲ轢キ因テ左第二、三、四趾各骨折左足脊挫創左腰部擦過創全治約三週間ヲ要スル傷害ヲ負ハシメタルモノナリ

ト謂フニ在レドモ停車當時自動車ト太田〇〇〇トノ間ニ約半米ノ間隔アリタル事ハ司法警察官警部代理何某ノ實況見分書及石岡〇〇、太田〇〇〇兩名ノ陳述ニ依リ明ニシテ以上ノ狀況ニ於テ自動車自轉車ガ共ニ並行シテ出發シタランニハスル事故發生セザリシモノト言フベク本件事故ハ太田ガ自轉車ノ前後ニ合計八貫餘ノ石鹼ヲ積載セルニ不拘信號ノ變ルト共ニ周章出發シ爲ニ荷物ノ重量ニ依リ自轉車々體ガ傾斜シ出發際ノ自動車ノ左前端ニ倒レ掛リテ發生シタルモノト認ムルヲ相當トス尙スル場合ニ於テ猶且運轉者ニ求ムルニ自轉車ガ安全ニ出發シタル後ニ出發スベキ義務又ハ警告ヲ與フベキ義務アリトモ言ヒ難ク本件傷害ノ發生ニ運轉者ニ責ムベキ過失アリト認ムルヲ得ザルヲ以テ主文ノ如ク裁定シタリ

業務上過失傷害

(嫌疑ナシ)

被疑者ハ普通自動車運轉者ナルトコロ、昭和十三年九月九日午後六時過頃×第四五九六號普通自動車ヲ運轉シ××市××區××××××市電軌道西側車道ヲ南行シ居ル際反對ノ方向ヨリ〇〇大次郎ガ自轉車ニ乘リテ進行シ來ルヲ約百米前方ニ認メタルガ同人ニ對シ音響器ヲ吹鳴ラシテ警告ヲ與フルハ勿論常ニ同人ノ舉動ヲ注視シ之ニ應ジ何時ニテモ急停車ヲ爲シ得ル様徐行スル等適宜ノ措置ヲ採リ以テ事故ヲ未然ニ防止スベキ業務上ノ注意義務アルニ拘ラズ斯ル注意ヲ怠リ該自動車ト相當餘裕アル間隔ヲ保チテ離合シ得ルモノト輕信シテ漫然時速約四十軒ニテ進行ヲ續ケタル過失ニ依リ右大次郎ガ自動車ノ右側ヲ通過セントシテ自動車ニ接近スルヤ自動車ノ右側後輪泥除後端部ヲ同人ノ右足ニ接觸セシメ因テ右第四趾離斷創面治療約三週間ヲ要スル傷害ヲ負ハシメタルモノナリ

ト謂フニ在レドモ事故ヲ惹起シタル地點ナル市電軌道ノ兩側車道ハ幅員五・三米、四十分ノ一上リ勾配ノ直線舗裝道路ニシテ被疑者ハ夙ニ被害者ノ自轉車ヲ認識シ、車道ノ左端軌道敷石上ニ自動車ノ左側車輪ヲ載セ、軌道ニ沿ヒテ直行シタルモノニシテ車道ノ幅員ニ三米以上ノ餘裕アリ且當

時該地點ハ交通殆ンド無カリシ事ヲ認メ得ベク本件事故ハ斯ル餘裕アル道幅ナルニ拘ハラズ大次郎ガ下リ勾配ヲ利用シテ相當大ナル速力ヲ以テ下降シ來リタル際偶々自動車ト並行シテ上リ來リタル自轉車アルヲ認メタルヲ以テ無暴ニモ該自轉車ト自動車ノ中間ヲ通過スベク自動車ヨリ約一米ノ間隔ヲ隔テ、之ト並行ニ離合セントセシ際身體ノ平衡ヲ失ヒ爲ニ其ノ右趾ヲ自動車後部車體ニ觸レシメテ發生シタルモノト認ムルヲ相當トシ本件ノ如キ場合ニ於テ被疑者ガ警笛ヲ吹鳴ラシ又ハ徐行ノ措置ニ出デザリシコトハ過失ト認メ難キヲ以テ主文ノ如ク裁定シタリ

業務上過失致死

(嫌疑ナシ)

本件送致事實ノ要旨ハ

被疑者ハ×市電車運轉手ナル處昭和十三年九月三十日午後十一時頃第一四三號電車ヲ運轉シ×方面ヨリ××方面ニ向ヒ新××線ヲ進行中前方注視ノ義務ヲ怠リタル爲メ×市××區××町××踏切附近ニ於テ××市××區××町〇〇長次郎ヲ轢殺シタルモノナリト謂フニ在レドモ長次郎ノ娘婿〇〇勇太郎ノ陳述ニ依レバ長次郎ハ數年前ヨリ病氣トナリ最近多少精神ニ異狀ヲ呈シ居リタルモノナルガ本件發生ノ二三日前無斷家出シタル事實ヲ認メ得ベク本

件現場ハ××踏切北方三十六米餘ノ地點ニシテ其ノ附近ニハ道路ナキコト現場ニハ長次郎ノ下駄ヲ脱キ揃へ置キ且洋傘一本ヲ遺留シアルコト等ヲ綜合シ長次郎ハ病苦ノタメ自殺ヲ企テ右現場ノ信號燈ノ蔭ニ身ヲ隠シ被疑者ノ運轉スル電車ノ接近シ來レルヲ見テ軌道ニ飛込自殺ヲ遂ゲタルモノト認メラレ被疑者ノ過失ハ認メ難シ仍テ主文ノ如ク裁定ス

業務上過失致死

(嫌疑ナシ)

被疑者ハ××電車運轉者トシテ×橋×津間ノ××線電車運轉ニ従事シ居ルモノナルトコロ昭和十三年八月六日午後十一時頃第三十二號×津行普通電車ヲ運轉シテ××市××區××町九番地××川上流鐵橋附近ノ小踏切ヲ通過シタル際電車運轉者タルノ業務上ノ注意義務ヲ怠リ因テ同踏切ヲ横斷シ終リテ避讓シ居リタル同區柳山町三十三番地宋〇〇方同居林〇〇ノ抱へ居リタル丸太棒一端ニ電車ヲ接觸セシメ其ノ反動ニ依リ該丸太棒ヲ以テ同人左側胸部ニ打撲損傷ヲ負ハシメ因テ内出血ノ爲メ同日午後十一時四十分頃同線××車庫乗務員休養所内ニ於テ死亡スルニ至ラシメタルモノナリ

ト謂フニ在レドモ被疑者ハ當時同踏切西方約七十米ノ地點ニ於テ被害者ノ軌道横斷スル姿ヲ認メ直チニ警笛ヲ吹鳴シテ徐行シ被害者ガ踏切ヲ通過シ終リ安全ナル地點ニ達シタルヲ見極メタル上更ニ之ニ注意シツ、時速約十軒ノ徐行ヲナシテ同所ヲ通過シタルモ偶々被害者ガ蹣跚シテ抱ヘ居リタル丸太棒ノ一端ガ電車ノ車體左側ニ接觸シ其ノ反動ト該丸太棒ノ重力ニヨリ被害者ハ顛倒右胸部ニ打撲傷ヲ蒙リタルモノト認メラレ被疑者ノ業務上ノ過失ヲ認ムルニ足ル嫌疑ナキヲ以テ主文ノ如ク裁定シタリ

業務上過失致死

(嫌疑ナシ)

被疑者ハ××電氣鐵道株式會社××線電車運轉手ナルトコロ昭和十三年八月二十三日午後八時頃××行電車第五十五號ヲ運轉シ××市××區×××××町五ノ四十四番地地先ニ差懸リタル際前方約十米ノ××踏切北側ニ於テ××市××區××××町〇〇熊市當八十二年ガ北ヨリ南ニ踏切ヲ横斷歩行中ヲ認メタルヲ以テ直チニ急停車ノ措置ヲ採リタルモ及バズ過失ニ因リ右熊市ニ電車左前部ヲ衝突セシメ同人ノ頭部等ニ打撲傷ヲ負ハシメ因テ同日午後十時過同人ヲ死ニ致シタルモノナリ

ト謂フニ在レドモ被疑者ハ本件現場ニ差蒐ラントシタル際音響器ヲ吹鳴シ踏切ノ北側ニ待避シ居リタル被害者外二三名ヲ發見シ同人等ハ電車ノ進行シ來リタルコトヲ覺知シタルモノト認メ危險ナキコトヲ確認シテ進行ヲ繼續シタルガ被害者カ俄カニ横斷セントスルヲ發見シタルヨリ急停車ノ措置ヲ執リタルモ及バザリシ旨辯疏シ其ノ他目撃者〇〇利三郎外一名ノ陳述ニ依ルモ被疑者ノ過失ヲ認ムベキ嫌疑十分ナラザルヲ以テ主文ノ如ク裁定シタリ

追而本件ハ被害者ガ厭世自殺ヲ爲シタルモノニ非ズヤトノ風評アリ

失 火

(略式命令請求)

被告人ハ××府××郡××村大字×××ニ於テ製繩工場ヲ經營スル者ナルガ同工場附近ノ藁屑燒却場ハ設備極メテ不完全ニシテ平地ニ板塀ヲ以テ圍ヒタルニ過ギズ附近ニハ引火シ易キ被告人所有ノ藁置場、倉庫等近接シアリテ相當危險ナルニ拘ラズ平素ヨリ火ノ始末ニ十分ノ注意ヲ爲サズ自己ニ於テ監視ヲ爲サマルハ勿論定マリタル係員ヲモ置カザル不注意ニヨリ昭和十三年七月二十一日午前十一時過頃右燒却場ノ火ハ地上ニ散亂シ在リタル藁屑ヲ傳ハリ附近倉庫ノ前ニ積ミ在リタル自己所有ノ藁束ニ引火シ藁束約三百束及倉庫ノ一部ヲ燒燬シ同所東方約百米ノ地點ニ建テラ

トキハ胴元ニ於テ景品券ヲ取得スル方法ニ依リ被疑者〇〇寛二ハ胴元トナリ被疑者〇相介〇〇立雄兩名ハ客トナリ景品券名義ヲ以テ金錢ヲ賭シ賭事ヲ爲シタルモノナリ

ト謂フニ在レドモ檢案スルニ賭博トハ當事者間ニ財物ヲ賭シ豫定シタル偶然ノ事情ニ依リ輸贏ヲ決シ以テ其ノ財物ヲ得喪スル行爲ヲ指稱スルモノナリ而シテ被疑者寛二ハ十枚八錢ノ割ヲ以テ客ニ分與シタル景品券ヲ右區劃ニ置カシメ客ノ勝チタルトキハ景品券一枚ニ付煙草バツト一個ヲ客ニ呈スル方法ニ依リ射倖的行爲ヲ爲サシメタルモノト謂フヲ得ベキモ右所謂景品券ハ何レカノ區劃ニ置キ射倖的行爲ヲ爲ストキハ被疑者寛二ノ所得ニ歸シ客及被疑者寛二相互間ニ得喪ノ目的シテ賭シタル財物ナリト云フコトヲ得ズ單ニ客ノ勝チタル場合ニ於テ客ガバツトヲ取得スルノミニテ客ニ於テ何等物ヲ賭シタル事實ナキヲ以テ送致事實ハ賭博類似行爲ヲ以テ論ズルコトヲ得ベキモ未ダ以テ賭博罪ノ構成要件ヲ具備シタルモノト謂フコトヲ得ザルヨリ表記ノ如ク裁定シタリ

(參照)

- 一、昭和八年れ第一五二八號同年十二月二十二日第四刑事部判決(刑集一二卷二四三一頁)
- 二、大正六年四月三十日同年れ第六八九號刑錄二三輯四三八頁

姦 通

(告訴取消アリタルヲ以テ起訴セズ)

本件告訴ノ要旨ハ

被告訴人榮一ハ被告訴人セリガ告訴人ノ妻ナルコトヲ知リナガラ昭和十三年十月十四日ヨリ同月二十四日迄ノ間××市××區××××××××××旅町被告人榮一別宅ニ於テ同人ト姦通シタルモノナリ

ト謂フニ在レドモ本件ハ親告罪ナル處告訴取消アリタルヲ以テ主文ノ如ク裁定ス

墮 胎

(起訴猶豫)

被疑者俊子ハ仲居稼業中氏名不詳ノ男子ト私通シ妊娠シタルヲ以テ胎兒ノ措置ニ窮シ墮胎セムコトヲ決意シ昭和十一年十二月二日××市××區××××××××町四番地ノ六被疑者トク方ニ於テ同人ニ對シ墮胎ノ施術ヲ依頼シ被疑者トクハ右依頼ニ基キ外皮ヲ取り去リタル露ノ葉柄ヲ子宮内ニ挿入スル方法ニヨリ即日自宅離ノ間ニ於テ俊子ニ對シ墮胎ノ施術ヲナシ因テ同月五日妊娠三四ヶ月ノ胎兒ヲ墮胎シタルモノナリ

右事實ハ明白ナルモ被疑者俊子ハ初犯者ニシテ私生兒ヲ分娩シタル際ヲ憂慮シ本件犯行ニ及ビタルモノニシテ内縁ノ夫ト同棲シ現在妊娠中ナルモ今回ハ無事分娩スル旨誓約スルヲ以テ被疑者トクハ前科ナク墮胎施術ノ常習者ニ非ザルノミナラズ既ニ八十四歳ノ高齢者ニシテ老衰シ歩行モ困難ナル状態ニアルヲ以テ夫々嚴戒ノ上主文ノ如ク裁定シタリ

特殊犯罪事實篇

【第一輯 會社】

幽靈會社

(公正證書原本不實記載行使詐欺)

虛偽登記—幽靈株詐欺—(刑法第一五七條一項、第一五八條一項、第二四六條一項)

第一 被告人〇〇徳助〇〇徳次郎及〇〇朝五郎ハ船舶速進機製造株式會社ヲ設立ヲ企テ共謀ノ上 被告人徳助徳次郎朝五郎及〇〇新六外三名ヲ發起名義人ト爲シ船舶速進機製造販賣等ヲ事業ノ 目的トシ資本ノ總額三十萬圓一株ノ金額ヲ二十圓全額拂込済トスル旨ノ定款ヲ作成シ〇〇瑛外 八名ヲ株式申込名義人ト爲シ右發起名義人及株式申込名義人ガ株式總數ヲ夫々引受ケタルコトニ 卜爲シ全然株金ノ拂込ナク又創立總會ヲ開催セザルニ拘ハラズ適式ノ手續ヲ踏ミ大正十年十月 十日創立總會ノ終結ニ依リ成立シタルガ如ク装ヒ取締役及監査役ヲ正式ニ選任セザルニ拘ハラ ズ同月十八日大阪區裁判所ニ對シ前記虛構ノ事實ヲ記載シ該株式會社ノ登記申請ヲ爲シ登記官 吏ヲシテ登記簿ノ原本ニ其旨不實ノ記載ヲ爲サシメ同裁判所ニ之ヲ備ヘ付ケシメテ行使シ

第二 被告人徳助徳次郎朝五郎ハ適法ニ成立セザル右會社ヲ利用シ堅實ナル會社ニシテ有望ナル 事業ヲ營ムモノ、如ク装ヒ株式賣買又ハ金錢貸借ニ名ヲ藉リ他ヨリ金員ヲ騙取センコトヲ企テ

共謀ノ上大正十年十月十五日××市×區××〇〇編之助方ニ於テ同人ニ對シ右會社ガ眞實成立シ株金ノ拂込アル堅實ナル會社ニシテ目的タル事業ハ有望ナルガ如ク裝ヒ右會社取締役〇〇徳助振出ニ係ル金額五千圓ノ爲替手形一通及擔保トシテ右會社株式五百株ヲ差入レ同人ヲ欺罔シ貸借名義ノ下ニ金額四千五百五十圓ノ小切手一通ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シタルモノナリ

ボロ會社

(詐欺)

ボロ株詐欺—身許保證金詐欺—(刑法第二四六條一項)

被告人〇〇節〇〇健二兩名ハ昭和四年十月上旬資本金皆無ニシテ何等事業ヲ行ハズ名義上ノミ存在スル株式會社××機械製作所(登記簿上資本金十萬圓一株ノ金額五十圓)ヲ買收シ其商號ヲ帝國××株式會社ト變更シ被告人兩名共其ノ取締役トナリ土地家屋ノ所有者ヨリ委託ヲ受ケテ家賃及地代ノ取立ヲ爲ス等ノ事業ヲ行ヒ居リタルモノナルトコロ共謀ノ上

第一 右會社ニハ資本金ナク且目的事業成功ノ確タル見込ナキニ拘ラズ之アルガ如ク裝ヒ右會社ノ課長ヲ募集シ課長ノ責任株トシテ右會社ノ株式ヲ賣付ケ其代金名義ノ下ニ金員ヲ騙取センコトヲ企テ昭和四年十月十日大阪毎日新聞紙上ニ課長募集ノ廣告ヲ爲シ同日之ニ應ジテ來訪シタ

ル△△俊次ニ對シ××市×區×××ビルディング内ニ於テ被告人兩名ガ交々面接シ右會社ニ資本金ナキコトヲ隱蔽シ右會社資本金十萬圓全額拂込濟ニシテ其事業モ亦有望ニシテ年二割ノ配當ヲ爲シ得ルコト確實ナル旨申向ケ△△俊次ヲシテ右會社ニハ相當ノ資本金アリ其事業ノ成功確實ナル旨誤信セシメ同月十四日××市×區×××ビルディング内帝國××株式會社ニ於テ庶務課長就任ノ責任株トシテ右會社株式六十株ヲ買受ケシメ其代金名義ノ下ニ金三千圓ヲ交付セシメ次ニ右△△俊次ガ尙右會社ノ資本及事業ニ付前記ノ如ク誤信セルニ乘ジ更ニ同人ヲ同會社ノ重役ニ就任セシメ其責任株ノ代金名義ノ下ニ金員ヲ騙取センコトヲ企テ同月二十五日××市×區〇〇料理店△△樓ニ於テ被告人兩名ガ△△俊次ト會食シ同人ニ對シ右會社ニ資本金ナキコトヲ隱蔽シ其事業益々多望ナルニ付此際尙四十株ヲ所有セバ同人ヲ重役ニ爲スベク此機ヲ逸スレバ將來重役タラントスルモ其機ナカルベシト申向ケ同人ヲシテ其旨誤信セシメ右會社株式四十株ノ代金名義ノ下ニ同月二十七日××府××郡××道路上ニ於テ金二千圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第二 右會社ノ給料其ノ他ノ支拂ニ窮シタル末會社ノ事務上必要ニアラザル集金人支部長ヲ募集シ其ノ身許保證名義ノ下ニ現金又ハ有價證券ヲ騙取センコトヲ企テ

(一) 昭和四年十一月中ヨリ屢集金人募集ノ新聞廣告ヲ爲シ昭和四年十一月十五日ヨリ昭和五年一月十八日迄ノ間ニ前記帝國××株式會社ニ於テ應募者△△綱男外十一名ニ對シ同人等ノ身元保證金ハ右會社ノ支拂ニ流用スル目的ニシテ之ヲ流用シタルトキハ後日之ヲ返還シ得ル確タル見込ナキニ拘ラズ退職ノ節ハ必ず返還スベキ旨約束シ同人等ヲシテ其旨誤信セシメ身元保證金名義ノ下ニ合計金三千百圓ヲ交付セシメ

(二) 昭和四年十二月中旬支部長募集ノ新聞廣告ヲ爲シ其ノ頃前記會社内ニ於テ應募者△△慶吉ニ對シ同人ノ身元保證金代用證券ハ前記集金人ノ保證金同様返還シ得ル確タル見込ナキニ拘ラズ退職ノ際ハ之ヲ必ず返還スベキ旨約束シ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ同月二十五日右會社内ニ於テ身元保證金代用名義ノ下ニ宇治川電氣株式會社外ニ會社株券合計三十株時價金一千五百圓相當ノモノヲ交付セシメテ之ヲ騙取シタモノナリ

銀行不正重役 其の一 (背 任)

放漫貸付—空定期預金證書—銀行賣込—(刑法第二四七條)

被告長治同敏雄ハ〇〇市××ニ本店ヲ、××市×區××ニ支店ヲ有スル資本金四百萬圓拂込金百

萬圓ノ株式會社××商業銀行ノ常務取締役ニシテ同銀行萬般ノ業務ハ主トシテ右兩人並ニ當時ノ常務取締役兼營業部長〇〇安太郎ト協議ノ下ニ專行シ被告允ハ前記××支店ノ支店長代理次デ支店長トシテ同支店ニ屬スル一切ノ事務ヲ擔當シ來リタル者ニシテ同支店ノ相談役且同銀行ノ大株主ナル××市×區××△△△△ハ投機ニ因リ巨額ノ富ヲ爲シタルトコロ大正九年三月下旬ヨリ翌四月ニ亘ル一般經濟界ノ恐慌ハ諸株式ノ暴落ヲ來タシ同人亦甚大ノ損失ヲ招キ金融ハ愈逼迫シ將ニ支拂ヲ停止セントスルノ窮境ニ陥リシガ其後ニ於テモ同人ノ財政狀態ハ概シテ變調ヲ來タシ殊ニ大正十年九月頃ヨリ期米ノ思惑買ヲ爲シ更ニ鐘ヶ淵紡績新株ノ買占ヲ企テ大失敗ニ歸シ終ニ大正十一年二月二十八日自ラ支拂停止ヲ發表シ同年十月十一日當裁判所ニ於テ破産ノ宣告ヲ受クルニ至レリ、先是××商業銀行××支店設置ノ際並ニ同銀行金融逼迫ノ際同銀行ハ屢右△△ノ援助ヲ受ケタルコトアリテ銀行首腦者中大ニ之ヲ德トスル者アリ剩サヘ同行員中△△ヨリ家計ノ補助ヲモ受ケタル者アリ殊ニ被告人等ハ右△△ヲ以テ同銀行ノ大恩人ナリト思惟シ前示△△ノ財政狀態ヲ察知シ同人トノ取引ハ適當ノ手段ヲ講ズルニアラザレバ直ニ銀行ノ損害ヲ惹起ス可キヲ熟知シ乍ラ銀行ヲ犠牲トスルモ極力右△△ヲ救濟セザル可カラズト爲シ被告等共諾ノ上

第一

(一) 大正九年四月初旬以降大正十一年二月二十八日迄ノ間右△△ノ利ヲ圖リ同人ノ資金融通ニ供スル目的ヲ以テ同人ニ對シコールローン割引手形當座貸越手形貸付支拂保證等ノ名義ニテ總額三千七百七十八萬七千九百九十九圓四十一錢ノ巨額ニ上ル放漫ナル貸付ヲ爲シ殊ニ内二千二十八萬三千六百六十圓二十六錢ニ對シテハ何等ノ擔保ヲモ受入レズシテ貸付ケタル處前記△△ノ支拂停止ノ結果××商業銀行ハ二百四十八萬三千二百四十四圓九十二錢ノ無擔保貸付ニツキ殆ンド之ヲ回收スルコト能ハザルニ至ラシメ

(二) 前記期間内前同様ノ目的ヲ以テ右△△ト通謀シ何等預金無キニ拘ラズ恰モ同人又ハ其緣故者ノ手形割引金又ハ當座貸越金ヲ定期預金ニ振替ヘタルモノノ如ク假裝シ××商業銀行大阪支店長名義右△△又ハ其緣故者ニ宛テタル虛偽ノ定期預金證書合計五十五通額面千百四十二萬六百五十圓ノモノヲ發行シテ△△ニ交付シ同人ハ之ヲ株式會社××銀行○○支店其他ノ取引銀行ニ擔保ニ差入レ金借シ其後前示ノ如ク支拂ヲ停止シタルガ爲當時現存シタル額面三百二十九萬五千圓ノ分ニ付××商業銀行ハ右△△ノ取引銀行ニ對シ之ニ因リ生ジタル損害ヲ賠償セザル可カラザルニ至ラシメ

第二 右期間中ナル大正十年七月頃○○市ニ於テ右××商業銀行ト株式會社××銀行トノ合併間

題起リ被告長治同敏男等ハ該合併ニ同意スルコトヲ條件トシテ相當ノ功勞金ヲ貰受クルコトトナリタルガ同人等ハ到底大株主タル前記△△△ノ贊成ヲ得難キヲ豫期シ寧ロ同問題ヲ利用シテ將來××商業銀行ノ經營ヲ△△一個ノ自由ニ任ス可キ旨申入レ同人ヨリ金員ヲ供與セシムルニ若カズト爲シ同年八月下旬被告長治ハ○○安太郎ト共ニ前記△△方ニ同人ヲ訪ヒ右合併問題ノ成行ヲ告ゲ若シ同人ニ於テ不同意ナレバ之ヲ中止シ將來××商業銀行ノ經營ハ擧ゲテ同人ノ自由ニ委ス可キニヨリ其報酬トシテ金十五萬圓ヲ贈與セラル可キ旨申入レ其承諾ヲ得タル上同金額ハ自行ヨリ融通スルコトトシ△△引受○○太郎振出額面五萬圓ノ爲替手形三通ヲ交付セシメ同年九月一日右十五萬圓ヲ無擔保ニテ△△ニ銀行トシテ貸付ケ更ニ之ヲ被告長治同敏男及ビ該合併問題ニ關係セル他二名ニ於テ受取り分配シ因テ△△ノ前記支拂停止ノ結果××商業銀行ニ對シ内金十四萬圓ニ付第一ノ(一)ト同様ノ損害ヲ被ラシメタルモノニシテ××商業銀行ハ其結果大正十一年三月遂ニ閉店ノ已ム無キニ立到リタリ而シテ被告三名ノ各行爲ハ其犯意繼續ニ係ルモノトス

銀行不正重役 (其の二)

(背 任)

放漫金融（刑法第二四七條）

被告人ハ外數名ト株式會社××銀行ヲ設立シ取締役トナリ他ノ取締役タル節次郎丑太郎正一ト共謀ノ上互ニ右銀行資金ヲ融通シテ他ノ事業ヲ興シ以テ利得セムコトヲ企圖シ右三名ノ全員若ハ一員或ハ其他ノ者等ト共ニ××紡績株式會社××製材株式會社××竹工株式會社等ヲ相次デ設立シ各自其關係會社ノ大株主トナリ就中被告人ハ右諸會社ノ常務取締役若ハ取締ノ地位ヲ占メ一面右××銀行ニ於テ二回ノ増資ヲ行ヒ其新株ノ多數ヲ引受ケ是等諸會社ノ引受株及銀行ノ新株ノ拂込金並前記諸會社ノ事業資金ハ其大部分ヲ右銀行ヨリ借入レ且被告人ノ親族又ハ知人ニ於テモ前示諸會社ノ引受株ニ對スル拂込金ヲ同銀行ヨリ借入レタルガ同銀行トノ間ニ於ケル是等ノ取引ニ付被告人自ラ借主トナリ又ハ右諸會社ノ代表者トナリ或ハ諸會社及親族知人等ノ保證人トナリ右銀行取締役ノ他位ニ在リナガラ自己又ハ第三者ノ利益ヲ圖ル爲其任務ニ背キ犯意ヲ繼續シ

(一) 右銀行ト極度一萬圓ノ當座貸越契約ヲ締結シアルノミニ拘ラズ大正十一年十月三十日ニ於テ四萬七千餘圓ノ借越ヲ爲シ

(二) 前記諸會社及被告人ノ利害關係アル各會社ガ右銀行ト貸越契約ヲ締結シテ取引ヲ爲スニ際シ自ラ借受人ノ保證人トナリ大正十一年十月三十日ニ於テ三萬二千三百圓ノ借越ヲ爲シ

(三) 被告人ハ自己ノ單純借用ノ方法ニ依リ右銀行ヨリ借出シ大正十一年十月三十日ニ於テ五萬餘圓ノ債務ヲ負ヒ

(四) 前記關係諸會社其他親族知人等ガ單純借用ノ方法ニ依リ右銀行ヨリ借出ヲ爲スニ際シ之ガ保證人トナリ大正十一年十月三十日ニ於テ九萬千餘圓ノ債務ヲ負ヒ而シテ同銀行監査役ノ承認ヲ得ズ多クハ殆ンド無擔保ニテ銀行資金ヲ放漫ナル自己借用又ハ第三者ノ借用ニ付保證ヲ爲シ相被告人等ノ被告人ト同様ノ借出又ハ保證ト相俟テ同銀行ヲシテ漸次運轉資金ノ缺乏ニ依リ全ク金融ノ閉鎖ヲ來シ遂ニ大正十一年十月三十日支拂停止ヲ爲スノ已ムナキニ至ラシメ同銀行ヲシテ多額ノ損害ヲ蒙ラシメタルモノナリ

信用組合の不正理事

（業務上横領、有價證券偽造行使）

組合金横領—彌縫策—ダブル—（刑法第二五三條、第一六二條一項、第一六三條一項）

被告人〇〇利彦ハ

第一 〇〇市××町ニ事務所ヲ有スル有限責任〇〇信用組合ノ専務理事トシテ組合ノ事務一切ヲ統轄シ事實上組合所有ノ現金ヲ支配シ業務上之ガ占有ヲ爲シ居リタルモノナルトコロ大正十一

年三月頃ヨリ昭和五年六月頃迄ノ間數百回ニ亘リ其ノ業務上占有ニ係ル組合所有ノ現金約三十
六萬五千五百圓ヲ〇〇市〇〇市等ニ於テ擅ニ營利事業資金等自己ノ用途ニ費消横領シ

第二 右金員ノ一部ニ付恰モ眞實借主ヨリ擔保差入アリテ組合ガ之ニ貸付ヲ爲シタルモノナルガ
如ク裝ヒ以テ右横領ノ犯跡ノ一部ヲ蔽ハンガ爲(イ)當時××無盡株式會社ノ取締役トシテ株
券ノ發行事務等會社ノ事務一切ヲ統轄シ居リタルヲ奇貨トシ昭和三年五月頃情ヲ知ラザル〇〇
市××印刷業△△舍事△△英一ニ對シ同會社ノ發行スベキ五十株百枚ノ印刷調製方ヲ註文スル
ニ當リ行使ノ目的ヲ以テ擅ニ右百枚ノ外尙同様ノ品三百枚ヲ註文シ其ノ頃同人ヲシテ同所ニ於
テ同會社取締役社長△△博之ノ署名捺印アル同會社發行者名義ノ一株二十圓ノ全額拂込濟五十
株券三百枚ヲ印刷調製セシメテ之ヲ偽造シ(ロ)次デ昭和五年初頃前記組合事務所ニ於テ右偽
造株券ノ内十四枚ヲ眞正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒ擔保物件保管用ノ金庫内ニ備付ケテ之ヲ
一括行使シ

被告人〇〇謹三ハ

第三 前記組合ノ主席書記トシテ専務理事タル被告人利彦ヲ輔佐シ事實信用組合所有ノ現金ヲ支
配シ業務上之ガ占有ヲ爲シ居リタルモノナルトコロ大正十二年七月頃ヨリ昭和五年七月頃迄ノ

間數百回ニ亘リ其ノ業務上占有ニ係ル組合所有ノ現金約十七萬六千三百圓ヲ〇〇市等ニ於テ擅
ニ株式相場資金等自己ノ用途ニ費消横領シ
タルモノニシテ被告利彦ノ第一竝第二ノ(イ)各所爲被告人謹三ノ右所爲ハ夫レ夫レ犯意繼續ニ係
ルモノトス

匿名組合利用の詐欺 (詐欺、公正證書原本不實記載行使)

ボロ會社買収—積立貯金名義—彌縫策—不實登記—(刑法第二四六
條一項、第一五七條一項、第一五八條一項)

第一 被告人等ハ昭和六年十二月七日資本金皆無ニシテ何等事業ヲ行ヒ居ラズ名義上ノミ存在ス
ル株式會社××組資本金壹百萬圓、株式總數貳萬株一株ノ金額五十圓各株ニ對スル拂込金十二
圓五十錢ノモノヲ約六百五十圓ニテ買收シ其ノ商號ヲ日本××株式會社ト變更シ其ノ目的ヲ一
般金錢貸付及金融資金出資ノ匿名組合ヲ組織シ相互間ノ利殖ヲ圖ル事トナシ各自同會社ノ取締
役トナリ××市×區×××××協會内ニ本店ヲ設ケ同月十八九日頃ヨリ營業ヲ開始シタルモ
ノナルトコロ同會社ハ開業當時ヨリ資金皆無ニシテ會社經營ノ資金ハ匿名組合員ヨリノ出資金

ヲ以テ支辨スルノ外ナキ状態ニシテ出資者ニ對スル利益金配當ハ勿論貸付及契約期間滿了時ニ於ケル拂込金返還等孰レモ之ヲ爲シ得ルノ見込ナキノミナラズ右出資金ハ匿名組合ノ性質上營業者タル同會社ニ歸屬シ損失ノ場合ニハ返濟スベキ義務ナキ關係ナルコトヲ奇貨トシ被告人等ハ共謀ノ上××府下及××縣下ニ支店代理店ヲ設ケテ多數ノ外交員ヲ使用シ同年十二月二十一日頃ヨリ昭和八年一月下旬頃迄ノ間右府縣下等ニ於テ約三千回ニ△△松三外約三千名ニ對シ匿名組合契約ニヨル出資ナル事ヲ祕シ千日間一日十錢宛金圓ヲ拂込ム時ハ右期間滿了後直ニ金百圓ニ配當金ヲ添付シテ返還シ遲滯ナク九十日又ハ百五十日以上拂込ミタル者ニ對シテハ簡便ニ契約金額ノ半額又ハ全額ヲ貸與スル（其他二百圓、三百圓、五百圓、千圓ノ各口ニ對シテハ同率ニ依ル）等出資者ノ利益ナル點ノミヲ申向ケ苟モ出資者ノ不利益ニ歸スベキ點ハ殊更ニ之ヲ告ゲズ尙同會社ハ確實ナル會社ニシテ契約者ニトリ便利ナル金錢貯蓄ノ取扱ヲ營業トスルモノナリト詐稱シテ加入ヲ勸誘セシメ以テ同人等ヲシテ之ヲ眞實ナリト誤信シテ加入セシメ因テ右期間中右府縣下等ニ於テ右△△松三外約三千名ヨリ積立貯金拂込名義ノモトニ前後約二萬三千餘回ニ現金合計七萬九千七百餘圓ヲ受取リテ騙取シ

第二 被告人等ハ資金ナクシテ右會社ヲ經營中昭和七年六月頃此種金融會社ニ付監督官廳等ヨリ

内容調査セラレ、トノ風評ヲ聞知シ萬一無資産ナル事發覺セバ營業廢止處分ニ付セラレ、ノ虞アルニヨリ共謀ノ上各株ニ對シ更ニ金三十錢ノ拂込ヲ爲シタルガ如ク裝ヒ表面ヲ糊塗セムコトヲ企テ何等拂込ヲ爲ササルニ拘ラズ同年七月十六日△△貫一郎ヲ介シ各株ニ對シ金十二圓八十錢ノ拂込ヲ完了シタル旨ノ記載ヲ爲シタル登記事項變更ノ申請書ヲ××區裁判所ニ提出シ其ノ旨虚偽ノ申立ヲ爲シ同日同裁判所ノ登記官吏ヲシテ登記簿ノ原本ニ其ノ旨不實ノ記載ヲ爲サシメ即時該原本ヲ同裁判所ニ備付ケシメテ行使シタルモノナリ

【第二輯 偽物】

不正株

(其の一)

(有價證券偽造行使詐欺)

偽造株—失權株—ヘッチ株—(刑法第一六二條一項、第一六三條一項、第二四六條一項)

第一 被告人○○寬一ハ行使ノ目的ヲ以テ昭和五年二月中旬頃××市×區××町××ビルディング及××市××區×町駿河屋旅館ニ於テ○○久吉○○小一郎○○廣治郎○○稻城ニ對シ偽造ニ係ル日清紡績株式會社株式十株券四十六枚ヲ三回ニ分チ交付シ

第二 被告人〇〇久吉〇〇小一郎〇〇廣治郎〇〇稻城ハ共謀ノ上同月中旬頃〇〇市××町〇〇信用組合事務所ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ同組合理事〇〇利彦ニ對シ右偽造ニ係ル日清紡績株式會社株式十株券四十六枚ヲ二回ニ分チ交付シ

第三 被告人〇〇銀藏ハ〇〇春雄ト共謀ノ上行使ノ目的ヲ以テ擅ニ南滿洲鐵道株式會社ノ社債券ヲ偽造センコトヲ企テ昭和四年六月二十九日××市××區××ナル被告人〇〇岩吉ノ當時ノ住居ニ於テ同人及〇〇俊造ノ兩名ヨリ同社債券偽造ノ用ニ供スベキ「南滿洲鐵道社債」ノ文字ヲ透ニテ表ハシタル用紙十八枚ヲ買受ケ同年十月中旬頃右用紙中ノ十七枚及銅版三個ヲ〇〇市××石版印刷業〇萬吉ニ交付シテ同社債券ノ印刷方ヲ依頼シ其ノ頃同人ヲシテ同人方ニ於テ右用紙及銅版ヲ使用シテ同會社ノ第二十三回社債ノ五千圓券十七枚ヲ順次ニ印刷セシメテ偽造シ被告人〇〇岩吉ハ〇〇俊造ト共謀ノ上被告人〇〇銀藏等ガ行使ノ目的ヲ以テ右社債券ヲ偽造スルノ情ヲ知りナガラ同年六月二十九日前記被告人岩吉ノ當時ノ住居ニ於テ同社債券偽造ノ用ニ供スベキ右透入り用紙十八枚ヲ被告人銀藏ニ賣却シ同人等ヲシテ前掲ノ如ク同社債券十七枚ヲ順次ニ偽造スルニ至ラシメ以テ同人等ノ偽造行爲ヲ幫助シ

第四 被告人〇〇銀藏〇〇平藏〇〇安吉〇英太郎ハ共謀ノ上行使ノ目的ヲ以テ

(一) 昭和五年三月上旬頃××市×區×××ビルディングニ於テ被告人銀藏等ノ偽造シタル南滿洲鐵道株式會社ノ第二十三回社債ノ五千圓券三枚ヲ一括シテ〇〇稻城〇〇小一郎〇〇廣治郎ニ交付シ

(二) 同月中旬頃同市×區××町××市營電車停留所附近道路上ニ於テ前同様ノ偽造社債券一枚ヲ〇〇英次郎ニ交付シ

第五 被告人〇〇稻城〇〇小一郎〇〇廣治郎ハ共謀ノ上同月上旬頃前記〇〇信用組合事務所ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ同組合理事〇〇利彦ニ對シ右第四ノ(一)ノ偽造社債券三枚ヲ一括シテ交付シ

第六 被告人〇〇稻城ハ無効ノ株券ヲ利用シ他人ヨリ金錢ヲ騙取センコトヲ企テ
(一) 昭和五年一月十二日××府××郡××△△久之方ニ於テ同人ニ對シ無効ニ歸シタル株式會社日本產業貯蓄銀行ノ第一新株二百株分ノ株券ヲ有效ナル株券ナルガ如ク裝ヒテ交付シ之ヲ擔保ニ金千圓貸與セラレ度キ旨申入レ同人ヲシテ之ヲ有效ナル株券ナリト誤信セシメ因テ翌十三日××市×區××△△準治方ニ於テ久之ヨリ同人所有ノ現金千圓ヲ受取り騙取シ

第七 被告人〇〇留吉〇〇佐與藏ハ無價值ノ株券ヲ利用シテ他人ヨリ金錢ヲ騙取センコトヲ共謀シ昭和四年六月末頃〇〇縣〇〇郡〇〇町××無盡株式會社ニ於テ同會社專務取締役△△次

郎ニ對シ無價値ナル北海炭鑛株式會社株式百株券一枚ヲ示シ此株券ハ新聞紙ノ相場欄ニモ出テ居ル確實ナル株券ナリト稱シ恰モ新聞紙ノ相場欄ニ北炭ナル略語ニテ掲載セラレ居ル一株五十圓餘ノ時價ノ北海道炭鑛汽船株式會社ノ株券ナルガ如ク詐リ之ヲ擔保トシテ差入ルベキニ付金三千圓貸與セラレ度キ旨申込ミ△△次郎ヲシテ同株券ハ當時ノ大阪朝日新聞大阪毎日新聞等ノ相場欄ニ「北炭」ノ略語ニテ掲載セラレ居ル一株五十圓餘ノ時價ノ株券ナリト誤信セシメ因テ同月二十八日右〇〇無盡株式會社ニ於テ〇次郎ヨリ該株券ト引換ニ同會社所有ノ現金二千五百圓ヲ受取り騙取シタルモノナリ

不正株 (其の二)

(有價證券虛偽記入行使詐欺)

手入物—手形割引の擔保—(刑法一六二條二項、第一六三條一項)

第一 被告人〇〇清九郎ハ行使ノ目的ヲ以テ昭和三年十二月二十一日頃××市××區××町千三百三番地ナル當時ノ自宅ニ於テ株式會社十五銀行ノ新株式五十株券二枚(戊第四〇八號及路戊第一七二四號)ノ各表面ナル株金拂込記入場所ノ第一回拂込ガ記入サレアル次ニ其頃同市ノ印刷師ヲシテ刻セシメ置キタル「金一千二百五十圓」ナル印ト「專務之印」ナル印トヲ使用シ

擅ニ第二回乃至第四回ノ各拂込金額欄ニハ前者ノ印ヲ頭取ノ印欄ニハ後者ノ印ヲ押捺シ因テ右各株券ニ付第二回乃至第四回ノ拂込ガナサレタルモノ、如ク順次該二枚ノ株券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シ以テ何レモ全額拂込濟ノ如ク仕做シタル外昭和四年一月十四日頃及同月二十九日頃ノ二回ニ亙リ同所ニ於テ株式會社十五銀行ノ新株券五十株券二枚(第一六二〇號及路戊第一五四三號)五株券十三枚一株券五枚ノ各株券表面ノ株金拂込金額記入場所ニ前同様五十株券ニハ「金一千二百五十圓」五株券ニハ「金壹百二十五圓」一株券ニハ「金二十五圓」ナル印ヲ各頭取之印欄ニハ「專務之印」ナル印ヲ擅ニ夫々押捺シ因テ各株券ガ何レモ第二回乃至第四回ノ株金拂込ヲ了シタルモノ、如ク順次右各株券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シ次デ何レモ全額拂込濟ノ如ク仕做シ

第二 被告人〇〇清九郎及〇〇清松ノ兩名ハ共謀ノ上右被告人清九郎ガ虛偽ノ記入ヲ爲シタル株式會社十五銀行ノ株券中五十株券一枚(路戊第一五四三號)五株券十三枚及一株券五枚ヲ手形割引ノ擔保トシテ差入レ手形割引名義ノ下ニ他人ヲ欺罔シテ金員ヲ騙取センコトヲ企テ昭和四年一月三十日頃情ヲ知ラザル△△定次郎ヲ介シテ××市××町三百十三番地△△吉三ニ對シ右株券ガ何レモ真正ニ株金全額拂込濟ノモノナルガ如ク裝ヒ手形割引ノ擔保トシテ之ヲ一括シテ差入レテ行使シ△△吉三ヲ其旨欺罔シ因テ同日同人方ニ於テ同人ヨリ手形割引名義ノ下ニ金七

百八十三圓餘ノ交付ヲ受ケテ騙取シタルモノナリ
而シテ被告人清九郎ノ有價證券虛偽記入ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノナリ

不正株 (其三) (詐欺)

失權株利用—一流株—(刑法第二四六條一項)

被告人〇〇正二ハ昭和四年九月十七日横濱正金銀行ノ大正八年發行ニ係ル株式十株券額面金一千圓株券番號第二七四四一番一枚ヲ入手シ該株券ガ失權株ニシテ無効ノモノナル事ヲ知リナガラ〇定利ト共謀シ之ヲ有效ナル株券ナルガ如ク裝ヒテ他ニ擔保ニ差入レ借用名義ノ下ニ金員ヲ騙取セシコトヲ企テ被告人〇〇龍次郎ニ其ノ情ヲ告ゲ同被告人ハ之ニ加擔シ被告人〇〇龍次郎ハ更ニ被告人〇〇善次郎ニ其ノ情ヲ告ゲ同被告人モ亦之ニ加擔シ茲ニ被告人等ハ通謀ノ上被告人善次郎ハ其ノ衝ニ當リ同月十九日××市××區××△△與四郎方ニ於テ同人ニ對シ右失權株券ヲ示シ有效ナルモノノ如ク裝ヒ之ヲ擔保ニ差入ルベキヲ以テ金一千五百圓ヲ貸與セラレタキ旨申向ケ同人ヲシテ右株券ヲ有效ナルモノト誤信セシメタル上貸付名義ノ下ニ金一千五百圓ヨリ利息等ヲ差引キ殘額金一千九十圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シタルモノナリ

ハム

(有價證券變造行使詐欺)

帝國五分利公債—二十五圓を五千圓に—(刑法第一六二條一項、第一六三條一項、第二四六條一項)

被告人〇〇市之助ハ帝國政府發行ニ係ル公債證書ヲ變造シ之ヲ行使シテ不正ノ利益ヲ得シコトヲ企テ共謀ノ上被告人市松ハ昭和五年十月七日頃××市ニ於テ額面二十五圓ノめ號五分利公債證書二枚ヲ買求メ之ヲ額面五千圓ノ公債證書ニ變造スベク木印護謄印活字毛筆等ヲ準備シ右被告人兩名ハ犯意ヲ繼續シ行使ノ目的ヲ以テ翌八日ヨリ同月十日頃迄ノ間同市××區××ナル被告人市松方ニ於テ該證書ノ表面及裏面ノ額面金額利札金額等ヲ剃刀ニテ削取リ其ノ跡ニ右印判等ヲ使用シテ所要ノ文字ヲ押捺又ハ記載シ以テ額面五千圓券二枚ノ變造ヲ遂ゲタル後被告人市松ハ被告人莊一同義雄同市郎ニ對シ其ノ買收方ヲ交渉ノ結果被告人市郎ハ變造ノ情ヲ知リテ内一枚ヲ額面ノ二割二分ニテ買受ケ更ニ之ヲ他ニ行使シテ不正ノ利益ヲ得ント決意シ他ノ被告人等ハ之ヲ豫知シナガラ共謀ノ上同月二十九日××市××旅館△△屋ニ於テ取引スルニ當リ被告人莊一ハ同市×××十一番地ノ自宅ヨリ同旅館附近迄前記變造公債證書一枚ヲ携ヘ行キ被告人市松ニ手交シ被告人市松ハ右旅館ニ於テ被告人義雄立會ノ上代金ト引換ニテ被告人市郎ニ引渡サントシタル處同人ニ

於テ所持金無キ爲メ之ヲ擔保トシテ他ヨリ金借スルコト、シ先ヅ被告人市松ヨリ被告人市郎ニ對シ該證書ヲ交付シ被告人市郎ハ之ヲ携ヘテ同市××有價證券賣買業△△芳太郎方ニ至リ情ヲ知ラザル同人ニ對シ眞正ナル五千圓公債證書ノ如ク裝ヒ之ヲ擔保トシテ差入ル、ニ付金千百圓貸與アリ度旨申入レ右變造公債證書一枚ヲ交付シテ行使シ芳太郎ヲ欺罔シ即時同人ヨリ額面千五百圓ノ小切手一通ヲ受領騙取シタルモノナリ

農工債券偽造

(有價證券偽造行使詐欺)

豫備券—損紙—(刑法第一六二條一項、第一六三條一項、第二四六條一項)

被告人ハ數年前ヨリ株式會社××縣農工銀行發行ニ係ル農工債券ノ印刷方ヲ特約引受セル××市××區×××商事株式會社ノ取締役ナリシトコロ

第一

(一) 昭和五年三月末頃××市××區××昭和××株式會社ヨリ金八百圓ヲ借用シ××倉庫株式會社發行ニ係ル倉庫證券二通ヲ其ノ擔保トシテ差入レタルガ擔保ガ薄弱ナリトシテ更ニ確實

ナル擔保ノ差入方ヲ求メラレタルヨリ茲ニ其ノ前年十一月一日發行ニ係リ未ダ手許ニ存シ居リタル第一百回農工銀行債券ノ豫備券ヲ利用シテ農工債券ヲ偽造シ擔保ニ差入レン事ヲ企テ昭和五年四月十日頃前掲××商事株式會社ノ事務室ニ於テ同銀行取締役頭取ノ記名印章ノ存スル右豫備券二枚ノ本紙竝ニ利札ニ夫々債券番號ヲ印刷シテ同銀行取締役頭取△△孝藏發行名義ノ額面五百圓ノ農工債券二通(證第一、二號)ヲ順次ニ偽造シ

(二) (イ) 即日右二通ヲ前掲昭和××株式會社ニ持參シ同會社ニ於テ同會社取締役△△盛文ニ對シ前掲倉庫證券ニ代ヘ之ヲ一括シテ擔保ニ差入レテ行使シ

(ロ) 其ノ後同年五月六日頃豫テ取戻シ置キタル右偽造ノ五百圓ノ農工債券ノ内一通(證第一號)ヲ情ヲ知ラザル△△武雄ヲ介シ××市××區××株式會社△△友三郎商店ニ於テ同商店員△△宗次ニ對シ眞正ナルモノ、如ク裝ヒ賣渡シテ行使シ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ即時同人ヨリ代金名義ノ下ニ金四百九十圓ヲ右武雄ノ手ニ交付セシメテ受取り騙取シ

(中 略)

第三

(一) 既ニ昭和三年二月十日發行ニ係リ其ノ印刷當時ヨリ印刷參考品ト拘換ヘ所持シ居リタル債

券番號が殆ど見エザル程度ニ印刷シ損ヒタル第九十八回農工銀行債券ノ損紙ノ手許ニ存スルヲ奇貨トシ昭和五年五月二十一日頃前同様××商事株式會社事務室ニ於テ擔保ニ差入レノ目的ヲ以テ銀行取締役頭取ノ記名印章等ノ存スル前記損紙ノ本紙並利札ニ更ニ債券番號ヲ明瞭ニ印刷シテ同銀行取締役頭取△△吟右衛門發行名儀ノ額面五千圓ノ農工債券一通(證第三號)ノ偽造ヲ完成シ(以下略)。

検査票冒用

(公務所記號不正使用)

××縣穀物検査證票紙—剝離—貼付—(刑法第一六六條二項)

被告人ハ肩書住居ニ於テ精米兼穀商ヲ營ミ居ルモノナルトコロ從來××市内ニ於テハ肥前産糯ガ他縣産糯ニ比シ高價且多量ニ取引セラレ居レルニ乘ジ其手持ノ他縣産糯ヲ肥前産糯ノ如ク裝ヒテ販賣センコトヲ企テ昭和六年一月下旬頃ヨリ同年二月下旬頃迄ノ間ニ亘リ被告人ノ右店舗ニ於テ店員△△一男及△△甚松ニ命ジ右手持支糯ヲ精白シテ肥前産糯用四斗入古吟ニ詰込ミ肥前式ノ依裝ヲ爲サシメタル上之ニ他ノ肥前産糯古吟ヨリ剝離シタル××縣穀物検査所吏員ガ糯ノ検査ヲ爲シ糯ノ品位ガ昭和五年度××縣二等ニ相當スルコトヲ證明スル爲メ糯ノ包裝ニ貼用スル「××

縣二等昭和五年度穀物検査證票紙」ト刷記セル紙票ヲ附着セシメ以テ××縣穀物検査所ノ記號ヲ貼付シ真正ノ肥前産二等白糯ナルガ如ク裝ヒタルモノ約百八十八吟ヲ製作セシメ右期間内ニ之ヲ肥前産二等白糯ナリト稱シテ××市×區×△△商店事△△豊治方外××市内十數箇所ニ於テ同人外十數名ニ各販賣交付シ依テ右××縣穀物検査所ノ記號約百八十枚ヲ不正ニ使用シタルモノナリ

偽造印紙

(印紙犯罪處罰法違反詐欺)

一圓印紙の寫眞銅版—訴狀貼付—(印紙犯罪處罰法第一條、第二條、刑法第二四六條一項)

第一 被告人四名ハ共謀ノ上行使ノ目的ヲ以テ帝國政府發行ノ壹圓收入印紙ヲ偽造シ之ヲ使用又ハ他人ニ交付シテ金圓ヲ騙取シ財産上不法ノ利益ヲ得ムコトヲ企テ被告人誠一郎ハ之カ資金調達ノ斡旋方被告人庄次郎ハ其ノ出資方被告人梅男誠一郎ハ該偽造印紙ノ製作方被告人房一ハ其偽造印紙ノ處分方ヲ夫々擔任スルコト、定メ各犯意ヲ繼續シテ被告人梅男誠一郎ハ昭和四年十一月以降被告人庄次郎ノ出資シタル偽造資金ニテ偽造用諸材料ヲ買求メ××市××區××町

二百二十四番地ノ借家二階ニ於テ真正ノ壹圓收入印紙ヲ撮影シ之ヲ擴大修整シテ更ニ縮寫按排シ實物大偽造壹圓收入印紙八十枚綴ノ寫真原版ヲ作り之ヲ銅版ニ焼付ケ腐蝕劑ヲ使用シテ之ガ銅版ヲ作り洋紙ニ印刷シ其印刷シタル各印紙間ニミシン穴ヲ穿チ裏面ニゴム糊ヲ塗布スル等ノ順序ヲ經テ昭和五年三月頃ヨリ同年五月初旬迄ノ間ニ帝國政府發行壹圓收入印紙數萬枚ノ偽造ヲ完成シ被告人梅男ハ同年四月上旬頃××市×區××町二十四番地淀屋旅館其他ニ於テ被告人房一ニ右偽造印紙千數百枚ヲ交付シ被告人房一ハ同年四月二日ヨリ同年五月六日迄ノ間十數回ニ亙リ××區裁判所ニ提出シタル訴狀執行文付與申請書假處分命令申請書等及同裁判所××出張所ニ提出シタル各調停申立書ニ該偽造印紙合計百八十九枚ヲ貼布使用シ同年四月七日同市×區××△△留吉方ニ於テ同人ニ對シ真正ナル收入印紙ヲ擔保ニ提供スルモノノ如ク裝ヒテ金借方ノ申込ヲ爲シ右偽造壹圓收入印紙千二百枚ヲ交付シ其旨誤信セシメタル上貸借名義ノ下ニ金一千圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ(以下略)

贋幣 (其の二) (通貨偽造)

十圓兌換券石版印刷—印刷の手傳も共同正犯—(刑法第二四八條一項)

被告人○○傳○○政太兩名ハ共謀ノ上大正十三年二月頃行使ノ目的ヲ以テ通用ノ日本銀行發行ノ拾圓兌換券ノ偽造ヲ企テ傳ハ偽造ノ資金ヲ支出シ政太ハ主トシテ偽造ノ技術ニ關スル事項ヲ擔任スルコトトシ大正十三年十二月中旬××市×區××株式會社△△活版製造所ニ於テ石版印刷ニ要スル附屬品類大正十四年六月十八日頃同市×區××△△合資會社ニ於テ印刷用インキ等同市×區××△△彌三郎方ニ於テ偽造ニ使用スル鳥ノ子紙一連ヲ買求メタル外數ヶ所ニ於テ右偽造ニ必要ナル材料ヲ購入シ被告人○○藤橋ヨリ其所有ニ係ル印刷機械一臺ヲ借受ケ右兌換券ヲ印刷セントシタルモ不熟練ナル爲メ印刷意ノ如クナラザルヨリ石版印刷ヲ業トセル被告人○○藤橋ニ對シ各偽造ノ情ヲ告ゲテ其協力ヲ依頼シ同人ノ承諾ヲ得テ茲ニ被告人三名共謀ノ上大正十四年七月十日頃ヨリ同年八月十二日迄ノ間××縣××郡××町百一番地被告人傳方ニ於テ石版印刷ノ方法ニ依リ日本銀行發行ノ拾圓兌換券千百枚ヲ印刷シテ其ノ偽造ヲ遂ゲタルモノナリ

贋幣 (其の二) (通貨偽造行使)

鑄型に流し込んだ錫の五十錢銀貨—刺錢詐欺—(刑法第一四八條)

第一 被告人源一ハ昭和五年九月十八日頃ヨリ同月二十二日頃迄ノ間××市××區××△△芳

松方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ石膏ノ鑄型ニ鑄解セル錫ヲ流シ込ミテ通用ノ五十錢銀貨六十餘枚ヲ一枚宛順次偽造シ同月二十日ヨリ同年十月四日頃迄ノ間××市××區×××△△小春方外約五十九箇所ニ於テ同人等ニ對シ右偽造通貨ノ内約六十枚ヲ眞貨ノ如ク裝ヒ物品買受代金トシテ一枚宛交付シテ之ヲ行使シ

第二 被告人○○源一ハ單獨ニテ同年十月十九日頃ヨリ同年十一月初旬迄ノ間ニ××市××區××△△貞治方裏ノ空家及同市××區××△△米藏方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ前記同様ノ方法ニ依リ通用ノ五十錢銀貨約三百三十枚ヲ一枚宛順次偽造シ被告人○○源一及○○隆治兩名共謀ノ上同年十月二十一日頃ヨリ同年十一月初旬迄ノ間ニ××市××區××通三丁目△△けい方外約二百數十箇所ニ於テ同人等ニ對シ右偽造通貨ノ内約二百七十枚ヲ眞貨ノ如ク裝ヒ物品買受代金トシテ一枚宛交付シテ之ヲ行使シ(……詐欺を認定せず……)タルモノニシテ右偽造及行使ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

支那紙幣

(外國銀行券偽造準備)

中國銀行十圓兌換券—銅版製作—(外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造及模造ニ關スル法律第一條一項、第四條)

被告人○勝三郎ハ支那内地ニ於ケル諸般ノ事情ニ通ゼル處大正八年五月頃ヨリ被告人○○初太郎ト共謀シテ中華民國ニ於テ流通セシムル目的ヲ以テ同國內ニ強制通用力ヲ有スル中國銀行上海支行發行ノ兌換券十圓券ヲ偽造センコトヲ企テ大正九年三月頃ヨリ被告人○○義三八右兌換券偽造ノ企圖ニ加ハリ爾來右被告三名共謀ノ上被告人勝三郎ハ右兌換券偽造ノ用ニ供シタル原版ノ彫刻印刷竝ニ偽造兌換券ノ販賣等ヲ擔當シ被告人初太郎及ビ同義三八其偽造資金調達ノ任ニ當ルコトト爲リ爾來其目的遂行ニ奔走シ居リタルガ大正九年三月頃以來被告人初太郎ハ△△元作ヨリ金三百圓△△信吉ヨリ金千百圓ヲ出資セシメ被告人義三八同年九月頃△△寬ヨリ金六百圓△△積三ヨリ金六百圓ヲ出資セシメ被告人勝三郎ハ右資金ヲ以テ先右兌換券偽造用ノ銅版ノ彫刻ヲ爲サシメント欲シ大正九年三月中旬頃××市××區×××ノ料理店○亭ニ於テ被告人○○康太郎ヲ介シ被告人○○太賀義ニ眞正ナル中國銀行上海支行發行ノ兌換券十圓券一枚ヲ見本トシテ交付シ之ガ銅版製造方ヲ委託シ因テ右太賀義ハ同年四月中旬頃ヨリ同年八、九月頃迄ノ間××市××區××××附近等ニ於テ被告人勝三郎ヨリ見本トシテ受取リタル右兌換券ヲ被告人○○捨三ニ交付シ同人ヲシテ××市××區××同人宅ニ於テ右見本ノ兌換券中楕圓形ノ部分ヲ除キタル他ノ部分ヲ印刷シ得ル銅版四枚ヲ彫刻セシメ被告人勝三郎ハ同年九月頃其肩書住宅ニ於テ△△義ノ手ヲ經テ康太郎ヨ

リ右彫刻ノ銅版ヲ受取り以テ右被告人等ハ前記兌換券偽造ノ準備ヲ爲シタルモノナリ

偽小判

(詐欺)

銀臺—偽指輪—入質—賣却—(刑法第二四六條一項)

被告人〇〇秀尾〇〇與之造ハ共謀ノ上偽造小判ヲ真正ナルモノ、如ク又銀臺金張ノ指環ヲ純金ナルモノ、如ク裝ヒ他人ヲ欺罔シテ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ被告人秀尾ニ於テ之ガ製作ノ任ニ當リ被告人與之造ハ其ノ處分方ヲ擔當シ昭和五年九月十五日頃ヨリ昭和六年二月頃迄ノ間犯意繼續ノ下ニ五十六回ニ亙リ××市××區××質商△△九之助方外五十五箇所ニ於テ銀臺金張ノ偽造小判十五枚ヲ真正ナルモノ、如ク裝ヒ又銀臺ニ金張ヲ爲シ純金ノ刻印ヲ附シタル指環四十九箇ヲ純金ナルモノ、如ク裝ヒテ入質若シクハ賣買シ右九之助外五十五名ヲ欺罔シ金借又ハ賣買代金名義ノ下ニ合計金千二百六圓ヲ受取り騙取シタルモノナリ

ペーパー師

(詐欺)

十圓紙幣偽造機械買入資金等の名義—(刑法第二四六條一項)

被告人兩名ハ共謀ノ上犯意ヲ繼續シテ昭和四年十一月二十二日ヨリ同年十二月二十三日迄ノ間六回ニ亙リ××市××區××△△太郎松方外××市内數ヶ所ニ於テ被告人等ニ自ラ兌換券ヲ偽造スル能力竝ニ意思ナキニ拘ラズ之アルモノ、如ク詐リテ△△米吉ヲ欺罔シ同人ヲシテ其依頼ニ基キ被告人等ガ眞實金額拾圓ノ日本銀行兌換券ヲ作成偽造スルモノナリト誤信セシメ之ガ機械買入等ノ資金又ハ前祝其他報酬名義ノ下ニ同人ヲシテ右ノ頃右ノ場所ニ於テ合計金二百五十圓ノ出金ヲ爲サシメ以テ之ヲ騙取シタルモノナリ

空荷爲替

(有價證券虛偽記入行使詐欺)

貨物引換證濫發—架空の荷爲替手形—(刑法第一六二條二項、第一六三條一項、第二四六條一項)

一 被告人〇〇計助〇〇宗太郎ハ共同シテ××市××區××合名會社××棉店名義ヲ以テ棉花商ヲ營メル處營業資金ニ窮シタル結果銀行業者ヲ欺罔シテ虛偽ノ貨物引換證ニ添付セル荷爲替手形ヲ割引セシメテ資金ノ融通ヲ計ランコトヲ企圖シ豫テ××棉店ト取引關係アル××市××區××合資會社××組運送店主ナル被告人〇〇謙吉ニ對シ金融ノ資ニ供スベキ情ヲ告ゲテ同店名義

ノ虚偽ノ内容ノ貨物引換證ヲ發行セントヲ求メ被告人謙吉ハ之ニ應ジ茲ニ被告人等三名ハ共謀ノ上行使ノ目的ヲ以テ昭和四年六月十四日ヨリ同年十一月二日ニ至ル間前記被告人謙吉ノ居宅ニ於テ同人自ラ被告人計助宗太郎ノ指示ニ基キ現實ニ運送スベキ棉花ノ授受ナキニ拘ラズ×棉店ヨリ特定ノ荷受主ニ對シテ發送セル一定ノ品質數量ノ棉花類ノ運送ノ委託ヲ受ケ貨物ヲ受領セル旨虚偽ノ記入ヲ爲セル貨物引換證五十五通ヲ作成シテ之ヲ被告人計助宗太郎ニ交付シ

二 被告人計助宗太郎ハ右虚偽ノ内容ノ記載アル貨物引換證ニ之ニ照應スル荷受名義人宛架空ノ荷爲替手形ヲ作成添付シ

イ 昭和四年六月十八日頃ヨリ同年七月二十六日マデノ間七回ニ亙リ××市×區×△△△銀行×支店ニ於テ係員ニ對シ之等貨物引換證中ノ七通ニ付執レモ證券面表示ノ貨物ガ眞實出荷セラレタルモノ、如ク裝ヒ之ニ照應スル荷爲替手形額面金五萬四千九百九十三圓八十七錢ノモノ、割引ヲ依頼シ係員ヲシテ手形支拂人ニ於テ眞實手形金支拂ノ義務ヲ負擔シ且銀行ニ於テ右ノ手形ニ附屬セル貨物引換證表示ノ貨物ノ上ニ擔保權ヲ取得スルモノト誤信セシメタル結果其ノ都度之等手形ノ割引ヲ爲サシメ右金員ヲ同銀行ニ於ケル××棉店ノ當座勘定等ニ振替ヘシメテ財産上不法ノ利益ヲ得(以下略)

偽造商標

(商標法違反及詐欺)

偽マーカー—偽造品—擔保—(商標法第三四條、刑法第二四六條一項、第二五〇條)

第一 被告人ハ株式會社××商店ノ製造發賣ニ係ル調味料「味ノ素」ノ登録商標ヲ偽造シ之ヲ同調味料ト類似ノ商品ニ使用シ該商品ヲ他ニ販賣又ハ擔保ニ供シテ不正ノ利益ヲ獲得セントヲ企テ

- 一 昭和五年九月頃ヨリ翌六年二月頃迄ノ間ニ(イ)××市××區××印刷業△嘉一方ニ於テ株式會社××商店ノ發賣ニ係ル調味料「味ノ素」ノ容器特小罐ト同様ノ罐約壹萬七千個分ノ鐵力板貳千貳百餘枚(ロ)同市×區××△△印刷業文雄方ニ於テ同上味ノ素ノ容器小罐ノ表面ニ貼付シアルモノト同様ノレッテル約壹萬枚(ハ)右文雄方及同市××區××印刷業△△龜雄方ニ於テ右特小罐若クハ小罐一打ノ容器タルボール箱合計約八百個分(ニ)同市××區××印刷業△△捨吉方ニ於テ同上「味ノ素」ニ添付セラレタルモノト同様ノ使用書約二萬四千枚ヲ擅ニ夫々印刷セシメ該印刷物ニ夫々株式會社××商店ノ有スル登録番號第三四二二〇號竝ニ同

第三九〇五一號ノ商標ヲ擅ニ表出シ以テ右登録商標ヲ偽造シ尙被告人考案ニ依ル調味料ヲ内容物トシテ之等偽造ノ各材料ヲ使用シ因テ右「味ノ素」ト類似ノ調味料特小罐四百五十三打及小罐約八百三十打ヲ製造シ以テ前記××商店ノ登録商標ト同一ノ商標ヲ類似ノ商品ニ不正ニ使用シ

- 二 昭和六年二月中旬頃××市××區××△△豐太郎方ニ於テ金六十圓ヲ借受タルニ際シ前記××商店ノ登録商標ヲ不正ニ使用シタル調味料小罐五十打ヲ之ガ擔保トシテ同人ニ交付シ
- 三 同年三月上旬頃前記豐太郎等ヲ介シテ同市××區××△△勝次郎方ニ於テ同人ニ對シ同上小罐三百八十打ヲ交付シ右ハ株式会社××商店ノ製造發賣ニ係ル「味ノ素」ナリト申詐リ之ヲ擔保ニ差入ルベキヲ以テ金五百圓ヲ貸與セラレ度旨申向ケ以テ借用名義ノ下ニ該金員ヲ騙取セントシタルモ勝次郎ノ爲右調味料ガ味ノ素ノ偽造品ナルコトヲ發見セヨレタル爲メ其ノ目的ヲ遂ゲズ(以下略)

偽血清 (公務所記號偽造不正使用、私文書偽造行使詐欺)

北里のチフテリア血清及感作ゴノワクチン—賣捌—(刑法第一六六條、第一五九條一項、第二四六條一項)

被告人〇〇辰藏ハ藥劑師ナル處×市××ニ××新藥堂ト稱スル製藥場ヲ設ケ財團法人北里研究所製作ニ係ルチフテリア血清及感作ゴノワクチンヲ偽造販賣シテ他人ヨリ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ大正九年十一月頃ヨリ大正十五年六月頃迄ノ間ニ亙リ前記製藥場ニ於テ法定ノ免疫單位ニ達セザル粗惡ナルチフテリア血清ヲ製作シ尙極メテ稀薄ニシテ淋菌ヲ發見スルコト能ハザル殆ド無價値ナルワクチンヲ製作シ一方數回ニ亙リ擅ニ北里研究所名義ノチフテリア血清第二號品第三號品及感作ゴノワクチンノ第一號品第二號品ノ各效能書及各レッテル數萬枚ヲ偽造シ北里研究所ノ藥瓶木筒紙箱ト同一様ノ藥瓶木筒紙箱及前記偽造ノ效能書及レッテル等ヲ使用シテ同被告人ノ製作ニ係ル前記チフテリア血清及淋菌ワクチンニ付夫々北里研究所ノ包紙ト同一様ノ包装ヲ施シ恰モ北里研究所ノ製品ナルガ如ク作爲シ且文部省直屬大日本帝國政府傳染病研究所ノ製作ナルチフテリア血清ノ包装ヨリ同研究所ノ檢定日附印ヲ表ハシタル檢定之證ヲ剝取りテ右偽造ニ係ルチフテリア血清ノ大部分數萬瓶ノ各包装ニ貼付シテ不正ニ使用シ尙其他殘小部分數千瓶ノ各包装ニ就テハ數回ニ亙リ擅ニ其檢定之證ヲ偽造シテ貼付シ因テ以テ北里研究所製作名義ノチフテリア血清第二號品壹萬六千五百九十九瓶同第三號品四萬八百瓶感作ゴノワクチン第一號品五千三百八十二瓶同第二號品壹萬二千七百一十一瓶ヲ偽造シテ之ヲ北里研究所ノ真正ナル製品ナルガ如ク裝ヒ××市×區

××藥種商△△常次郎方外數十個所ニ於テ△△常次郎外四十三名ニ對シ賣渡シ同人等ヨリ代金名義ノ下ニ九萬四千六百七圓六十二錢ヲ受取騙取シタルモノナリ

【第三輯 手形 取込】

手形 横領 (其の二) (横領)

割引金の費消—債務の支拂—營業資金に融通—(刑法第二五二條一項)

被告人ハ犯意繼續ノ上

第一 大正十四年三月下旬頃△△米治ヨリ同人ノ金策ヲ爲メ同人振出引受ニ係ル額面二萬圓ノ爲替手形一通ノ割引周旋ヲ委託サレ之ヲ預リ保管中擅ニ同年四月上旬頃當時××市××區××ニ住居シ居タル△△邦造方ニ於テ被告人及△△豊ノ金策ヲ爲ス目的ヲ以テ右手形三通ヲ△△邦造方ニ交付シテ之ガ割引ヲ受ケ其手形割引ニ依リ得タル金三萬壹千五百六十六圓九十四錢ヲ△△豊ト共同シテ費消……横領シ

第二 同年七月八日△△米治ヨリ同人振出引受ニ係ル爲替手形十通ヲ××府××郡××海岸附近

ノ土地買入代金トシテ其土地所有者ニ對スル支拂ニ充當スベク委託サレ之ヲ預リ保管中該手形ノ中額面壹萬五千圓一通ヲ同月二十九日擅ニ××市××區××△△重吉方ニ於テ同人ノ弟彦三郎ニ對スル被告個人ノ債務ノ支拂及被告個人ノ金策ノ爲メ右彦三郎ニ交付シテ之ガ割引ヲ受ケ被告個人債務ノ決濟ニ充當シタル殘金四千四百圓ヲ其頃右彦三郎ヨリ受取費消シ……以テ横領シ

第三 同年七月八日△△米治ヨリ前掲××海岸附近ノ土地買入代金ニ充當スル爲メ預リ保管シ居タル爲替手形十通ノ内額面一萬圓ノ爲替手形一通及額面一萬五千圓ノ爲替手形一通ヲ擅ニ同月十九日被告人ノ肩書住居ニ於テ××縣××郡××材木商△△秀雄ノ營業資金ニ融通スル目的ヲ以テ同人ニ交付シテ横領シ

(中 略)

第六 同年十月九日頃△△彦三郎ノ許ニ差入レアリタル△△米治ノ振出引受ニ係ル爲替手形上ノ債務決濟ノ爲メ金策ヲ目的トシテ△△米治ヨリ交付ヲ受ケタル額面二萬圓ノ爲替手形一通ヲ擅ニ同年十一月十三日××市××區××商事株式會社ニ於テ被告個人ノ金策ノ爲メ割引ヲ受ケ其手形割引ニ依リ得タル金一萬二千圓ヲ前記××タクシ株式會社ノ營業資金ニ費消横領シ

タルモノナリ

手形横領 (其の二) (横領)

共犯相互の授受(刑法第二五二條一項)

被告人〇〇勇治郎ハ〇〇喜代治ト共ニ昭和四年十一月初頃×市×酒造業△合名會社ヨリ其ノ用人△太藏ヲ介シ手形割引ノ周旋方ヲ依頼セラレ同會社代表者△萬次郎振出引受ニ係ル額面金一萬圓ノ爲替手形一通ヲ保管占有中被告人〇〇義雄ト共謀ノ上同月七日被告人義雄ノ金融ニ使用スル目的ヲ以テ該手形ヲ×市×町停留場附近ノ某喫茶店ニ於テ擅ニ被告人義雄ニ交付シテ之ヲ横領シタルモノナリ

偽辯護士 (詐欺、横領)

假差押保證金―手形取立―(刑法第二四六條一項、第二五二條一項)

第一 被告人ハ豫テ×市×區×吳服商△△良一ニ對シ辯護士ナリト詐稱シ居リタルガ

一 大正十五年四月中△△良一ヨリ×縣×郡×△△榮治郎ニ對スル賣掛代金取立方ヲ

依頼セラレタルヨリ祕カニ之ヲ辯護士△△善三ニ委任シタル上△△良一ヨリ右榮治郎ニ對スル假差押ノ保證金トシテ金一千圓ヲ受取り之ヲ×區裁判所ニ供託シテ右榮治郎ニ對シ假差押ヲ爲シタル處同年五月一日頃榮治郎ヨリ示談ノ申出アリタルヨリ同人ト示談契約ヲ結ビ同年五月中二回ニ△△善三ノ手ヲ經テ同人ヨリ示談金中合計九百圓ヲ受取り更ニ同月中前記假差押ヲ解除シテ供託金一千圓ノ下付ヲ受ケ執レモ△△良一ノ爲メ保管中其頃擅ニ×市内ニ於テ之ヲ自己ノ用途ニ費消横領シ

二 同年八月中右△△良一ヨリ×縣×郡×△△勘七ニ對スル手形金取立方ヲ依頼セラレ同月二十一日頃右△△勘七ヨリ手形金中金二百三十圓ヲ辨濟トシテ受取り△△良一ノ爲メ保管中其頃擅ニ×市其他ニ於テ之ヲ自己ノ用途ニ費消横領シ

第二 豫テ×市×區×△△賢次郎ニ對シ辯護士ナリト詐稱シ居タルガ大正十五年五月中右△△賢次郎方ニ於テ同人ヨリ債務者××市△△源三郎其他ニ對スル債權者△△信一外一名ノ賣掛代金取立方ヲ依頼セラレタルヨリ右債務者等ニ對シ假差押申請ノ手續ヲ爲ス意思ナキニ拘ラズ之有ルモノノ如ク裝ヒ賢次郎ニ對シ各債務者ニ對シ假差押ヲ爲スベキヲ以テ之ニ要スル保證金ヲ提供セラレ度キ旨申向ケ同人ヲシテ其ノ言ヲ眞實ナルモノト誤信セシメテ欺罔シ因テ同

人ヨリ××市×區××△△佐兵衛方ニ於テ同月十五日現金四千圓五分利公債額面五百圓券五枚
同年六月中頃金四百圓同年七月上旬頃金千五百圓ヲ××市△△屋旅館ニ於テ同年八月頃金五
百圓ヲ執レモ假差押保證金トシテ交付セシメテ之ヲ騙取シタルモノナリ

不正番頭

(背任)

要警戒の得意先—情實關係—放漫取引—(刑法第二四七條)

被告人ハ××次郎ガ代表社員トナリ綿布毛織物等ノ加工製造販賣ヲ營業ト爲セル××合名會社ニ
雇ハレ××市×區××ニ在ル同會社××支店ニ事實上主任格トシテ同店ノ營業一切ヲ擔任シ居リ
タルモノナルガ排日問題等ノ爲商況不振トナリタルヨリ昭和六年十二月同會社××工場ガ閉鎖サ
レルニ至リ右代表社員××次郎ヨリ先ヅ手持品ヲ代金支拂確實ナル買先ニ賣捌クコト、加工綿布
及毛織物等ヲ仕入レル場合ニハ必ず代金支拂確實ナル買先アル場合ニ限ルコト、仕入並ニ販賣ハ
其ノ都度同會社××本店ト協議シ萬事其承認ヲ得テ書類作成ノ上取引スルコト等營業方針ヲ指示
サレ爾來被告人ハ其營業方針ニ基キ同會社××支店ノ營業ヲ爲スベキ任務ヲ有シ居リタルトコロ
第一 ××合名會社ガ綿布毛織物ブローカー△△利夫ヲ介シテ××市×區××綿布商△△一良ト

數年來加工綿布毛織物ノ賣買取引ヲ爲シ來リタルモ右一良ガ昭和七年二月下旬頃手形不渡ヲ發
表シ財政窮迫ノ爲メ整理ヲ爲スベキ状態ニ立到リ爾來金融逼迫ノ爲メ一良ガ同會社ニ對シ商品
買受代金トシテ從來差入レアリタル小切手及手形ノ支拂期日ガ順次到來スルモ之ヲ決済スル資
金ニ窮シ居リ之ヲ其ノ儘放置セバ△△一良商店ハ閉店セザルベカラザル運命ニ立到ルベク又同
店ト放漫ナル取引ヲ繼續スレバ將來同會社ニ不測ノ損害ヲ蒙ラシムルニ至ルベキ狀況ニアリタ
ルコトヲ熟知シ居リタルヲ以テ一良トノ取引ヲ繼續スルニ付テハ前記營業方針ニ基キ充分警戒
ヲ要スベキ筋合ナルニ拘ラズ被告人ハ右利夫及一良ヨリ度々饗應ヲ受ケ或ハ金圓ヲ借用シ居ル
等ノ情實關係アルニヨリ前記任務ニ背キ右一良等ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ一良ガ商品代金トシ
テ同會社ニ從來差入レアリタル小切手及手形ノ支拂期日到來毎ニ其ノ小切手及手形資金ヲ作ラ
シムル爲順次同會社名義ニテ加工綿布及毛織物ヲ他ヨリ仕入レテ一良ニ對シ放漫ニ賣渡シ之ヲ
擔保ニ差入レ又ハ仕入値段ヨリ二割位ノ安値ニテ捨賣處分ヲ爲サシメテ金策ノ上右資金ニ充當
セシメ順次一時ヲ糊塗シタルモ其ノ取引額ガ多額ニ上リ其ノ小切手及手形債務ガ逐次加算シ其
ノ支拂ニ著シク窮迫スルニ及ビテハ同會社名義ニテ加工綿布及毛織物ニ付更ニ他ヨリ放漫ナル
仕入ヲ爲シテ之ヲ買受名義人ハ△△五郎及△△次郎ト爲シテ△△一良ニ賣渡シ又ハ同會社本店

ニ對シ何等記帳報告ヲ爲サズシテ同人ニ賣渡シ其ノ商品ヲ前記ノ如ク擔保ニ差入レ又捨賣的處分ヲ爲サシメテ金策ノ上右小切手及手形資金ニ充當セシメ或ハ被告人ガ一良ト共ニ××取引所ノ相場ヲ爲シ之レガ追證據金一萬圓餘ノ資金ニ窮シタル爲同會社ノ仕入商品ナル加工綿布及毛織物ヲ一良ニ賣渡シ之ヲ擔保ニ差入レ又ハ賣却處分セシメテ金策ノ上右資金ニ充當セシメル等放漫ナル取引ヲ爲シ因テ將來回收不能ニ終ルベキ恐レ充分ナル一良ノ同會社ニ對スル債務ヲ加速度的ニ増加セシメ其ノ爲昭和七年六月上旬頃ヨリ同年八月上旬頃迄ノ間右背任取引ニ於テ合計金十二萬五千四百八十一錢ノ損害ヲ同會社ニ與ヘ(以下略)

取込詐欺 (其の二) (詐欺)

株式現物店—新聞廣告—南京割の後始末—(刑法第二四六條一項)

被告人ハ××市×區××株式現物店××商店ガ約二萬圓ノ債務ヲ負擔シテ破綻シタル後ヲ引受ケ昭和三年二月中頃ヨリ同所ニ於テ公債株式現物問屋××××商店トシテ株式等ノ賣買業ヲ開始シタルトコロ資産ナク資金調達ノ見込ナキ爲直チニ經營困難ニ陥リ到底堅實ナル營業ヲ繼續スルコト能ハザルヨリ新聞廣告ヲ利用シテ顧客ヲ吸引シ顧客ヨリ株式賣買名義ノ下ニ金品ヲ騙取セム

コトヲ企テ顧客トノ約旨ヲ履行スルノ意思ナキニ拘ラズ先ヅ昭和三年二月下旬ヨリ同年六月中旬迄ノ間ニ於テ數十回ニ亘リ大阪朝日新聞及大阪毎日新聞紙上ニ被告人ノ商店ハ其ノ營業堅實迅速ニシテ顧客本位ノ商店ナル旨ノ廣告ヲ爲シ置キ次デ該廣告等ニ依リ賣賣注文ヲ爲シ來リタル後記各顧客ニ對シ其ノ都度被告人自ラ又ハ其ノ店員ヲ介シ或ハ通信ノ方法ニヨリ被告人ニ於テ賣渡スベキ顧客ニ對シテハ所定ノ株式ノ引渡ヲ、又買受クベキ顧客ニ對シテハ其ノ代金ノ支拂ヲ執レモ賣買契約ト同時若ハ十數日以内ニ定メラレタル期日迄ニハ確實ニ履行スルモノ、如ク裝ヒ各相手方ヲシテ其ノ旨誤信セシメテ賣買契約ヲ締結セシメタル上前記被告人ノ營業所ニ於テ

一 昭和三年三月十三日△△豐吉ヨリ株式會社大丸吳服店株式十株ノ賣渡代金名義ノ下ニ金三百七十二圓(中略)

合計金一萬三千百十二圓五十錢及株式九十二株(時價金三千九百二十四)ヲ交付セシメテ之ヲ受取り以テ騙取シタルモノニシテ以上各所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

取込詐欺 (其の二) (詐欺)

荒物商—貿易商—滿鮮方面の取引を假裝—(刑法第二四六條一項)

被告人〇〇龜次郎ハ食料品ノ販賣酒類ブローカー等ヲ爲シ居リタルモ失敗シタル者、被告人〇〇勉ハ××市ニ於テ資本金十萬圓ノ××自動車株式會社ヲ經營シ居タルガ失敗シ後××市ニ於テ糞便汲取外交員、瓦斯發生器販賣員、食料品店店員等ヲ爲シ居リタルガ何レモ收入少ク生活ニ窮シ居タル者ナル處

第一 被告人龜次郎ハ代金支拂資力竝ニ其意思ナク又日本内地ニ於ケル××以外ノ地方又ハ滿洲朝鮮方面ト雜貨等ニ付取引關係ナキニ拘ラズ

- (一) ××市×區……ニ於テ荒物商ヲ營ミ居リタルヲ奇貨トシ昭和六年八月三十日頃ヨリ同年十月初旬頃迄ノ間同市××區……洋箱商△△清一外十一名ニ對シ右店舗等ニ於テ被告人自ら又ハ店員ヲ通シ口頭電話等ニテ十數回ニ亙リ内地各地方ノ取引先ニ送付ス可キヲ以テ商品ヲ販賣サレタク代金ハ即時、一二週間後又ハ月末等ニ支拂フ可キ旨申欺キ△△外十一名ヲシテ賣買名義ノ下ニ代金合計千百三十五圓六十四錢ニ相當スル洋箱其ノ他ノ物品ヲ交付セシメ
- (二) 尙犯意ヲ繼續シ昭和七年五月五日頃ヨリ××市×區……ニ宏莊ナル店舗ヲ構ヘ被告人勉外數名ノ店員ヲ使用シ表面〇〇商店ナル商號ノ下ニ滿洲朝鮮方面ヲ取引先トシテ貿易商ヲ營ミ居ルガ如ク裝ヒ同年五月十七日頃ヨリ同年六月三十日頃迄ノ間被告人方店舗等ニ於テ××市

×區……護謨商△△光次郎外十八名ニ對シ被告人自ら又ハ店員ヲ通シ口頭電話等ニ依リ二十數回ニ亙リ滿鮮方面ニ送付ス可キニ付商品ヲ販賣サレタク代金ハ即時現金ニテ數日後又ハ月末等ニ支拂フ可キ旨申欺キ右△△外十八名ヲシテ賣買名義ノ下ニ代金合計四千七百九十三圓十六錢ニ相當スル護謨海水浴玩具其ノ他ノ物品ヲ交付セシメテ各騙取シ

第二 被告人勉ハ昭和七年五月二十日頃ヨリ被告人龜次郎ノ經營ニ係ル右〇〇商店ニ商品仕入係トシテ雇ハレ居リタルガ同年六月上旬頃ヨリハ龜次郎ハ前示ノ如ク滿鮮地方ヲ取引先トセル雜貨貿易商ヲ標榜スルモ其ノ實前示ノ如キ詐欺行爲ヲ反覆シツツアルモノナルコトノ情ヲ知リナガラ依然龜次郎ノ店舗ニ止マリ爾後同月三十日頃迄ノ間犯意ヲ繼續シ數回ニ亙リ龜次郎ノ爲ニ右買入商品ノ註文ヲ爲シ店務ヲ扶ケ以テ同人ノ右犯罪ヲ容易ナラシメタルモノナリ

取込詐欺 (其の三) (詐欺)

酒醬油商—營業不振—夜逃げ—(刑法第二四六條一項)

被告人ハ昭和四年春頃ヨリ××市××區……ニ店舗ヲ構ヘ酒醬油等ノ小賣商ヲ營ミ居タルモ漸次營業不振ニ陥リ借財嵩ミ生活ニモ窮スルニ至リ此ノ際整理ヲ爲シ打開ノ途ヲ講ズルヨリモ寧ろ從

來ノ仕入先ナル合名會社△△本店等ヲ欺罔シテ酒醬油等ヲ取込ミ之ガ賣得金ヲ携ヘテ行衛ヲ晦シ以テ更生ヲ計ルニ如カズト決意シ昭和六年五月五日ヨリ同月二十四日迄ノ間數十回ニ亘リ犯意ヲ繼續シ合名會社△△本店合名會社△△商店及△△檜藏ニ對シ執レモ代金支拂ノ意思ナキニ拘ラズ之アルモノノ如ク裝ヒテ夫々酒醬油等ノ注文ヲ爲シ其ノ係員ヲシテ販賣代金ノ支拂ヲ受ケ得ベキモノト各誤信セシメタル上賣買名義ノ下ニ酒醬油等代金合計二千二十九圓三十七錢ニ相當スル物ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シタルモノナリ

【第四輯 特殊詐欺】

寫字生募集

(詐 欺)

××文藝社—新聞廣告—會員募集—(刑法第二四六條一項)

被告人ハ新聞廣告ニ依リテ寫字生ヲ募集シ之ガ應募者ヨリ入會金名下ニ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ××市××區……××文藝社ナル名稱ヲ以テ大阪毎日新聞其ノ他ニ寫字生ヲ募集スル旨ノ新聞廣告ヲ爲シ昭和七年十一月一日頃應募者タル△△博惠ニ對シ入會金五圓ヲ支拂ハバ會員ト爲スベ

シト稱シ會員ノ寫字ヲ買取ル意思ナキニ拘ラズ一枚五錢乃至七錢ニテ買取ルベキ旨申欺キ因テ其頃同人ヲシテ入會金トシテ金五圓ヲ右場所ニ送付セシメテ之ヲ騙取シタル外……六十九回ニ亘リ△△敏雄外六十八名ヲ前記同様欺罔シ因テ其ノ都度同人等ヲシテ入會金トシテ金五圓又ハ金四圓或ハ金五十錢ヲ右場所ニ送付セシメテ之ヲ受取り合計金二百七十八圓ヲ騙取シタルモノニシテ右各所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

結婚詐欺

(詐 欺)

結納金—媒酌謝禮金—假名見合—(刑法第二四六條一項)

被告人○○つたハ嫁入スル意思ナキニ拘ラズ眞實嫁入スルガ如ク裝ヒテ各相手方ヲ欺罔シ婚約ヲ成立セシメテ結納金ヲ取得シ假ニ相手方ト同棲スルモ數日若ハ短期間内ニ種々ノ口實ヲ設ケテ逃ゲ歸ル方法ニ依リ金員ヲ騙取セント欲シ被告人○○惠吉ハ右ノ事情ヲ知悉シナガラ謝禮金ヲ取得シ得ルヲ以テ同女ガ眞實嫁入スルガ如ク裝ヒテ各相手方ニ媒介ヲ爲シ結納金名義ノ下ニ金員ヲ得セシメンコトヲ相謀リ昭和七年二月初頃ヨリ同年三月二十日頃迄ノ間三回ニ亘リ××市××區……△△勝太郎(當五十一年)同市××區……△仙助(當四十八年)及××縣××郡……△△光

一(當三十六年)ニ對シ夫々同人等方其ノ他××市内等ニ於テ被告人惠吉ヨリ直接又ハ仲介人ヲ介シ夫々假名ヲ用ヒ眞實嫁入スル旨申入レテ見合等ヲモ爲シ各相手方ヲシテ眞實嫁入ノ上結婚生活ヲ爲スモノナリト誤信セシメテ婚約ヲ爲シ同市××區……ノ被告人惠方外××市内一ヶ所ニ於テ結納金名義ノ下ニ右勝太郎ヨリ金五十圓ヲ、右仙助ヨリ金五十五圓ヲ、右光一ヨリ金三十圓ヲ各交付セシメテ之ヲ騙取シタルモノニシテ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

失 效 保 險

(詐 欺)

保險契約復活請求の假裝—外交員—社員—契約者—(刑法第二四六條一項)

被告人〇〇春次ハ元××市×區×××××生命保險株式會社××支社ノ外交員、被告人〇〇義男ハ元同支社ノ社員ニシテ保險料ノ納入並保險契約ノ失效復活等ニ關スル事務ヲ擔任シ居ルモノナリシ處被告人春次ノ勸誘ニ依リ同市×區……△△幸吉ハ其ノ妻むめ子ト共同シテ昭和六年十月六日右會社トノ間ニ保險金額五千圓ノ聯合長壽生命保險契約ヲ締結シタルガ其ノ第二回保險料ヲ最終支拂期日タル昭和七年五月六日迄ニ拂込マザリシ爲該保險契約ハ失效トナリ爾後同人ハ其ノ復

活請求ヲ爲スコトナク同年六月十日死亡シタルヲ以テ右むめ子及同人ノ妹婿△△彌三郎ヨリ被告人春次ニ對シ遺族ノ窮狀ヲ訴ヘ該保險契約ヲ復活シ前記保險金ヲ受領シ得ベキ様盡力方ヲ懇願スルヤ同被告人ハ當時尙社員トシテ前記事務ヲ擔任シ居レル被告人〇〇義男ニ情ヲ告ゲテ之ガ手續ヲ依頼シ茲ニ被告人兩名共謀ノ上右幸吉ニ於テ生前前記契約ノ復活請求ヲ爲シタルモノノ如ク作爲シ前記會社ヲ欺罔シむめ子ヲシテ該保險金ヲ取得セシムコトヲ企テ昭和七年六月十三日頃被告人義男ハ同會社ニ對シ右幸吉ハ其ノ生前ナル同年五月二十五日第二回保險料ノ拂込並前記契約復活ノ請求ヲ爲サムガ爲來社シタルモ印判ヲ持參セザリシヨリ右手續ヲ果シ得ズシテ歸宅シ其ノ翌日被告人春次ニ對シ右復活請求書ヲ寄託シ其ノ提出方ヲ依頼シ置キタルニ拘ラズ同被告人ニ於テ之ガ提出方ヲ失念シ居リタル爲遲延シタルモノナル旨申詐リテ前掲保險契約ノ復活手續ヲ爲シ次デ同年七月上旬むめ子名義ヲ以テ金五千圓ノ保險金支拂請求ヲ爲シ右會社ヲシテ保險契約ガ正當ニ復活セラレ幸吉ノ死亡ニ因リ保險金支拂義務ノ發生シタルモノナリト誤信セシメ因テ同年八月十七日頃同會社××支社ニ於テ係社員△△祥巖ヨリむめ子ノ代理人トシテ該金員ノ支拂ヲ受ケ之ヲ騙取シタルモノナリ

保險信託と佛貨公債（私文書偽造行使詐欺）

生命保險會社—信託會社—佛貨四分利公債—（刑法第一五九條一項、第一六一條一項、第二四六條一項）

被告人ハ佛貨四分利公債ノ借入ニ付テ未ダ其交渉ヲ遂ゲザル爲メ右公債ニ依リ金融ヲ爲シ得ル見込不確實ナルニ拘ハラズ世人ガ右公債ニ關シ智識乏シキヲ奇貨トシ自分ハ佛國ロスチャイルド家引受證券ノ取扱業者ニシテ右公債取扱ノ財務官△上某又ハ其部下△田某トハ昵懇ノ間柄ナリト詐稱シ且被告人ノ盡力ニ依レバ多額ノ右公債ヲ借受ケ得ラルベク從ツテ容易ニ金融ヲ爲シ得ラルル如ク申詐リ因テ保險信託基金佛貨公債貸與料保險料調査費又ハ運動費等ノ名義ノ下ニ金員ヲ騙取センコトヲ企テ

第一、

(一) 昭和三年四月頃××市×區……△△謙吉ヨリ佛貨四分利公債ノ借入レニ依ル保險信託ノ方法ニテ金融ノ依頼ヲ受クルヤ其後生命保險會社トノ交渉進捗セルモノノ如ク誤信セシメンガ爲メ右保險信託ニ關シ△△△△△△生命保險會社ニ對シ保險料ノ支拂ヲ爲サザルニ拘ラズ△△

謙吉ニ對シ紐育第一ナシヨナルシチ—證券部精査員△△篤次ニ之ヲ立替支拂ハシメタリト詐稱シ同年八月頃××市内旅館ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ同會社代理人エドワード、×××ノ署名ヲ冒用シ△△篤次申込△△小太郎拂込ノ金一萬八千九百二十七圓ノ保險金領收證一通ヲ偽造シ之ヲ其頃△△謙吉方ニ於テ同人ニ示シ行使シ

(二) 且△△信託株式會社ノ承諾アル代理事務依頼書、同會社トノ間ニ於ケル生命保險債權竝ニ金錢信託契約書消費貸借契約書等ノ各關係書類ノ案文及ビ虛無人長谷川元範ノ振出及引受ニ係ル支拂場所△△信託株式會社ナル金額二萬圓三通及金額一萬圓三通合計額面金九萬圓ノ爲替手形六通ヲ作成シ之ヲ△△謙吉方ニ於テ同人ニ示シ且前記保證金領收證ヲ示シ因テ右保險信託ニ依ル金融ニ關シテハ△△信託株式會社及生命保險會社等トノ交渉モ進捗シ且前記ノ手形ニ依リ調金スベキ旨申詐リ△△謙吉ヲ欺罔シ因テ昭和三年四月頃ヨリ同年十月頃迄ノ間ニ謙吉方其他ニ於テ信託基金ニ關スル調査費生命保險信託組入基金及運動費等名義ノ下ニ數回ニ亙リ△△謙吉ヨリ合計金八千二百餘圓ヲ受取リテ之ヲ騙取シ

第二、大正十五年二月頃當時××市×區……△△米郎及△△能子ヨリ金融周旋方ノ依頼ヲ受クルヤ同人等ニ對シ佛貨四分利公債ヲ借入レ保險信託ノ方法ニ依リ金融ヲ爲スベキ旨申入レ佛貨團

ノ責任者ハ△上某ニシテ自分ハ右公債貸出シノ世話人ナリト詐稱シ佛貨公債ヲ挾ミタル黒靴ヲ示シ又ハ××市△△銀行地下室ニ於テ多額ノ公債入ナリト稱シテ有合ハセノ金庫ヲ示シ多額ノ佛貨公債ノ借入レハ容易ナルモノノ如ク裝ヒ因テ同人等ヲ欺罔シ同年八月三十日頃ヨリ同年十一月二十日頃迄ノ間ニ××市×區××ビルディング内×ビルホテル其他數ヶ所ニ於テ△△米販及△△能子ヲシテ佛貨公債貸與料保険料並ニ運動費等ノ名義ノ下ニ數回ニ亙リ合計金一萬二千三百七十五圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シタルモノナリ

保險詐欺

(放 火)

點火ニヶ所—詐欺豫備—(刑法第一〇八條)

被告人〇〇銀平ハ△△繁太郎所有ニ係ル××市×區……木造瓦葺二階建一戸ヲ借受ケ内縁ノ妻△△あいと共ニ居住シ〇〇商會主トシテ大正十五年一月以來鑛區石炭ノ賣買仲買業ヲ營ミ居リタルガ其ノ商況意ノ如クナラズ剩ヘ其ノ關係セル訴訟事件紛糾シ來リ金融ニ窮シタルヨリ右家屋及之ニ隣接セル△△嘉市住宅ニ放火シテ自己ノ家財道具類ヲ燒燬シ因テ豫テ右ノ動産ニ對シ大正海上火災保險株式會社トノ間ニ締結セル動産火災保險金一萬圓ヲ受領シテ一時ヲ彌縫セムコトヲ企テ

之ヲ被告人〇〇淳逸ニ計リタル處同人モ之ニ賛同シ茲ニ被告人兩名共謀ノ上之ガ放火ノ方法ヲ考究シ該計畫實行ノ機ヲ覗ヒ昭和二年六月二日被告人〇〇淳逸ハ點火材料トシテ大丸吳服店ヨリ大丸蠟燭一袋ヲ購求シ來リ被告人各自紙箱ノ底ニ釘ヲ挿入シテ之ニ右蠟燭一本宛ヲ立テ内一組ヲ被告人〇〇銀平方二階奥座敷隅箆ト壁トノ間ニ袋入ノ活動寫眞用フィルム數罐ト相接シテ置キフィルムノ一端ヲ出シテ之ヲ蠟燭ノ下端ニ附着セシメ他ノ一組ハ右奥座敷ト相對向セル右△△嘉市方二階奥座敷隅ノ壁際ニ多量ノ文化タキツケト相接シテ備付ケ蠟燭ノ燃燒シ終ルト同時ニ右フィルム及文化タキツケヲ媒介物トシテ前示各住宅ニ燃エ移ルベキ仕掛ヲ爲シ同夜午後十一時半頃被告人〇〇銀平ハ自宅二階ノ蠟燭ニ點火シ座蒲團ヲ以テ右ノ紙箱並フィルムヲ蔽ヒ同時ニ被告人〇〇淳逸ハ隣家△△方二階ノ蠟燭ニ點火シ置キ被告人兩名相携ヘテ外出シタルトコロ被告人〇〇銀平方二階蠟燭ノ火ハフィルムニ引火シテ右住宅ニ燃エ移リ遂ニ同家二階ヲ全燒セシメ以テ△△あいの現在セル家屋ヲ燒燬シタルモノナリ(詐欺は豫備罪ノ程度)

電話詐欺

(其の一)

(詐 欺)

電話使用權—貸電話保證金—(刑法第二四六條條一項)

被告人○○半六ハ元×市×區……ニ於テ山本旭又ハ吉田ナル名稱ヲ用ヒ電話賣買業等ヲ爲シ被告人○○清太郎ハ同市……ニ於テ金融業等ヲ營ミ居リタル者ナルトコロ

第一、被告人兩名共謀ノ上半六ハ電話使用權ヲ擔保トシテ金借ノ申込ヲ爲ス者アリタル場合ニ之ヲ承諾シタル上直ニ其ノ電話使用權ヲ清太郎ニ再擔保トシテ差入レ清太郎ハ右電話使用權ノ時價以下ニ相當スル金員ヲ辨濟期一ヶ月利息一ヶ月一分五厘ト定メテ貸與シ半六ハ更ニ其ノ以下ノ金員ヲ借主ニ貸與シテ其ノ電話使用權ヲ清太郎ノ指定スル者ノ名義ニ書換ヘシメ被告人等ニ於テ其ノ名義ヲ借主ニ復歸セシムルノ意思ナキニ拘ラズ借主ニシテ辨濟期ニ至リ元利金ノ支拂ヲ爲ストキハ直ニ電話使用權ヲ借主名義ニ書換復歸セシムベク且利息ノ支拂ヲ怠ラザルトキハ辨濟期日ハ永久ニ延期スベキ旨申欺キ借主ヲシテ其ノ旨ヲ誤信セシメ半六ハ借主ヨリ半六ニ支拂フベキ利息ノ受領ヲ避ケテ故意ニ契約違反ナルガ如キ狀態ヲ發生セシメ又ハ借主ハ半六ニ利息ヲ支拂ヒ契約履行中ナルニモ拘ラズ清太郎ハ半六ノ契約不履行ニ名ヲ藉リ借主ニ對シ該電話使用權ハ自己ニ移轉シタルヲ以テ之ヲ處分スベキ旨ヲ告ゲ借主使用中ノ電話機ヲ取外シテ其ノ電話使用權ヲ喪失セシメ若シ借主ヨリ清太郎ニ對シ右使用權ノ買戻方ノ交渉ヲ受ケタルトキハ其ノ使用權ヲ時價相當ノ金額ヲ以テ賣戻ヲ爲シ因テ半六、清太郎ハ右電話使用權ヲ騙取シ又ハ

半六ヨリ借主ニ交付シタル金額ト電話使用權時價トノ差額金ヲ借主ヨリ交付セシメテ騙取センコトヲ企テ

(一) 半六ハ昭和四年九月十八日頃前記住居ニ於テ△△増市ヨリ同人名義×局三九六二番電話使用權ヲ擔保トシテ金借ノ申込ヲ受ケテ之ヲ承諾シ貸借名義ノ下ニ金九百圓ヲ△△ニ交付シ右電話使用權名義ヲ變更セシメ清太郎ハ昭和五年一月上旬頃△△ニ對シ半六ノ契約不履行ヲ理由トシテ電話機ヲ取外スベキ旨ヲ告ゲタル末△△ヨリ買戻方ノ交渉ヲ受クルヤ前記清太郎住居ニ於テ金千五百圓ニテ賣戻ヲ爲シ半六ヨリ交付シタル金九百圓トノ差額二百五十圓ヲ右△△ヨリ交付セシメ騙取シ

(中 略)

第二、被告人○○半六ハ名ヲ貸電話保證金ニ藉リ金員ヲ騙取センコトヲ企テ

(二) 被告人○○竹治ト共謀ノ上昭和五年三月上旬頃ヨリ同年六月三日頃迄ノ間ニ於テ前記半六ノ住居ニテ△△△△外六名ヨリ電話使用權賃借方ノ申込ヲ受クルヤ其都度半六ハ竹治ニ於テ保證金ハ執レモ返還ノ意思ナキニ拘ラズ恰モ之レ有ルモノノ如ク裝ヒ擔保流ニテ永久ニ貸與シ得ベキ電話使用權ヲ有シ之ヲ貸貸スルニ付其ノ保證金ヲ差入レラレ度キ旨申欺キ同人等ヲ

シテ其ノ旨誤信セシメタル上其ノ頃數回ニ亘リ右住居等ニ於テ貸借保證金名義ノ下ニ合計金七百圓ヲ交付セシメテ之ヲ受取り騙取シ(以下略)

電話詐欺(其の二)(私文書偽造行使詐欺)

手續書類の偽造—乙番の隠蔽—(刑法第一五九條一項、第一六一條一項、第二四六條一項)

(一) 被告人〇〇福太郎ハ××市××區……△△惠次郎ノ代理人トシ同人所有ノ電話×第四八四番ヲ擔保トシ金員ヲ借用スルニ付代理權ナキニ拘ラズ之レアルモノノ如ク裝ヒ他人ヲ欺罔シテ金員ヲ騙取センコトヲ企テ

イ 昭和二年五月十六日××市××區……△△由太郎方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ情ヲ知ラザル△△啓ラシテ右惠次郎ノ印章ノ押捺シアル用紙ニ△△惠次郎ノ氏名ヲ冒署シ同人名義ノ同人ガ××市××區×××……△△安夫方ニ轉居スル旨ノ××中央電話局宛轉居届一通ヲ作成セシメテ之ヲ偽造シ翌同月十七日情ヲ知ラザル電話賣買業△△文七方使用人ヲシテ之ヲ××市××區××町××中央電話局ニ提出セシメテ行使シ

ロ 同月十八日××市××區……〇〇半六方ニ於テ〇〇強男ト共謀ノ上行使ノ目的ヲ以テ前記電話設置家屋所有者△△治助ノ氏名ヲ冒署シ其ノ名下ニ有合セ印ヲ押捺シ同人名義ノ同人所有家屋ニ電話機設置ヲ承諾スル旨ノ承諾書一通ヲ偽造シ同日之ヲ前記××中央電話局ニ提出行使シ

ハ 同日前記〇〇半六方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ前記惠次郎ノ印章ヲ押捺シアル電話加入名義變更請求書用紙ニ△△惠次郎ノ氏名ヲ冒書シ同人所有ノ電話×第四八四二番ノ加入名義人ニ變更ヲ請求スル旨ノ××中央電話局宛電話加入名義變更請求書一通ヲ偽造シ同日同所ニ於テ之ヲ前記〇〇半六ニ交付シテ之ヲ行使シ同日前記××中央電話局ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ△△惠次郎ノ署名及捺印シアル委任狀用紙ニ擅ニ被告人福太郎ヲ代理人トシテ電話×第四八四二番ニ關スル行爲ヲ委任スル旨記入シ惠次郎名義ノ委任狀一通ヲ偽造シ同日××市××區×××附近某半乳店ニ於テ之ヲ〇〇半六ニ交付シテ之ヲ行使シ以テ半六ヲシテ前記惠次郎所有ノ電話ヲ擔保トシテ金員ヲ借用スルニ付被告人ニ代理權アルモノノ如ク誤信セシメ同日右半乳店ニ於テ同人ヨリ貸借名義ノ下ニ金九百四十五圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ
ニ 被告人福太郎及清次郎兩名ハ共謀ノ上昭和二年四月二十七日××市××區……△△たみ

方ニ於テ同人ニ對シ×第五七四七番ノ乙番電話ヲ其ノ乙番タルコトヲ隱蔽シ普通電話ナルガ如ク裝ヒ同人ヲシテ普通電話ト誤信セシメ翌同月二十八日前記××中央電話局ニ於テ右電話ヲ擔保トシタル貸借名義ノ下ニ金六百六十圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シタルモノニシテ右福太郎ノ私文書偽造行使詐欺ノ所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

利權詐欺

(詐欺)

×川廢川地緣故拂下—出願先取權讓渡證—(刑法第二四六條一項)

被告人ハ河川法第四十四條明治三十二年勅令第三百九十一號ニ依リ一應認メラレシ公用ヲ廢シタル國有河川敷地ノ所謂緣故拂下制度ガ其後大正十一年勅令第三百三號ニ依リ廢絶サレ爾來所謂廢川地緣故拂下ノ特典ナキコトニナリタルコトヲ知リナガラ××會ヲ組織シ×川廢川地拂下出願先取權ト稱スル權利證ヲ有スルモノヲ會員ト爲スベキ旨吹聽シ其會員ヲ募集シ其ノ會員ニ登錄證又ハ會員證ヲ發行シ恰モ其ノ會員ノ爲ニ右緣故拂下ノ權利ニ基キ一括シテ×川廢川地拂下出願手續ヲ爲スガ如ク裝ヒ今尙所謂廢川地緣故拂下ノ特典アルガ如ク詐リ吹聽シ所謂×川廢川地拂下出願先取權讓渡證ト稱スル無價值ノ權利證ヲ賣付ケ又ハ之ヲ擔保ニ差入レ賣買代金名義又ハ貸借名義

ノ下ニ他人ヨリ金圓ヲ詐取センコトヲ企テ犯意ヲ繼續シテ

第一、昭和四年一月頃當時被告人ノ住居ナリシ××市××區……文具商△△秀秋方二階居室ニ於テ△△春一ニ對シ×川改修工事ノ爲政府ヨリ新×川ノ敷地トシテ買收サレタル緣故者ハ明治三十二年勅令第三百九十一號ニ依リ×川廢川地拂下出願先取權ヲ認メラレ居ルニ付該權利ニ基キ政府ニ對シ×川廢川地拂下出願ヲ爲サバ必ズ其ノ拂下許可ヲ受ケ得ベキ旨竝ニ××會ハ其ノ拂下出願ヲ一括シテ爲スコトヲ目的トシ該權利ヲ有スル者ヲ會員トシテ組織シ目下三十萬坪ノ×川廢川拂下出願ヲ爲ス計畫ニテ其ノ會員ヲ募集中ナルヲ以テ此ノ際該權利證ヲ買受ケ又ハ擔保ニ取り同會ニ入會セバ遅クトモ一箇年以内ニ於テ坪五圓以上ノ×川廢川地ノ拂下許可ヲ受ケテ其ノ分配ヲ受ケ極メテ有利ナル利潤ニ浴シ得ベキ旨虛構ノ事實ヲ告ゲ同人ヲシテ之ヲ誤信セシメテ該權利證ノ賣却周旋方及該權利證ヲ擔保トシテノ金借方ヲ依頼シ同人ヲ介シテ其ノ頃同市××區……△△壽一ニ對シ右虛構事實ヲ告ゲシメ更ニ同年二月上旬頃被告人自ラ前記△△壽一方ニ於テ同人ニ對シ重ネテ前記同様ノ虛構事實ヲ告ゲ以テ同人ヲシテ誤信セシメタル上
(一) 其ノ頃△△春一及△△壽一兩名ヲシテ約二千坪ノ所謂×川廢川地拂下出願先取權讓渡證ト稱スル無價值ノ權利證ヲ共同出資ニテ買受クル契約ヲ爲サシメ前記△△壽一及當時××會事

務所ナリシ同市×××區……△△寅治郎方ニ於テ二回ニ亙リ△△壽一ヨリ合計五百圓ヲ其ノ
賣買代金ノ半額即チ同人ノ出資分トシテ受取り騙取シタルモノナリ（以下略）

宙返り

（詐欺）

浴場賃借人の物色―手附金―敷金内入―（刑法第二四六條）

被告人○〇繁治ハ豫テ△△太郎所有ノ××市△△郡所在△湯ヲ賃借シ其ノ營業ヲ繼續シ居ルヲ奇
貨トシ被告人靜、繁治、市右衛門三名ハ共謀ノ上當初ヨリ其約旨ニ添ヒ誠實ニ周旋行爲ヲ爲ス意
思ナキニ拘ラズ之アルモノノ如ク裝ヒ浴場賃借人ヲ物色シ若シ其ノ浴場賃借人ニ於テ一時ニ此ノ
敷金全部支拂不能ノ場合ハ此ノ賃借人ヨリ敷金ノ一部ヲ取得シ不足額ハ被告人等ニ於テ金融ヲ圖
リヤルベシト申シ向ケ契約手附金又ハ浴場敷金ノ内入名義ノ下ニ金圓ヲ騙取シタル後該賃借人ト
浴場貸主トノ間ニ一定期間内ニ敷金残額ヲ完納セザルニ於テハ相當ノ違約金ヲ渡スベキ旨ヲ特約
セシメ其ノ期間ヲ金融方斡旋ニ藉リ徒過セシメタル上其ノ態度ヲ一變シ金融不調ヲ口實ニ其金融
方ヲ拒絶シ賃借人ニ於テ違約シ曩ニ交付シ居ル手附金又ハ内入敷金中ヨリ違約金名下ニ金圓ヲ交
付シ差引計算スルノ止ムナキニ至ラシムル所謂一種ノ「宙返リ」ト稱スル詐欺ノ方法ニヨリ金圓

ヲ騙取セムコトヲ企テ昭和五年六月初誠實ニ約旨ヲ履行スルモノノ如ク裝ヒ繁治ニ於テ右△湯ヲ
敷金二千五百圓ニテ賃借スル旨新聞廣告ヲナシ同月初旬△△嘉一ニ於テ敷金ハ不足シ居ル情ヲ告
グ右△湯ノ賃借ヲ申出ヅル中被告人等ハ敷金トシテ先ヅ千圓ヲ交付サレ度ク不足額千五百圓ハ被
告人市右衛門、靜ニ於テ金融シヤルベシ他ニモ借主アレバ先ヅ契約手付金ノ交付アリ度キ旨詐言
ヲ弄シ被告人靜方ニ於テ其ノ頃（六月中旬）手附金名下ニ金二百圓ヲ受取り次デ同月二十五日×
×市×區×町△△公證人役場ニ於テ△△嘉一及被告人繁治間ニ同年七月一日迄ニハ敷金残額ヲ完
納スベク萬一之ニ違背シタルトキハ違約金三百圓ヲ差出ス旨ノ特約ヲ付シタル浴場賃借契約ヲ締
結セシメ同日同所ニ於テ敷金内入金トシテ現金八百圓ヲ交付セシメテ夫々騙取シ同年七月四日被
告人市右衛門方ニ於テ右△△嘉一ニ對シ豫定通り俄然其ノ態度ヲ一變シ金融不調ノ旨ヲ告ゲ同人
ヲシテ敷金完納シ得ザルノ故ヲ以テ前記契約ヲ解除スルノ餘儀ナキニ至ラシメ即時被告人等ハ同
所ニ於テ違約金名下ニ金三百圓ヲ豫テ預リ居ル千圓中ヨリ控除シ此ノ目的ヲ達シタルモノナリ

老舗潰し

（詐欺）

營業權讓渡―老舗料減額―（刑法第二四六條）

被告人等ハ孰レモ湯屋ブローカーナル處

一 被告人〇〇太郎、〇〇三郎、〇龍吉ノ三名ハ△△源一ガ△△文治ヨリ借受ケ營業中ノ××市×區……所在〇之湯ノ老舗ヲ二千圓ニテ賣却シ他ニ其ノ營業權ヲ讓渡セントスル意嚮アルコトヲ聞知スルヤ茲ニ右被告人三名ハ共謀ノ上眞實其ノ約旨ヲ履行スル意思ナキニ不拘之レ有ルガ如ク裝ヒ先ヅ現營業者ト新營業者トノ間ニ現營業者ノ要求通り老舗料ヲ支拂フベキ旨ノ契約ヲ締結シ次デ浴場持主ト現營業者トノ浴場賃貸契約ヲ解除セシメタル後現營業者ヨリ湯屋營業ヲ爲スニ付必須ノ權利書類ヲ騙取シ再ビ同人ガ營業ヲ續ケムトスルモ之ヲ爲シ得ザル窮地ニ陥ラシメタル後遽ニ浴場持主ノ認メザル老舗ハ買取り難シトノ口實ノ下ニ老舗賣買契約ヲ解除スベキニヨリ約旨通り違約金ノ交付アリ度シト申出デ現營業者ヲシテ老舗料ヲ減額シテ該營業權ヲ讓渡スルノ已ムナキニ至ラシムル所謂「老舗潰シ」ト稱スル詐欺ノ方法ニヨリ老舗賣買名下ニ該營業權ヲ取得セムコトヲ企テ浴場ノ持主△△文治ハ右浴場ニ付キテノ老舗賣買ヲ禁ジ居リ之ヲ承諾セザルモノナルコトヲ知悉シ居リ之ヲ祕シ先ヅ昭和七年九月二十二日頃被告人太郎、三郎、龍吉ノ三名ハ金二千圓ヲ醸出スベキ資力ナキ△△重郎ヲ伴ヒ〇之湯ニ赴キ現營業者△△源一ニ對シ右△△重郎ニ於テ〇之湯ノ老舗ヲ金二千圓ニテ買受クル旨ノ老舗賣買契約ヲ爲サシメ

次デ同月二十八日右重郎ヲシテ持主文治ト新ニ〇之湯ノ賃貸借契約ヲ爲サシムルト共ニ十月六日頃源一ヲシテ持主文治ト〇之湯ノ賃貸借契約ヲ解除セシメ置キタル後被告人三名ハ湯屋ブローカーニシテ源一ニ於テ信賴シ居ル被告人爲一ヲ利ヲ以テ誘ヒ被告人等ニ加擔セシメ同日〇之湯ニ於テ被告人爲一ハ源一ガ依然同人ヲ味方ナリト信賴シ居ルニ乗ジ同人ノ味方ヲ裝ヒ源一ニ對シ權利證ハ老舗料ト引換ニ重郎ニ交付スベキモ一時之ヲ自己ニ預ケ置カレ度ク重郎ヨリ老舗料ヲ受領スル迄ハ自己ニ於テ責任ヲ以テ之ヲ保管シ置ク旨申僞リ即時同人ヨリ△△源一名義ノ〇之湯營業許可書及其ノ廢業届各一通ヲ騙取シタル上遽ニ重郎ヲシテ其ノ前言ヲ翻シテ浴場持主ノ認メザル老舗ハ買取り難キニ依リ老舗賣買契約ハ解除スベキヲ以テ約旨ノ通り違約金ノ交付アリ度キ旨申出デシメ既ニ〇之湯ノ賃貸借契約ヲ解除シ且權利書類ヲ失ヒテ再ビ營業ヲ爲ス能ハザル窮地ニ陥レル源一ヲシテ遽ニ老舗料ヲ五百圓ニ減額シ其ノ營業權ヲ讓渡セザルベカラザルニ至ラシメテ該營業權讓渡名義ノ下ニ之ヲ騙取シタルモノナリ

土砂流し

(詐欺)

遺失物—分配—(刑法第二四六條一項)

被告人〇〇燮、〇〇哲兩名ハ共謀ノ上所謂「土砂流シ」ノ方法ニ依リ他ヨリ金品ヲ騙取センコトヲ企テ昭和七年三月五日××市×區××驛ニ於テ偶廣島方面ニ歸ラントシテ同所ニ來合セタル△△敏夫(當二十年)ニ對シ被告人〇〇哲ハ馴レ馴レシク話掛ケ同人ヲ同區……附近街路ニ誘ヒ來リ被告人〇〇燮ハ其ノ前方ニ於テ豫メ用意セシ新聞紙ヲ包ミタルハンカチ包ヲ氣付カレザル様地上ニ落シタル上之ヲ拾ヒ揚ゲ恰モ遺失物ヲ拾ヒタルガ如ク裝ヒ被告人〇〇哲ハ之ヲ見テ何カ拾ヒタルカト尋ネ其ノ中味ヲ調べ金千九百五十圓ノ金包ヲ拾得セルガ如ク見セ掛ケ敏夫ニ對シ之ヲ三人ニテ分配セント申向ケ同人ヲシテ眞實金包ヲ拾得シテ分配スルモノナリト誤信セシメ置キ更ニ拾得金ヲ即時分配スルニ於テハ發覺スルヲ以テ廣島ニ至リテ分配スベク又被告人等ハ相當金員ヲ所持セルモ小錢ナキガ如ク裝ヒ切符等ヲ買フニ付キ金ヲ取替ヘ提出セラレタキ旨申入レ敏夫ヲシテ即時金十三圓ヲ交付セシメ尙其ノ附近ニ於テ言葉巧ミニ右包ヲ敏夫所携ノトランクニ藏メシメスル大金ヲ預クル保證トシテ其ノ代價物ヲ差出スベキ旨申入レ同人ヲシテ所携ノ金側腕卷時計一個(時價十八圓相當)ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シタルモノナリ

盜 電 (電氣事業法違反竝詐欺幫助)

電氣計量器逆廻轉—逆轉器—(電氣事業法第三四條(舊法第一九條)、刑法第二四六條二項、第六二條一項)

被告人ハ××市××區……ニ於テ電氣器具製作業ヲ營ミ居リシモノナルトコロ電氣計量器ニ取付ケ其ノ指針ヲ逆廻轉セシメテ不法ニ電氣料金ノ支拂ヲ免レシムルニ足ル機具ヲ製作販賣センコトヲ決意シ昭和七年六月三日頃ヨリ同年八月下旬ニ至ル迄ノ間八回ニ亙リ犯意ヲ繼續シテ××市××區……〇〇松太郎方其ノ他ニ於テ同人外七名ニ對シ其ノ製作ニ係ル機具ヲ夫々實施試驗ノ上賣却シ同人等ヲシテ之ヲ其ノ頃各數回ニ亙リ電氣事業者タル××電氣株式會社又ハ××市ノ承諾ヲ得ルコトナク濫ニ其ノ同人等住居ニ施設シタル電氣計量器ニ取付ケテ該電氣工作物ノ施設ヲ變更シ因テ右計量器ノ指針ヲ逆廻轉セシメタル後之ヲ右會社又ハ××市ノ檢針員ニ示シ同檢針員ヲシテ該指針ガ眞正ナル使用量ヲ表示スルモノナリト誤信セシメ一キロワット四錢又ハ四錢五厘ノ割合ニ依リ合計約一千キロワットニ對スル料金ノ支拂ヲ不法ニ免ルルニ至ラシメ以テ同人等ノ電氣事業法違反及詐欺ノ各行爲ヲ幫助シタルモノナリ

當座資金詐欺

(詐 欺)

當座取引開始—先日附小切手—日附變造—預金引出(刑法第二四六條三項)

被告人〇〇謙ハ當座取引ノ資金借用名義ノ下ニ金員ヲ騙取センコトヲ企テ昭和四年八月二十二日頃××市××區……ナル株式會社××銀行×××支店××出張所ト豫メ當座取引ノ約定ヲ爲シ翌二十三日同市××區……ナル金融業者△△齋市方ニ到リ同人ニ對シ銀行トノ當座取引ノ資金トシテ約金五千圓ヲ一週間貸與セラレ度ク貸與金完済迄ハ絶對ニ預金ノ拂戻ヲ爲サズ其ノ爲メ銀行ヨリ受クル小切手帳及ビ其ノ取引ニ使用スル印類ハ共ニ貴下ニ差入ルベク唯右借用金返済ノ爲親族ヨリ金融ノ必要上先日附小切手ヲ交付セラレ度キ旨申欺キ同人ヲシテ其旨誤信セシメテ同日右××出張所ニ於テ同人ヲシテ情ヲ知ラザル同出張所員ニ右當座取引ノ資金トシテ現金四千三百圓及額面金一千圓ノ小切手ヲ交付セシメ同所員ヲシテ被告人名義ノ當座預金ニ入金セシメテ之ヲ騙取シタルモノナリ

自

己

(詐 欺)

外交員—他人の玉—(刑法第二四六條二項)

被告人ハ△くらガ昭和六年六月十二日頃△彌三郎ナル名義ヲ以テ××市××區……株式會社××株式取引所取引員△△卯一ニ同取引所新株式二十株ノ短期取引ヲ委託スルニ際シ之ガ仲介ヲ爲シ右くらガ其ノ證據金代用トシテ福島紡績株式會社株式十株券一枚ヲ差入レ居ルヲ奇貨トシ之ヲ利用シテ自己モ亦株式ノ短期取引ヲ爲サンコトヲ企テ同年六月二十七日ヨリ同年七月二十三日迄ノ間前後二十七回ニ亘リ犯意ヲ繼續シテ右くらノ承諾ナキニ拘ラズ前記△△卯一ニ對シ△彌三郎名義ヲ以テ株式會社東京株式取引所新株式鐘ヶ淵紡績株式會社株式及株式會社大阪株式取引所新株式合計三百數十株ノ短期取引ヲ順次委託シ右卯一ヲシテ何レモ△くらヨリノ委託ナリト誤信セシメタル上其都度證據金ノ差入ヲ要求セズシテ同株式ノ短期取引ヲ夫々實行セシメ以テ各證據金ノ差入ヲ免レ不法ノ利得ヲ爲シタルモノナリ

頼 母 子

(詐 欺)

幽霊講員―缺損の穴埋―(刑法第二四六條一項)

被告人ハ大正十四年三月頃ヨリ事實上講主トナリ一定ノ講員ヲ募集シ毎月一定ノ日時場所ニ於テ講會ヲ開キ其ノ各講會毎ニ各講員ヨリ一定ノ掛金ヲ徴收シ其ノ各講會毎ニ抽籤又ハ入札ノ方法ニ依リ一定ノ講金ノ給付ヲ受ケ得ベキ權利者一名宛ヲ決定シ若シ該權利者ガ該講會ニ於テ講金ノ給付ヲ受クルコトヲ欲セザルトキハ未ダ講金ノ給付ヲ受ケタルコトナキ他ノ講員即チ所謂實掛者ニ右權利ヲ讓渡シ得ルコト、爲シ講主タル被告人ハ右掛金ノ集否ニ拘ラズ各講會ニ於ケル講金ノ給付ヲ受ケ得ベキ權利者ニ對シ其ノ各講會ノ日ヨリ十日以内ニ一定ノ講金ヲ給付スル義務アルモノトシ且講主タル被告人ハ講員タル資格ヲ兼テ得ザル講規約ノ下ニ互助講ト稱スル所謂頼母子講ヲ多數發起シ經營シ來リタルモノナルトコロ中途講金ノ給付ヲ受ケタル者即チ所謂空掛者ニシテ其掛戻ヲ爲サザルモノ及實掛者ニシテ退講スルモノ續出シ其ノ掛金ノ徴收額漸次減少シ昭和二年末頃ヨリ其ノ缺損巨額ニ達シ其ノ填補ニ窮シ全講殆ンド潰滅セムトスルニ至リタルト自己ノ生活費ニ窮シタルヨリ茲ニ於テ被告人ハ前記講規約ニ基ケル頼母子講ヲ誠實ニ經營スル意思ナキニ拘

ラズ之アルガ如ク裝ヒ新ニ頼母子講ヲ發起シ各講員ヲ欺キ講金ヲ詐取シテ之ヲ右缺損ノ穴埋メト爲シ且生活費ニ充テ以テ其ノ窮境ヲ脱セムコトヲ企テ

第一、昭和二年十二月ね組六十口一組千圓取頼母子講ヲ發起シテ講員ヲ募集シ一定ノ口數揃ハザルニ拘ラズ完全ニ成立シタル如ク假裝シ加入セル講員等ニ對シ前記講規約ニ基キ誠實ニ頼母子講ヲ經營シ滿會ニ至ル迄支障ナク順次講金ヲ給付スル旨詐リ申向ケ講員等ヲシテ之ヲ誤信セシメ因テ

- (一) 昭和二年十二月二十六日頃××市××區……△芳五郎方其ノ他ニ於テ講員△△作二郎外五十四名ヨリ其ノ第一回講會ノ掛金合計千二百十圓ヲ取立テ
- (二) 昭和三年一月十六日頃右△芳五郎其ノ他ニ於テ講員△△松之助外五十三名ヨリ其ノ第二回講會ノ掛金合計八百六十九圓四十錢ヲ取立テ

(中 略)

- (三) 同年六月十六日頃右△芳五郎方其ノ他ニ於テ講員△△恒房外四十三名ヨリ其ノ第十九回講會ノ掛金合計九百十五圓二十錢ヲ取立テ各騙取シ(以下省略)

【第五輯 賭博詐欺】

賽 本 引 (賭博場開張、同幫助、常習賭博)

開張者—合カ—シキ—見張—札書キ—客—(刑法第一八六條二項、第六二條一項、第一八六條一項)

第一 被告人〇〇豐吉〇〇歌吉ハ共謀ノ上昭和二年十二月頃ヨリ昭和三年八月頃ニ至ル迄ノ間毎月五日、十日、十五日、二十日、二十五日及三十日ヲ除ク其ノ他殆ンド連日××市××區××町五番地〇〇藤次郎方及〇〇安吉方等ニ於テ賭博場ヲ開帳シ〇〇豐三郎外數十名ノ者等ヲシテ骨子骨牌ヲ使用シ金錢ヲ賭シ俗ニ「賽本引」ト稱スル賭博ヲ爲サシメ賭者ヨリ寺錢ヲ徵收シテ利ヲ圖リ

第二、被告人〇〇豐三郎、〇〇種吉、〇〇梅吉、〇〇安吉、〇〇藤次郎、〇〇耕三郎ハ孰レモ〇〇豐吉、〇〇留吉等ガ賭博場ヲ開帳シテ寺錢ヲ徵收スルノ事情ヲ知リナガラ

(一) 被告人〇〇豐三郎〇〇種吉ハ各前記第一ノ日時場所ニ於テ數回ニ亙リ賭博場ニ在リテ寺錢

徵收等ノ任ニ當リ所謂「合カ」ヲ爲シ

(二) 被告人〇〇安吉〇〇藤次郎ハ各前記第一ノ日時場所ニ於テ數回ニ亙リ夫々自宅ヲ賭房ニ供與シ

(三) 被告人〇〇梅吉ハ前記第一ノ日時場所ニ於テ數回ニ亙リ見張ヲ爲シ

(四) 被告人〇〇耕三郎ハ昭和二年十二月頃ヨリ昭和三年九月上旬頃ニ至ル迄ノ間殆ンド連日ニ亙リ同町六十七番地〇〇豐吉方等ニ於テ前掲賭博ニ用フル骨牌ヲ製作シ以テ孰レモ右〇〇豐吉〇〇歌吉等ノ本件犯行ヲ幫助シ

第三 被告人〇〇留吉〇〇豐三郎ハ各昭和二年十二月頃ヨリ昭和三年十月中頃ニ至ル迄ノ間數回ニ亙リ、〇〇歌吉ハ昭和二年十二月頃ヨリ昭和三年八月頃ニ至ル迄ノ間數回ニ亙リ、被告人〇〇種吉〇〇安太郎ハ各昭和三年六七月ヨリ同年十月中頃ニ至ル迄ノ間數回ニ亙リ孰レモ前掲賭博場ニ於テ各自外數名ノ者ト共ニ骨子骨牌ヲ使用シ金錢ヲ賭シ俗ニ「賽本引」ト稱スル賭博ヲ常習トシテ爲シタルモノナリ

チーハー (常習賭博、同幫助、犯人隠避)

胴元―蟻走―下蟻走―見張―身替り―(刑法第一八六條一項、第六條一項、第一〇三條)

第一 被告人等ハ孰レモ賭博常習者ナル處

(一) 被告人〇〇幸三郎ハ昭和七年五月十日頃ヨリ同年七月四日ニ至ル間同年六月十三日及同月二十六日ノ兩日ヲ除ク外連日×區……△△清一方及同區……△△奈良松方ヲ勘定場トシ、同所ニ於テ自ラ胴元トナリ〇〇熊吉〇〇兼三郎外數名ヲ所謂蟻走トシ、同人等ヲシテ△△△又ハ××市内多數ノ賭者ヲ勸誘セシメタル上賭者ニ俗ニ罫ト稱スル三十五種ノ文字ヲ印刷シタル張紙ヲ配布セシメ各賭者ニ於テ任意ノ罫ヲ指定シ之ニ金錢ヲ賭シタル張紙及賭金ヲ前記勘定場ニ於テ右蟻走ヲ介シテ交付ヲ受ケ該罫ガ胴元タル自己ニ於テ豫メ祕ニ選定シタル罫ト合致シタルトキハ賭者ノ勝トナシ蟻走ヲ介シテ賭金額二十七倍ノ金員ヲ賭者ニ交付シ然ラザルトキハ賭者ノ敗トナシ自己ニ於テ賭金ヲ取得スル方法ニヨリ勝負ヲ決スル俗ニ「チーハー」ト稱スル博奕ヲ爲シ

(二) 被告人〇〇喜三郎〇〇覺治ハ〇〇幸三郎ノ乾兒ナル處同人ガ前記ノ如ク賭博ヲ爲シタル際ニ喜三郎ハ同月二十日過頃前記△△奈良松方表ニ於テ覺治ハ同年五月十日頃ヨリ七月四日ニ至ル間前記△△清一方竝△△奈良松方附近ニ於テ何レモ見張ヲ爲シ以テ幸三郎等ノ犯行ヲ容易ナラシメテ幫助シ

(三) 被告人〇〇熊吉〇〇兼三郎兩名ハ前記ノ如ク蟻走トナリ熊吉ハ同年五月二十日頃ヨリ兼三郎ハ同年六月中頃ヨリ何レモ同年七月四日ニ至ル間××市内ニ於テ熊吉ハ〇〇つる等兼三郎ハ〇〇平三等ノ多數ノ賭者ヲ勸誘シ胴元幸三郎ト賭者トノ間ニ介在シ張紙及賭金ノ授受ヲ爲シ以テ右幸三郎等ノ犯行ヲ容易ナラシメテ幫助シ

(四) 被告人〇德三郎ハ

イ 〇〇熊吉ノ下蟻走トナリ同年六月十日頃ヨリ七月初頃ニ至ル間數十回ニ亙リ×區……自宅ニ於テ賭者△△松太郎外數名ト胴元幸三郎トノ間ニ介在シ熊吉ヲ介シテ張紙及賭金ヲ授受シ以テ幸三郎等ノ犯行ヲ容易ナラシメテ幫助シ

ロ 同年五月二十日頃ヨリ七月四日ニ至ル間自ラ賭者トナリ四十數回ニ亙リ金錢ヲ賭シ前記(一)記載ノ方法ニ依リ博奕ヲ爲シ

(中 略)

第二 被告人〇〇喜三郎ハ前記チーハー賭博ノ胴元ハ被告人〇〇幸三郎ニシテ其官ニ發覺スル時
ハ同人ガ懲役刑ニ處セラルベキ事ヲ知り乍ラ自ラ幸三郎ノ「身代リ」トナリ幸三郎ヲシテ處罰
ヲ免レシメンガ爲同年八月十六日××府××警察署ニ於テ警部補×××ノ取調ニ對シ「右胴
元ハ自分ニシテ幸三郎ニ非ザル」旨虚偽ノ陳述ヲ爲シ胴元ノ眞犯人ノ檢舉ヲ妨ゲ以テ之ヲ隱避
シタルモノナリ

三十丁張

(取引所法違反)

差金授受—(取引所法第三二條ノ五)

被告人等ハ昭和五年六月十七日××市××區××町被告人ヤエ方居宅ニ於テ取引所ニ依ラズシテ×
×××米穀取引所ノ同日前場第五節ノ米一石ノ相場二十七圓九十五錢ヲ標準トシテ三十錢ノ高低
ヲ限度トシ差金ノ授受ヲ目的トスル俗ニ「三十丁張」ト稱スル空米相場ヲ爲シタルモノナリ

コ

キ

(賭博)

賭金全部ノ得喪—(刑法第一八五條)

被告人等ハ昭和七年一月十五日××市××區××通一丁目三十七番地先街路ニ於テ被告人〇〇藤
吉ハ賣方トナリ被告人〇〇ヨネハ買方トナリ各自金十五圓ヲ賭シ同日××××米穀取引所ノ前場
第八節先物値段金二十四圓六十五錢ヲ標準トシテ同取引所ニ於ケル其ノ後ノ右値段ガ前記標準値
段ヨリ金三十錢下落シタル場合ハ賣方ノ勝トナリテ被告人〇〇藤吉ハ前記賭金ノ全部ヲ取得スル
コトトナリ之ト反對ニ右標準値段ヨリ金三十錢騰貴セル場合ハ買方ノ勝トナリテ被告人〇〇ヨネ
ガ前記賭金ノ全部ヲ取得スル方法ニテ俗ニ「コキ」ト稱スル賭博ヲ爲シタルモノナリ

赤

黒

(詐欺)

真打—サクラ—見張—(刑法第二四六條一項)

被告人六名ハ共謀ノ上俗ニ「赤黒」ト稱シテ「真打」「サクラ」及「見張」ノ各擔當者ヲ定メ「見張」ハ
官憲ノ檢舉其ノ他犯罪遂行ニ對スル妨害排除ノ行爲ヲ擔當シ「サクラ」ハ客即チ被害者ノ一人ナル